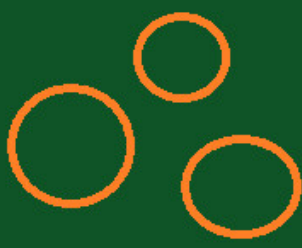


ものみダイからの
ケイザイガク



エイゾウ

目次

ものみダイからのケイザイガク
エイゾウ

はじめに

わたしは、これまでにななサツホンをだした。ロクサツはズイヒツで、イッサツは、ブツリガクっぽい（わたしは、ガツカイトウにショゾクしていないので。）ホンである。このイッサツは、ロクサツからバツスイしてコウセイした。ホンチョは、これがケイザイガクでもできないかとおもい、やはりロクサツからバツスイしてコウセイした（やはり、ガツカイトウにはゾクしていない。）。

キホンテキに、インヨウはしていない。カッターリュウのケイザイガクである（それをなのおっていいのかというモンダイはある。）シャカイシュギケイザイはシツパイしただろうが、シホンシュギケイザイもセイコウしたというわけではない。ただ、イッポウよりながいだけだ。「デフレ」のモンダイは、シホンシュギケイザイにつきまどっている。それを「キンユウカンワ」でのりきろうとするのが、いまフウであるが、ショミンのセイカツがくるしくなる。このホンで、このこたえはだしていないが、ひとつのシュダイである。そのうちでもこたえがみえればいいとおもう。

イチ『アルクカラ カンガエル（イカ、『ア』）』ゴジュウヨン

フンをうみにながせば、うみにシゲンというかがたまる。ハイセツブツ といったって、こしたあとのショクブツ、ドウブツセイブンだから。ま、それをうみにながしている。ま、すくなくともかわにはながしている。だからうみにも みたいなのがハッセイしたりするんだろう。

むかしみたいにはたけにまけば、わりとちかいところで ジュンカンする。でもスイセンベンジョは やめにくいだろう。ショクブツだけなら はたけとジブンとで ジュンカンするだけだ。ムダがないからヒリョウも そんなにいらないだろう。

ニ『ア』ロクジュウゴ

マルクスはなにをのこしたか。キョウサンシュギコクとだれかがいうかもしれないが、わたしにとってはそうでない。いや、それもあつた。ケツキョク、シホンカがつよいのはしょうがない。ロウドウシャは はたらいてかねをてにする。だったら、ウンドウするジカンをけずって かねをてにしたほうがよいのではないかと。つまり、はやいものがちだと。だから、すぐにやらなければならない。

たしかに ウンドウをして タシヨウチンギンはあがるかもしれないが、そのためについて やすジカンは、そのジカンはたらいていたら どのくらい かせげたかをかんがえるとどうなのかと。ケツキョクシホンカがはらったりするんだらうけど そのキギョウはシキンテキによわる。それはロウドウシャにとってどうなのか。ソレンのようにセイコウした、する、かもしれないが、キョウソウではうまくなかった。いいコウエキができないとなれば、その、シホンカ、キギョウはよわっていく。それだったら、すぐにしごとをしろと。そういう、マルクスのキョウクンはいかしたい。

キョクロンすると、ハンセイするまもないのだ。だから、コンサルタントなんだ。コンサルタントになりたきゃケンキュウするといひ。でも、ゲンバがダイジじゃないかと。それに、そのしごとのセンクシャもいる。レキシのケンキュウをしているようじゃニリュウだと。シュウエキを あげられるんならいいですが。

サン『ア』ハチジュウ

エイキョウリョクのあるひとが、やすくて いいものをたべていたら、まねとかして そのやすくて いいショクリョウはタイリョウにショウヒされるかもしれない。

だから、たべものを ショウカイするテレビばんぐみでは、ジュウヨウなショクリョウでなく、チュウカメン とかパン とかを シュザイするんだらうとおもってしまう。ヨウするに、チュウカメンとか パンはしなぎれしてもいいと、シュザイするひとはかんがえているが、タブン、やきニクは しなぎれしては まずいとおもっているのでは。

そういえば、ナナジュウネンイジョウまえのセンソウは、ニホンジンが ギュウニクをたべはじめたからタイヘンだったという「すきやきセンソウ」ともいえるかもしれない。カチクをきりくずすっていうのは ショミンにとってのセンソウである。さかなくって りゃいいのにおもってしまう。そういうセンソウがおこってはたまらない。だからといって まったくニクをたべないのはむずかしい。でも、そういう、ううしい とか、うまいはモンダイだと。うしはノウギョウとか、うまはイドウにとかにやくにたつ。だから、「ぎよい(しい)」がいいか。

よん『ア』ヒャクニジュウハチ

センシンコクビョウ (●『ア』サン) とはセンシンコクにおける、トウルイ (さとうなど) のケツボウである。どうしてもみなみにむきがちだ (トウルイがとれるから)。さらに、ネンリョウももとめたりする。そういうシゲンをめぐる あらそったり。うまくセツヤクしながらやっていけばいいが。

ゴ『ア』ヒャクゴジュウサン

マルクスはシホンカによる「サクシュ」があるといったらしい。その「サクシュ」をふせぐためにレンタイするのは、タブン ソレンのがんばりからもたしかなんだろう。しかし、ロウドウシャがすぐにでもシホンカに なるかといったらむずかしい。それはそういう、かねをウンヨウするドリョク とかについて シホンカのホウがはやくとりくみはじめたからだ。だから、シホンカがロウドウシャになるのもむずかしい。それは、ロウドウするドリョクはすでにロウドウしている ロウドウシャのホウがはやくとりくんでいるからだ。ケツキョク、マルクスとそのエイキョウがあったひとたちは なにをしめたかという、「はやくドリョクしたひと」が ほかのそうでないひとよりもユウリである。ということではないだろうか (●ニ『ア』ロクジュウゴ、『ア』キュウジュウ)。わたしは それをマルクスのキョウクンとよんでいる。

ロク『ア』ヒャクゴジュウロク

「ショウヒシャ」ということばがあるが、「ロウドウシャ」とか「シツギョウシャ」のしたに「ショウヒドレイ」カイキョウがあるようにおもう。わかりやすいレイでいえばアルチュウとか。さけのショウヒを やめられず、また、ドをこしてさけをかってシャッキンつくるとか。ほかのものでもそうだ。そういう「ショウヒドレイ」カイキョウにはならないようにしたい。シツギョウシャは さらにシツギョウしないが、そういうカイキョウにおちるかもしれない。

なな『ア』ヒャクロクジュウイチ

しゃべるはやさがはやいホウがしごとがはかどっているといえないか。セツメイなんかも、しゃべるはやさがニバイなら、ニブンのイチのジカンですみ、ほかのしごとができる。ながいといわれるカイギもサンバイのはやさのしゃべりなら、サンブンのイチのジカンでおわる。それなのになぜ ガッコウに、ニバイソクコースとかサンバイソクコースがないか。おしえられるひとが いないのかもしれない。

ハチ『ア』ヒャクキュウジュウゴ

ニホンジンは「チョウジュ」といわれているが、ショクリョウのジキュウリツは ヨンジュッパーセント。カンサンするとハチジュウネンいきたひとの ヨンジュウハッサイブンは、ユニウということになる。だから、なんかのリウでショクリョウユニウがテイシされると、ニホンジンのジュミョウはサンジュウニサイにちかづいていく。それならユニウにたよらずになんかがあまりうまくいっていないようだ。キカイものをうって、「ジュミョウ」をてにいれるなんてまるでレンキンジュツだ。

キュウ『ア』ニヒャクジュウニ

わたしは、「シホンシュギ」というのは、それぞれのオーナーが、「わるいやつ」からザイサンをまもるためにいろいろなクフウをしていこうとするかんがえとおもっているが、そのひとつのレイとしてき（くだものなる）のケイタイがある。「わるいやつ」は、「はしご」をもっていないので、「くだもの」とれないというソウテイである。くだものはたかいところになり、みきのしたのホウはえだがない。そういうケイタイが おおいとおもう（●『ア』ニジュウキュウ）。きがさきか、シホンシュギがさきかはわからない。それをわたしは「シホンシュギのケイタイ」とよぶ。そのシホンシュギのケイタイにニホンのネンレイベツジンコウコウサイズがにている。いってみれば、ショウシコウレイカはシホンシュギだからしかたない、といえる（しかしあるカンサツでは、したのホウがさかえることもカノウなようだ。ただ、ニンゲンが あたらしい「シホンシュギ」のケイタイになれるヒツヨウが ありそうだが。）。つまり うえのホウがさかえているのだ。ま、わかいひとのカンシンは、「み」がおちてくるかというところだろうか。

ジュウ『ア』ニヒャクニジュウゴ

けさ、ジーディーピーをカンサツしたら、あまりうごいていなかった。ヨジごろよりもゴジごろのホウがうごいておもう（イゼンのカンサツより）。やっぱりニツチュウがおおいのか、いや、ヤカンのホウがコウソクにうごけるし、つまりうごけるからシンヤによくジーディーピーはうごいていないだろうか。しかし、ショウケンなどはニツチュウにうごくから そういうのはニツチュウだ。

ジュウイチ『ア』ニヒャクサンジュウイチ

ドウロがあったほうがジーディーピーは はやくうごける（●ジュウ『ア』ニヒャクニジュウゴ）。だからニホンも やたらドウロをつくったんだろう。でも トシコッカならばこぶキヨリが みじかいからジーディーピーも はやくジョウショウする。だから もっともひとりあたりジーディーピーがたかいのはかねもちのカテイとか、よくあるフウにい

えばトシコッカなんだろう。だからトシコッカとくらべて ひくいとか あまりきにする
ことはないとおもうが。なんなら メンセキヒをくわえてサイケイサンするといひ。

ジュウニ『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ (イカ、『む』)』 ヨンジュウ

「あたらしいシホンシュギ」というのもあるのだろう (ジツはふるい「シホンシュギ」か
もしれない)。ある「(みどりのはっぱをもつ) き」がおしえてくれた。しかし、ニンゲン
が (わたしが) そのあたらしいシホンシュギになれないために、むかしながらの (イッ
パンテキな) シホンシュギにあうようにチョウセイしようとしたりする (●キュウ『ア』
ニヒャクジュウニ、『ア』ニジュウキュウ)。

「あたらしい シホンシュギ」とはなんだろう。としよりが かねをもつというのはかわら
ないが、ちいさいこどももゲンキというかんじのものだ。としをとると ネンキンがもら
えてさらにゆたかになる というのは セイドをかえないかぎりかわらないが、ちいさいこ
どもが こづかいをもらってかそれなりにハンエイするというものだ。たしかに「こども
てあて」というのはある。そういうのをつかって、こどもがジブンのポケットマネーで
ガクヒをはらったり、ショクヒをはらったりということもそうかもしれない。ただ、ニ
ホンジンのばあい、あまりこどもをダイジにしないブンカがあるらしいから、むずかし
いだろう。

ジュウサン『む』 ヨンジュウサン

コウジョウなんかではニジュウヨジカンソウギョウをしている。なぜはじめたかはセイ
カクにはわからないが、コキヤクにはやくセイヒンをとどけたいからとかキカイをレン
ゾクでつかいつづけたいからとかなんだろう。そうするとシンヤにはたらく ニンゲンも
ヒツヨウになる。そういうひとがいないとニジュウヨジカンソウギョウはなりたたない。
ショウテンもニジュウヨジカンエイギョウをしていたりする。いつでも かいにいけるの
でベンリだ。しかし、なぜニジュウヨジカンガッコウがないのか。ニジュウヨジカンソ
ウギョウやニジュウヨジカンエイギョウのキギョウではたらくロウドウシャがいるはず
なのに。かんがえてみれば、シンヤにあつまるショウニンズウをあいてにジュギョウを
やるのはヒコウリツである。だからそういうジュヨウは、オンライン (ツウシン) がみ
たすのであろう。

ジュウよん『む』 ヨンジュウキュウ

キュウジュウネンダイ、レイネンダイに「セルフサーブ」のみせがふえてきた。ちょっ
としたショクドウにはいるといくらかでのみものを「セルフサーブ」することができる
というメニューをえらべることがおおくなった。「セルフサーブ」によりテンインのロウ

リョクがへり、カカクもやすくおさえられるのだろう。そのメニューがはじまるまえよりイッパイのカカクはやすくなったとおもう。ただ、テンインにもってきてもらいたいときもあるので、センタクできるといいとおもう。

カテイでだすごみのブンベツも「セルフサーブ」になった。ゴミシヨリヒがやすくなったというのはなしはきかないが、そのブンやすくなっているのだろう。(ロウゴの)ネンキンなんかも「セルフサーブ」にしたらうけとるブンがふえるか、ギョウセイのヒョウがへるかもしれない(カクテイキョシュツガタのネンキンがあるが)。イリョウホケンもそうだ。ただ、ロウドウリョクかおかねをださなきゃならないが。

ジュウゴ『む』ロクジュウシチ

たしざんってというのはカンタンなようにおもえるが、それは、どこかでひきざんがなりたっていないとフカノウだ。たとえば、ニヒャクエンのさかなをキヤクにうるとなると、「さかな」イッピキがひきざんされてかわりにニヒャクエンをうけとるわけだ。さかなはムゲンにあるようだが、やっぱりエサとかシゲンにかずがサユウされる。ジブンのこづかいをひきざんするというのはつらいが、ベツのものをたしざんするためにしかたなかったりする。

ジュウロク『む』ナナジュウヨン

なぜガッシュウコクのひとたちが「ショウヒ」のケンインヤクとされるのか。それはタブンガッシュウコクのひとのいえがおおきいからである(ここではブツリテキにおおきいといっている)。だから、ガッシュウコクのひととくらべてニホンジンのショウヒがすくない(ショウヒがのびなやんでいる)というのはやむをえないことだろうとおもう。ニホンジンのいえは「ちいさい」といわれるし、いえのおおきさのハンイでしかもものはシュウノウできないからだ。そういうわけだから、「ものがうれない」というのをなげくのだったら、「おおきな」いえをたてることにキョウリョクしたホウがいい。

ジュウなな『む』ヒャクニ

「フケイキ」といわれるようになると、「ケイキタイサク」なんていわれはじめる。それでグタイテキになにをするかはよくわからないが、なにかにかねをつかうのだろうとおもう。セイジカの「トッケン」である「キセイカンワ」をしたというのはなしはきかないからだ。ただ、それはケツカをもとめる(られる)のでコウカテキにつかわれるのだとおもう。

その「コウカ」をはかるのはなにかというと、カクシュトウケイのスウジや、「ケイキ」というブンガクテキともおもわれるカンネンのチョウサででるスウジだろう。ただ、「ケ

イキタイサク」というと、やっぱり、「ケイキ」のチョウサででるスウジがダイジになってくるのだろう。だから、そのチョウサに カイトウするダンタイや コジンにかねをばらまけば、「ケイキ」はうわむくだろう。そういうチョウサをでたらめにえらんだ ダンタイや コジンにやっているなら、ホントの「ケイキ」がハンエイされたものにちかくなるのだろうが、チョウサするダンタイや コジンがコテイしているとする、「ケイキ」がよくなったというケッカをしめすためには、そこにかねをつぎこむしかない。そうすれば、「[ケイキ]はうわむいた」とカイトウされるからである。それをヒハンテキなひとは「リケン」とよぶであろうが。

ジュウハチ『む』ヒャクハチ

このまえドウロコウジをしているのをみかけた。タブン、ギョウセイがフタンするのであろう。たしかにジーディピーをあげるためにはドウロはヒツヨウだ（●ジュウイチ『ア』ニヒャクサンジュウイチ、ジュウ『ア』ニヒャクニジュウゴ）。ドウロを いいジョウタイにしておけば、ジーディピーは あがりやすい（なぜならショウヒンがはやくとどき、とりひきがカソクされるからだ）。でも、デンシツウシンにゼイキンをトウニューしたとはきかないから、ギョウセイはゲンブツシュギなのだろう。やっぱりいまではとりひきに デンシツウシンをつかうから、それをエンカツにおこなえるようにすれば、ゲンブツのうごきはともかくジーディピーはあがる。まあ、ゲンブツがダイジだからいいが。

ジュウキュウ『む』ヒャクジュウイチ

きょうもジーディピーがうごく（●ジュウハチ『む』ヒャクハチ、ジュウイチ『ア』ニヒャクサンジュウイチ、ジュウ『ア』ニヒャクニジュウゴ）。なんでもジーディピーをニワリゾウカさせようというのがセイフのモクヒョウらしい。ということは、いままでよりもニジュッパースント うごかすソクドをあげて、あいたジカンで やっぱりやりとりすれば ジーディピーはあがる。ただ、ヨユウができて、やりとりするとはかぎらない。チョククするというセンタクシがあるからだ。

じゃ、ジーディピーは あがらないのか。ひとつホウホウがある。ツウカにショウヒキゲンをつけてしまうのである。そうするとつかうしかないの、ジーディピーはあがるとおもわれる。ただ、そうすると、ショウヒキゲンがないツウカにかえてつかいはじめるだろうからコウカはゲンテイテキだ。やっぱり、ニジュッパースントおおくはたらかなければなのだろうか。

ニジュウ『む』ヒャクジュウサン

ニホンはずのモンダイを かかえているといえる。みずブソクだからそういうかという

とたしかにそれもあるのだが、いわゆる みずブソクはヘンドウする。そういうことでなくて、コウゾウテキなみずブソクである。それは、ショクリョウのユニユウにあらわれている。

ショクリョウジキュウリツがちいさくなったとってたびたびはなしになる（●『ア』ヒャクロク）。ジキュウリツをおおきくするにはノウギョウをするようだ。しかし、みずブソクであればノウギョウはできない。だから ゲンジョウでは そうカンタンにジキュウリツはカイゼンしない。つまり、すでにショクリョウをユニユウしなければならないほどの コウゾウテキなみずブソクなのである（みずをユニユウしているとかんがえてよい）。だから、みずの ジョウズなりヨウをしないと ジキュウリツがあがらないし、ショクリョウのセイサンがガイコクだのみになる。だから、みずをジョウズにつかうのはダイジなのだ。

ニジュウイチ『む』ヒャクニジュウイチ

ジユウボウエキジョウヤク（サイキンはエフティエーということがおおいようだが〔フリートレード トリーティである〕）などにノウカはギモンをもっているのだろう。たしかにカンゼイがなければ、そのしなものがやすくてにはいる。しかしながら、カイガイからはいつてくるやすいノウサンブツにおされて ノウカが ダゲキをうけていいのかともいえる。カイガイから ノウサンブツをユニユウして、コクナイでつくったコウギョウセイヒンを ユシュツしていればいいというかんがえかたもある（ショウヒンサクモツをタリョウにつくって、ショクヨウのサクモツをすこししかつくらないのはよくないとわたしがちいさいころにおそわったことがある。）。なんかのリユウでユニユウができなくなったらうえじにである。

むかし、あぶらをもとめて ニホンゲン は トウナンアジアにシンコウした。セキユがサンシュツされるからだ。セキユがないとふねがうごかない。コウクウキもうごかない。だからセンソウをするときめたら、ただちに セキユをもとめて ナンシンした。なぜナンシンせざるを えなかったか。それは オウベイが ニホンへのユシュツキンシソチをとったからだ。それとおなじように、ショクリョウのユニユウがとまれば、ニホンジンはまたセキユのとときとドウヨウに、にしなり みなみなりにシンシュツするようになりかねない。

まえのセンソウでは、オウベイジンや シンシュツサキのヘイシがたまをうってニホンジンをコウタイさせようとした。しかし、ショクリョウがフソクのばあいはニホンジンをたおすには「たま」はいらない。ただくにやジンチをかたくもっていれば、そのうちニホンジンはうえてたおれていくのだ。ギャクに せめこまれても うえがあってはまもりきれない。ショクリョウジキュウリツ（●ニジュウ『む』ヒャクジュウサン、『ア』ヒャクロク）がヨンわりといわれている。だからゲンジョウでは、そういうジョウキョウになってもヨンわりは いきのこる。それでも、コクナイセイサンをギセイにしてユニユウしろというのか。むかしは まかなえていたはずである。

ニジュウニ『む』ヒャクニジュウニ

ケイザイのことをかたるとき、とめるものから まずしいものにと「とみ」がこぼれる ということをいう。それは なくはないとおもうがむずかしいとおもう。ゲームセンターに コインをいれて、そのコインのアツリヨクで ほかのコインをおとしよりおおくのコイン をカクトクするというゲームをゴゾンジだろうか。なかにはジョウズな（トウシガクより もカクトクガクのホウがおおい）ひともしらっしゃるだろう。だが、タイテイのひとは、 トウシガクのホウが、カクトクガクよりもおおきくなってしまう。

ジッサイのゲームでそうなんだから、「とみ」がこぼれることをキタイしても、「とみ」 のイチブがとどくまえに おおかたの「とみ」はだれかにぬかれてしまうのだろう。あの ゲームは ニンゲンシャカイのホンシツを おしえてくれたとおもう。ほかにケイヒンをつりあげるゲームもあった。やっぱり これも「とみ」がぬかれるようだ。だから「さかなつり」のホウがいいかといえば、「ギョギョウケン」がどうのとやっぱりぬかれるのである。

ニジュウサン『む』ヒャクサンジュウイチ

ゴリンチュウだから、ニホンジンセンシユがとったメダルのかずをホウコクしていたり する。くにベツでみると、やはりアメリカガッシュウコクが もっとも とったメダルのかずがおおい。これはわかるようなきがする。タイコクだから。そしてチュウゴクもおおい。これもタイコクになってきたからわかる。ジーディピーでいうと このニコクのつぎはニホンがあらわれるはずである。しかし、メダルのかずではエイコクがあらわれ、さらに ほかのくにがニ、サンあらわれる。ジーディピーは つまるところニンゲンのロウドウだから（サイキンはキカイや コンピューターがふえているだろうが）、ジーディピーが たかいほどいいしごとをしているはずである。だから、ゴリンでも ニホンのセンシユはカツヤクしそうなものだ。でも、なぜゴリンでとったメダルのかずがゴイイカなのか。それは、ニホンのホントウのジーディピーがホウコクされているスウジよりすくないからではないか。くわしくいうと、ニホンのホントウのジーディピーはホウコクされているハンブンのスウジテイドで、あとのハンブンは、おかねをひだりからみぎにながして ムリヤリスウジをあげているのではないかと。そんなだから、ケイキタイサクをしないとスウジがひどくおちてしまうので それをやめられないのではないか。たてもはやドウロをつくるのではなく、ジツはおかねをひだりから みぎにまわすことが ジーディピーをあげるためカンゲイされているのかもしれない。かりに エイコクのジーディピーがコウヒョウされたスウジよりおおきいとしても、エイコクジンはよくはたらき、ニホンジンは エイコクジンよりは はたらかないか タンにニホンジンのウンドウノウリヨクが ひくいといえそうだ。

「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないから「ビンボウ」なのか、「ビンボウ」だから「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないのかわからない。イッパンテキには「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないことと「ビンボウ」なのはカンレン（ヒレイ）するだろう。しかし、これらのどちらがさきにハッセイするのはあまりセツメイされない。

あるひとは「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないから「ビンボウ」というだろうし、あるひとは、「ビンボウ」はつぎのセダイにケイショウされる（つまり「ビンボウニン」は「ビンボウ」のまま）という。だから、「ビンボウ」をカイケツするために、「キュウリョウ」をあげようというはなしはよくきく。そうすると、「キュウリョウ」があがったから「ビンボウ」ではないというロジックだ。しかし、「ビンボウ」だから「ロウドウジカン」がすくなく「キュウリョウ」がすくないといういいかたはあまりしないし、「キュウリョウ」をあげずに「ビンボウ」をカイケツするようなはなしはあまりきかない。

わたしがおもうのは、「ビンボウ」なひとは ショクセイカツがまずしくながいロウドウジカンに タイオウできずにいて、したがってキュウリョウがすくなくなってしまうというジョウキョウがハッセイしているのではないかということ。それをカイケツするのは ショクセイカツをカイゼンするのがいいが、「キュウリョウ」がすくないと、ほかのセイカツヒもあるから、なかなかカイゼンしにくい。だから、「ビンボウ」と「キュウリョウ」がすくないというアクジュンカンがハッセイしてしまう。そこに「キュウリョウ」をあげるようなジョウキョウをつくると、「ビンボウ」なひとの ショクセイカツがカイゼンされるカノウセイがでてくる。しかし、そのあがったブンをテレビコウニユウにつかってしまうと、ショクセイカツはカイゼンされない。だからまた「ロウドウジカン」がすくないままになる。そうすると、そのひとをコヨウしているキギョウのフタンだけがふえる。それがわるいようにつづけば、キギョウのギョウセキがアッカして、サイアクのばあい トウサンしたり、ジンインサクゲンにふみきって、そのひとは カイコされるかもしれない。それではその「ビンボウ」なひとはさらに「ビンボウ」になってしまう。だから、キュウリョウがあがったブンをそのひとの ショクセイカツのカイゼンにつかわれるのなら（ショクセイカツのカイゼン、ロウドウジカンのエンチョウ、キュウリョウのジョウショウと）「ビンボウ」なひとの「ビンボウ」のカイゼンにやくだつが、ほかのなにかにつかってしまうようだとキギョウのフタンばかりがふえる。だから、ひとのリョウシンやリョウシキをしんじないのだったら、タンジュンに「キュウリョウ」をあげるのは さけるべきだろう。

「ビンボウ」なひとは「ビンボウ」なままといういいかたもあるが、ニホンジンには センソウにまけて あまりゆたかでないジョウキョウからセンゴシュツパツした。かならずしも「ユウフク」になったとはいえないだろうが、それなりにセイチョウしたといわれる。チュウゴクも「ゆたか」になってきているという。だから、「ビンボウ」をカイゼンするのは、やりかたをまちがえなければ カノウだとおもう。

ニジュウゴ『む』ヒャクサンジュウキュウ

なぜサバクがあるか。ネンリョウなどに きを きりだしてつかい、それがテツテイテキにおこなわれ、サバクカしたともいわれる。サバクになってしまったら、そこにすむことはコンナンだ。いってしまえばカイシャのトウサンみたいなものだ。そのトウサンしたカイシャをたてなおすのは むずかしい。そのカイシャを てばなして ベツのところとうつりすんだりするだろう。しかし、そんなことばかり やっていたらトウサンしたカイシャばかりになってしまう。だから、みどりがたもてるようにセイカツするのがただしいだろう。また、みどりをサイセイできるならしたホウがいい。

ケイザイが コウチョウかどうかをみるとき、ジーディピーやシツギョウリツばかりをみるのではなく、そうしたメンをみるのもダイジだろう。いってみれば、イチジテキなセイサンリョクをみるのではなく、チョウキテキなケイザイリョクをみるわけだ。サバクカがシンコウしているとあれば、もうそのくにはもたないだろうなどと。

ニジュウロク『む』ヒャクヨンジュウヨン

ジンルイシのショキには「アイ」はなかったようにもおもう。「アイ」がなかったというよりも、「アイ」というコンセプトがなかったんだらう。「アイ」があればセンソウはおきないかもしれないが、レキシをみると たびたびセンソウがおこっている。トクに、ニジュツセイキのセンソウはおおきかった。だから セカイタイセンなどとよばれる。じゃあニジュツセイキのひとは「アイ」がすくなかったのか。ヘイワなジダイにくらべて「アイ」がすくなかったかもしれない。なぜニジュツセイキのひとは「アイ」がすくなかったのか。ジンルイやジンルイの「アイ」は シンポしてもよさそうである。

ひとついえそうなことは、「アイ」を「かね」にかえるようになったのではないかということ。いってみればシホンシュギのヘンカである。ウェーバー（ドイツのシャカイガクシャ）さんはキンヨクテキにはたらく キリストキョウのカイカクハがシホンシュギをハッタツさせたといったが、そのケツカは たしかにシホンシュギをハッタツさせたかかもしれないが、そのひとたちが くらすくにはショクミンチをもつようになった（ていた）。そこからゴウインなサクシュもしただらう。それなら、キンヨクテキなひとはたらきというよりも、カクトクした ショクミンチのとみがシホンシュギをゆたかなものにしたんだらう。サクシュがあるようなケイザイタイセイは（そのタイセイをシジするひとは）「アイ」があるとはいわない。

なぜ ショクミンチでサクシュしなければならなかったか。ひとつはロウドウケイザイのヘンカだとおもう。つまり コヨウされるひとの「アイ」、わかりやすくいうと、ジカンをコヨウシャにあずけ、かわりにかねをうけとるという「アイ」を「かね」にかえるロウドウがタスウをしめるようになり、また、そのキギョウタイは、ほかのキョウソウアイテときそうようになっていたのだらう（コジンケイエイのショクもあっただらうが、すくなくなっていくのではないか）。そうすると、われさきにとほかのチホウでサンシュ

ツされるケンエキをカクトクするようになるだろう。イッポウ、コジンショウ（ジエイギョウシャ）は「アイ」をたもてていたともおもえる。ロウドウシャをコヨウするキギョウタイのショウユウシャはあつめた「アイ」でゆたかなセイカツをおくったかもしれないが（だだし、かねは でていった）、ヒコヨウシャは「かね」をうけとるかわりに「アイ」がすくなくなる。つまりあれるのである。ダイタイ、キギョウのショウユウシャよりヒコヨウシャのホウがおおいから、かずのモンダイでシャカイはあれていく。キョウカイもちからをうしなっていたときく。

ニジュッセイキには ミンシュシユギを とるくにごおおかつたからそれはセイジにハンエイされる。だから、センソウがおきたのだろう。ハンセイとして、「アイ」はあれるテイドに「かね」にかえないようにとか、いくらシャカイが あれてもセンソウをしないようにとか あれたシャカイを なだめるしくみをつくるようにとかが いえるとおもう。

ニジュウシチ『む』ヒャクヨンジュウゴ

ちょっとまえまでは からになった のみもののビンをみせにもって行って、ヘンキン（ビンダイ）をうけとったものだ。しかし、サイキンは（ケースでかうビールビンなどは まだそれをやっているかもしれないが）カンドとか、ペットボトルにのみものをつめてうっている。たしかに それなら ユソウチュウにわれたりもしないし、かるいのだろう。それらは ごみとしてリサイクルコウジョウにおくられるらしい。だが、そうしてしまうと、ごみがふえる。またモンダイなのが、ジュウタクなども イッカイばらしてあたらしいのをつくらうとなる。それは カンや ペットボトルでそうしているのだから すんなり うけいられるのであろう。むしろ、それしかかんがえつかないかもしれない。

しかし、ヨーロッパの いしづくりのたてものなどは ジュウミンとカグをいれかえれば ほぼいつまでもつかえるだろうし、モクゾウのジュウタクもながくつかうらしい。そうたびたび ばらして あたらしくするんじゃヒヨウもかかるから おかねもたまらない。そういう すててあたらしくかうというには きをつけよう。コーヒーや シャンプーなどは つめかえシキのものがあるから そうしている。ペットボトルがうれば、ドケンやがもうかる ではしょうがなさそうなのである。

ニジュウハチ『む』ヒャクロクジュウイチ

しごとをする。おかねをかせぐ。ここまではいい。フツウのロウドウシャのすがたである。そのおかねをチョキンにまわすと どうなるか。むかしはともかく、いまはテイキンリなので、イッパーセントもリシがつかない。トウシにまわすとどうなるか。ゴパーセントでまわしたジュウパーセントでまわしただと、ジュウネンでガンキンがニバイになる。なんのことはない、そういうことなのだ。

ジブンの しごとをこなして キュウリョウをもらうだけではイチバイのしごとである。しかし、おかねにもかせいでもらえば、もっとセイカツがゆたかになる。だから、いまの

ジダイはチョコキンではだめなのだろう。そのおかねのウンヨウのしかたで セイカツにさがでるのだ。

ニジュウキュウ『よろこぶゲンシジン (イカ、『よ』)』ヨン

いつからだか、「スパゲッティ」や「ピザ」がはやりだしたような気がする。また「ラーメン」とか「パン」もなにかどうれているような気がする。しかし、ひるごはんに、スパゲッティをたべたロウドウシャがテッコツをもちあげられるきがしないし、ひるめしにラーメンをたべたカイシャインがモクザイをタクサンはこべるとはおもえない。

ジツはそうやって、ニホンケイザイは、ちからしごとがゲンショウして、デスクワークのわりあいふえたのかもしれない。「シヨク」のヘンカがさきか、「シヨクギョウ」のヘンカがさきかはわからないが、すくなくともタイリヨクをつかわないしごとがふえているんだろう。このケイコウはバブルのあたりから（パンとラーメンはまえからよくあった。）つよくなり、いまもつづいているようだ。きつくいえば、ニホンジンのヒンジャクカがすすんでいると。

そのころから（ケイザイの）テイセイチョウがはじまった。そういうシヨクリヨウをこのみつけるとしたら、（ケイザイ）セイチョウはむずかしいとおもう（やはりタイリヨクショウブであろう）。むかしのセンソウは「シヨク」にこまったらしいが、そのケッカだろう、たたかいつづけられなかった。いまはたべるものがあるとはいえ、エイヨウカのひくいものでは、たたかいつづけるのはむずかしいであろう。

サンジュウ『よ』ハチ

ニホンジンにとって、このふゆはさむいものになりそうである。それはあぶらのねだんがあがるだろうからである。そうするとデンキリヨウキンもあがる。くにのタンイでみれば、ユニウガクがふえてボウエキあかじがでかねない。それはつまりおおきくみたコジンのカテイがあかじになるということである。これはハイキンテキないかたなので、そんなにくらしむきかわらないカテイもあるだろうが、あまりおかねをもっていないカテイにとってはシカツモンダイとなる。ヘンサチでいうとゴジュウイカのカテイがあかじになるということだ。つまり、ニホンのゼンカテイのハンブンが「あかじ」になるわけだ。だからネンリヨウをダイジにつかわなければならない。それができなければあかじだ。

わたしはあまりさむいときは、コートをきてねることにしている。チャンチャンコならワフウだが、あまりうっているのをみかけない。これがあつたかいので、ねるときにダンボウはヒツヨウない。ニツチュウにつかってもよい。ダンボウダイがセツヤクできる。とはいえ、こたつをつかっている。ヘヤゼンタイをあたためるとねつがムダになる。テンジョウまであつたかくするヒツヨウはないからだ。ブンテキにあつたかければよい。あとエネルギーをつかうのがフロダ。シャワーならつかつたブンだけであるが、ゆぶね

をつかうとヒャクリットルイジョウをわかすことになる。だからわたしはキョクリョク
ゆぶねにははいらぬ。みずあびですませるのである。

こうしたクフウで、さむいふゆをすごせばあかじはへって行く。ドリョクすればいいの
である。くにのボウエキがあかじということは、コクナイのいえやキギョウのソウワが
あかじということだ。なかにはくろじのいえやキギョウもあるだろう。しかし、ゴジュッ
パーセントイジョウのカテイやキギョウがあかじだと、もはや「チュウリュウ」とはい
わない。

いまのところシサンがあるだろうからモンダイにはならないが、あかじがつづけばやが
てそれもつぎる。たとえばイチョウエンのボウエキあかじだとしたら、ダイタイひと
りあたりイチマンエンのあかじだということになる。キュウリョウがサンジュウマンエ
ンあれば、たいしたガクでないようだが、まみずのイチマンエンなので（ボウエキはコ
クサイトリヒキだからシンヨウのあるツウカでおこなわれる。キュウリョウはかならず
しもそうではない。）おおきいとおもう。キュウリョウをはらってくれるだれかもイチマ
ンエンのあかじだから、さきざきキュウリョウはへるだろう。

もしそれでも「チュウリュウ」なんてことばをつかうとしたらそれは「ビンボウ」のこ
とだ。ネンリョウのセツヤクもそうだがほかのムダもはぶいていかなければならない。わ
たしはみずのセツヤクもしているが（●『む』ヒャクニジュウロク）、もっとムダをはぶ
いていかなければならないとおもう。いまは「フケイキ」ではなくて「ビンボウ」なの
だとニンシキをあらたにしなければならぬ。

サンジュウイチ『よ』ニジュウキュウ

ニジュッセイキはアメリカガッシュウコクがコウギョウセイサンのメンでつよかったと
いわれる。ニジュッセイキコウハンになって、ニホンがそれにつづくようなハッテンを
した。ニジュウイッセイキにはいとチュウゴクである。ニホンでもチュウゴクセイヒ
ンがあふれることになっている。しかし、チュウゴクのコウギョウハッテンは、これイ
ジョウカノウなのだろうか。わたしはむずかしいとおもう。

ニホンのジンコウはイチオクニセンマンテイドで、かりにコクミンすべてがコウギョウ
セイサンをしてもななジュウオクのチキュウのジンコウすべてにセイヒンをうってもひ
とりロクジュッコつくってうることができる。しかし、チュウゴクでそれをやると、ジ
ンコウがジュウサンオクだからゴクしかつくらなくてよい。つくりすぎてもかいてがい
ないし、カカクもさがる。それではさすがにたべていくのにクロウするだろう。だから、
チュウゴクでもサービスギョウのヒリツがあがるのではないだろうか。

サンジュウニ『よ』サンジュウ

あるときから、シジョウにチュウゴクセイヒンがでまわるようになった。チュウゴクセ
イフが「カイホウ」ケイザイをうちだして、キュウジュウネンダイに、センシンコクの

キギョウが、チュウゴクホンドにコウジョウをつくったことによる。ジンケンヒがやすいからチュウゴクにコウジョウをつくるが、ジッサイにつくるのはニンゲンでなくキカイをいれてやっているとおヤジからきいたことがある。たしかにそれならどこでつくってもヒョウはそうかわらないだろう。むしろチュウゴクのケイザイがうわむいたときのシジョウをキギョウはねらっていたのだろうといまではおもう。

レイネンダイから、ニホンのシジョウにでまわるチュウゴクセイヒンがふえてきた。それまでガッシュウコクセイやトウナンアジアセイだったヨウフクが、チュウゴクセイだらけになった。ジュウネンダイになると、やすくうられているものはみんなチュウゴクセイだというニンシキができるようになった。デンキセイヒンもそうだ。ダイタイやすくうられているものはチュウゴクセイだ。ザッカもそう。

ニホンセイフはブッカをあげたいとおもっているようだが、やすいチュウゴクセイがはいってきては、そうカンタンにあがるわけではない。ツウカキョウキウリョウをふやせばブッカはあがるというのは、とじられたケイザイユニットのなかでというジョウケンつきだろう。しかし、いまはエンやすがすすんでいるから、ユニウヒンがたかくなったといえなくもない。だが、チュウゴクゲンとのヒカクでエンがさげなければ、やっぱりブッカはあがらないだろう。チュウゴクがケイザイハッテンして、ジンケンヒがあがったからキギョウはほかのくににコウジョウをうつしそうなものだが、やっぱりチュウゴクシジョウがねらいだったのだろう。あまりニホンシジョウでのチュウゴクセイヒンがへっていないのがゲンジョウだ。

サンジュウサン『よ』サンジュウハチ

セカイのとみのハンブンを なんパーセント（ひとけた）のかねもちがにぎっているといわれることがある。それにタイしてけしからんということはできるが、それだけそのかねもちがいいしごとをしたのだからしょうがないともいえる。なにもしないでおかねをかせげるわけではないのである。そういうジョウキョウがあるから、そういうとみをショミンにこぼしあたえるみたいなはなしをしたりする。でも、やっぱりゲームセンターのコインゲームのように（●ニジュウニ『む』ヒャクニジュウニ）そうカンタンにはこぼれおちるわけではない。どうすればこぼれおちるだろう。どこかにおかねをおとせば、ナンニンかがひろっておわりである。それなら、こぜにをタクサンおとせば、ケッコウなはずのひとがひろえるかもしれない。しかし、そのばにいるひとしかひろえない。

あるキセイをカンワすれば、そのカンワされたギョウシュにひとびとがサンニユウする。それでセイコウすれば、それにカンレンするギョウシュもうるおうのである。これはあらたなかねもちのつくりかただが、そういうチャンスをあたえるのもいいかもしれない。ピョウドウにケツカをあたえると、あまりはたらかないひとが、はばをきかせて、やるきのあるひとやるきをなくしてしまう。かねもちのやるきをうばえば、とみはいきわたるかもしれないが、それはどうなのか。ゴルフのハンディキャップのようなものをあたえたとしても、やっぱりまたおかねをかせいでしまうようにもおもえるのである。しかし、ゼイのルイシンカゼイとはそういうことある。

サンジュウよん『よ』 ヨンジュウ

シャカイシュギはシツパイといたり、サイキンではきかないが、シャカイシュギはい
いといたりする。だがホントウにシャカイシュギはシツパイなのだろうか。シャカイ
シュギはシホンシュギとヒカクされたりするが、コンカイは、シホンシュギはダイサン
のかんがえかたとしておく。

センシンコクではイッパンテキにシジョウケイザイである。シジョウにはキホンテキに
ジユウにたちいれる。そしてジユウにバイバイできる。それはニンゲンがものをヒツヨ
ウとするからそのジユウをみたすためである。ものがなかったらニンゲンのセイカツ
がなりたない。シャカイシュギのばあい、ハイキュウなどがあったりする。そうする
とセイカツができるわけだ。ただハイキュウにあるイガイのものはにはいらない。そ
もそもつくっていないかもしれない。ハイキュウするシュタイが、なにかをユシュツし
て、ハイキュウしてほしいとキボウのあったものをユニウできれば、ハイキュウをう
けるようなやりかたでもゆたかにくらせるだろう。しかし、そういうことをつづけたタ
イコクは、ハイキュウセイドをやめたとき。そしてシジョウケイザイをドウニウし
たのだ。そのタイコクがシャカイシュギのキシユであったため、そのタイコクがやめて
しまうと、ほかのちいさいくにもそれにつづくだろう。そういうわけでシャカイシュギ
をとるくにはすくなくなったはずだ。

そういうジョウキョウからシャカイシュギはシツパイといえるか。そうではない。ジユウ
シジョウシュギはモチロンつよいが、シャカイシュギもまたつよいのである。そのシャ
カイシュギとはなにか。カイシャである。カイシャのジユウギョウインは、しごとをし
てキュウリョウをうけとる。それはハイキュウをうけとるシャカイシュギのセイドにに
ている。にているというのは、ハイキュウをうけるリョウがまちまちであるからだ。

さてそのシャカイシュギにちかいカイシャはかわるだろうか。チンギンなどがかわった
(ノウリョクキュウ) カイシャもできたが、そうはかわっていないかもしれない。また、
ヒセイキコヨウなどロウドウシャのありかたもかわったメンもある。しかしながら、カ
イシャがジユウシュギにかわったというはなしはきかない。

ロウドウシャのジユウシュギはふえたかもしれないが、ハウシュウをうけとるのにクロ
ウするブン、シャカイシュギをもとめるひともあろう。だからジユウシュギとシャカイ
シュギはタイリツするかはともかく、まだまだジユウヨウなロンテンであろう。シホン
シュギというかシホンは、それぞれのセイサンカツドウのおおきさであろうか。

サンジュウゴ『よ』 ヨンジュウゴ

ひとりあたりジーディーピーはトシコッカのホウがたかくでる (●ジユウイチ『ア』ニ
ヒャクサンジュウイチ) とシテキした。ジンコウがミッシュウしているし、とりひきの
キヨリがみじかければヒンドもあがるだろうからだ。だからフツウのくにのスウジとく

らべるのはテキしていないかもしれない。そこでジーディーピーをヒカクするために、ミツドわりジーディーピーをかんがえた。

これはくにのなかのヘイキンテキなひとりあたりリョウイキ（トシでもノウチでもない）（ジンコウわるメンセキ）でひとりあたりどれだけセイサンされているかをしめす。いいかえれば、くにのひろさをイチヘイホウキロメートルとしたときに、そのひろさのなかでのひとりあたりどのくらいセイサンするかのシヒョウだ。つぎのスウシキでケイサンする。

ひとりあたりジーディーピーわるジンコウミツドだ。これでトチをふくめてひとりがどのテイドセイサンしているかがわかる。このあたいがひくいばあいのひとつのリウはトシカがすすんでいることであろう。このあたいがたかいとヒコウリツかもしれないが、それもゆたかさではある。かならずしもひとはトシにすみたいとはかぎらないのである。

サンジュウロク『よ』ロクジュウロク

「やすい」ものはミリョクテキである。そういうものをかえれば、おなじシキンでもよりのしめる。おおきなやすうりテンにまけたから、ジエイギョウのちいさなショウテンがつぶれたともいわれる。たしかにジエイギョウのそういうみせは、おおきなみせほどやすすくない。おなじようなショウヒンをあつかっているなら、おおきなやすうりテンにいつてかおうとする。それはわかる。

しかしながら「やすい」ことはそんなにトクなのか。「やすものがいのぜにうしない」ともいう。ひとつのみせでショウヒンがやすくなると、ほかのみせもやすくしようとするかもしれない。そうしないとうれなくなるからだ。そうすると、そのショウヒンジタイのねだんもやすくなる。やすうりテンがやすくしたブンのフリエキをかかえれば、それはそのみせだけのモンダイだが、ほかのみせもやすくして、そのショウヒンをうろうとすれば、メーカーからのしいれねをやすくしようとするだろう。そうするとメーカーもねびきしてフリエキをこうむることになる。それがテイドをこえると、メーカーやショウテンはあかじのブン、ジンインサクゲンしたり、ジュウギョウインのキュウリョウをさげたりすることになる。

それはショウヒンをかうほうにはカンケイないだろというかもしれないが、メーカーもショウヒンのヒンシツをさげるかもしれない。そうしないとたちいかないからだ。そうすると、やすいショウヒンをかおうとしていたひとも、ヒンシツがさがったとおもうだろう。この「ショウヒン」がショクリョウヒンだとしたら、やすくかおうとすると「めし」がまずくなるというケツカになる。だから、うまいめしをたべたきや、やすいものをさがさないほうがいいとなる。

サンジュウなな『よ』ロクジュウシチ

やすうりアツリョクがシャカイゼンタイにかかっていると、ヒサンなジタイになる。そ

れを「レッカシャカイ」とよぼう。「デフレ」がとまらないとかいうが、そういうジョウタイのことである。さきにのべたように、ショクリョウがそういうジョウタイになるとヒサンだ。マイニチ「まずい」めしをたべなければならぬからだ。コウギョウセイヒンならタショウヒンシツがわるくても（ジコがおこるのはロンガイだが。）、それほどまらぬが、ショクリョウだとこたえる。そうすると、「まずい」めしはいやだからと、ショクリョウヒンのねだんだけはあがるかもしれない。

ことわざには「やすかろうわるかろう。」ともある。シャカイゼンタイが「レッカ」するのでなく、「やすい」ものも「たかい」ものもかえるセンタクのジユウをのこしてほしいとおもう。あるひとは「まずい」ものばかりたべるかもしれないが、それはそれぞれのジユウだといえるようにすればとおもう。

サンジュウハチ『よ』ハチジュウキユウ

わたしはオンガクをつくったりする。もうガッキやサッキョクをはじめてニジュウゴネンイジョウになる。バンドブームにショクハツされてはじめた。ただそれでセイコウすることはむずかしいこともわかっていた。だからほどほどにやっていたカンがある。

ただ、いいキョクをつくればうれるのだらうともおもっていた。だからプロのシィディのハンブンのねだんで、いいキョクをテイキョウすれば、あるテイドうれるんだらうとおもっていた。ただそれはあまいかんがえだときづいた。それはシィディのジッセイカカク（テイカではない。）をケイサンしたからわかった。

イチニチにイッカイきくシィディがあるとす。それはネンカンでサンビャクロクジュウゴカイきかれるケイサンになる。イッポウ、イチネンでイッカイきかれるシィディもあるだらう（ゴネンにイッカイきくようなシィディはケイサンからはぶく。）。それはネンカンでイッカイきかれる。そのイチニチイッカイきかれるシィディをジュウマイもっていたとする。そうするとイチマイでサンビャクロクジュウゴカイきくから、ジュウマイでサンゼンロツピャクゴジュッカイきくことになる。イッポウイッカイきくシィディをヒャクヨンジュウマイもっていたら、イチかけるヒャクヨンジュウでヒャクヨンジュウカイきくことになる。

ここでシィディのねだんをイチマイサンゼンエンとカテイする。イチニチにイッカイきくシィディはネンカンサンビャクロクジュウゴカイで、これをサンゼンエンとすると、それがジュウマイあるからサンマンエンとなる。イッポウイチネンでイッカイきくシィディはヒャクヨンジュウマイあつてもサンビャクロクジュウゴカイにタツしない。それをイチマイブンケイサンするとサンビャクロクジュウゴがサンゼンだから、イチマイはハッテンニイチエンになる。これがヒャクヨンジュウマイだからセンヒャクヨンジュウキユウエン。

これをヘイキンすると、サンマンたすセンヒャクヨンジュウキユウわるヒャクゴジュウでイチマイあたりニヒャクナナテンロクロクエンとなる。つまり、シィディのあるソウテイでのジッセイカカクはヘイキンテキなものイチマイニヒャクジュウエンとなる。だから、プロのハンガク（センゴヒャクエン）にカカクをセツテイすればうれるかという

とそういうわけではないということがわかる。なにしろプロ（シィディをだしているのがプロばかりとして）のヘイキンテキなシィディのねだんがニヒャクジュウエンなのだ。だからまああのかんじだとニヒャクジュウエンでうりだすのがただしだろう。そのニヒャクジュウエンでシィディをうってリエキをだせるのが「プロ」ということになる。フツウそうはできないだろう。でもそれができないのだったら、シュミでオンガクをやるにとどめておいたホウがいい。そういうことだ。

サンジュウキュウ『よ』ヒャクジュウヨン

ものをもつとへやのなかにそれがたまっていく。ものをかいすぎるとうごけるハニがせまくなる。イチジわたしはホンをためていたが、よんだものはショブンするようにした。やはりかたづかないとこまるのである。どうすればいいか。リソウテキなのは、つかうときだけホンがあることである。つかわないときはなくていい。どこかでかりられればいいが、トショカンにおいていないホンもある。テレビなんかもそうだ。みたいバングミだけみられればいい。テレビジュゾウキもいらなかもしれない。そういう「パーユーゼージ（つかうブンだけ）」にすれば、むだなものがふえないし、ベンリだとおもう。

よんジュウ『よ』ヒャクニジュウゴ

サンジュウネンほどまえ、わたしは、はねだクウコウをリヨウしていた。いま、おもいだしてみると、ニホンはシャカイシュギだったのではないかとおもう。なぜなら、「コウキュウヒン」があつたクウコウにはなかつたようなきがするからだ。サンゼンエンのコウキュウベントウもなかつたし、ブランドものなにかがうられていたともおぼえていない。そのかわりに、ショミンのたべもの「やきそば」やニホンジンがクフウしてちいさくなったブンなどがうられていた（あるときは、カードがたのボールペンがあつた。）。コクナイセンがおもとはいえ、かねもちもリヨウしそうだが、そんなかんじだったとおもう。もっとも、いまはたてものがかわってしまったが、タショウコウキュウヒンをあつかうようになったのだろうか。「カクサ」とかいつているからあつかうようになったのだろう。そうでなきゃ、まだ「シャカイシュギ」のまま。もっとも「シャカイシュギ」のいごちのよさはあるだろう。ステーキをたべているひとのよこで、すうどんをたべなくてもよいのだ。そういうこともかんがえるから、「コセイ（●『よ』ヒャクジュウなな）」というタンゴでごまかすかもしれない。シホンシュギだったらそういうしかない。

よんジュウイチ『よ』ヒャクサンジュウイチ

なにかのしくみを「かねもち」や「ビンボウニン」にあわせるとどうなるか。あるものごとのブンブはセイキブンブではかれることがある。カズをジョウゲにとつたベルがたの

グラフである（ヘイキンがもっともおおい。）。ニホンだと、ガッコウのセイセキをそのリクツをつかってはかる。ヘンサチというやつである。ベンキョウができるひとは、できるほどかすがすくなく、またできないほうも、できないほどかすがすくない。ヘイキンからキョリをはかるとヘンサチである。

それなら「かねもち」や「ビンボウニン」にセイサクをあわせると、そのギャクのひとたちからのキョリがおおきく、またヘイキンからのキョリもあるから、ソウタイとしては「ムダ」がおおそうである。じゃあどうすればいいかというと、「ヘイキンテキなひと」にあわせるとムダがすくなくなる。それでいいかはともかく、それならムダはすくないのである。ニホンではルイシンカゼイといって、ビンボウなひとからはすくなく、かねもちからはおおくゼイキンをとっているが、ヘイキンテキなゼイリツにすることもできるだろう。

セイヒンもヘイキンテキなねだんにすることもできる。しかし、ヒャクエンでショウヒンをかえるみせがはやっているから、ヘイキンテキなねだんではだめなのかもしれない。セイヒンも「ヘイキンテキ」なものをイッコタイリョウにつくるよりも、「ビンボウニンむけ」と「ヘイキンテキなひとむけ」、「かねもちむけ」とつくるほうが、コウリツがよさそうだ。ベツにイチリツにするヒツヨウはない。しかし、「テイカカク」なものがうれるようなきがする。そういうのをシュクショウがたケイザイというのだろう。ジッサイのとりひきがそうであるかはともかく、だれかや、だれからのシンリには、そのコウゾウがあるのである（●『よ』イチ）。カイキウセイにしてしまえば、みっつのセイヒンをつくれればいいが、ニホンではなかなかなじまないのだろうか。

よんジュウニ『よ』ヒャクヨンジュウサン

シャカイシュギシャカイをおわらせたかったら、そのシャカイシュギシャカイのひとにうまいものをくわせればいい。そのひとがそのうまいものはなしをはじめると、そのシャカイでうわさになって、そういうものをたべたいというはなしになる。そういうものは、たかかたりするから、それをたべたひととたべていないひとのカクサができてくる。それをカイショウしようとして、そのショクリョウをやすくしようとするかもしれないが、それはザイセイテキなフタンになる。それがつづくと、セイフフサイがふくらみ、やがてセイフはハタンする。そうするとモンダイのたべものをヨウゴするひとと、シジしないひとにわかれて、シャカイシュギシャカイはホウカイする。

キョウソウをドウニユウしようとか、しないてよいといいはじめる。ニホンのシャカイもハチジュウネンダイおわりの「ギユウニク」で、シャカイシュギがおわったのだろう。だから、ジショウシャカイシュギシャがシンヨウできるかをみやぶるには、どんなものをたべているかをきくといい。タブンなまぐさじゃつとまらないはずだ。

よんジュウサン『よ』ヒャクゴジュウロク

コウカンをフクザツにしていくとムダがしょうじる。しかし、そのムダがベツのしごとをうむ。わかりやすくいえば、しごとのあいだ、こどもをあずかってほしいとか、すぐにたべられるショクドウがほしいとかである。ショウニンのコウカンのサイのムダでたべるためのおかねをかせぐ。そうこうしていると、じゃあ、こどもをあずかるとか、いそいでごはんをつくりますというひとがでてくる。それをムダとって、おこるようなひとはあまりいない。そういうムダでたべるひともいるのである。そういうムダのおおいチイキをトシとよんだりする。そこにはそういうムダがあるからしごとがある。だからひとがあつまる。ニホンだったらトウキョウがサイたるものだ。とにかくひとがあつまっている。ムダはムダだが、それはひとをたすけるから、いいムダだとゲンダイジンはいうのではないか。

ベツのムダもある。「ゼイキン」というやつである。これは、くにやカクジチタイにあつめられ、そのジュウミンのためにつかわれる。でも、ダイジなのは、さきのシジョウにおけるムダとドウヨウに、ひとにしごとをあてることではないかとおもう。つまり、チョコセツのコウムインではなくても、しごとがえられ、たべられるようなひとをふやすというコウカがある。ふるくからはオウがそうやってコヨウをイジして、おさめるくにをヘイワにしていたのだろう。センソウをしているオウのはなしばかりをきいていると、なにをしてもいいひとみたいにおもってしまうが、ジッサイはそういうやくめをしているのだろう。

しかし、ムダをはぶいてしまえというひともいる。とりひきのチュウカンにはいってただれかをはぶいてしまって、よりリエキをえたり、ショウヒンをやすくしたりというやりかたである。それだとムダははぶかれて、トクテイのひとはリエキ、シュウエキやねだんのやすさをえられるが、あいだにはいっていたひとは、しごとがへるかうしなってしまう。それでいいのかというモンダイがある。

シャカイのアンテイをまもろうとしたら、ほどほどにしたホウがいいかもしれない。かねをふやすことをモクヒョウにしているひとがいるから、そういうムダをはぶいたりすることがショウレイされたりもする。ニホンでは「はげたか」とよばれ、あまりヒョウバンはよくなかったが、そういうひともいる。なにはともあれ、そういうムダもやくにたっているわけだ。

よんジュウよん『よ』ヒャクゴジュウなな

イッカゲツのショクヒがジュウマンエンのひとと、イチマンエンのひとがいるとする。いまのニホンではジュウマンエンだせば、ケッコウいいショクジができるだろう。しかしイチマンエンではジュウブンなエイヨウはとりづらい。ひとは、そのひとを「ビンボウ」とよぶかもしれない。そういう「カクサ」がたまにモンダイになる。カクサがあってもいいというひともいるし、へらしたホウがいいというひともいる。へらすとしたら、どうすればへるか。

ショクヒがつきにイチマンエンのひとが、ジュウマンエンのひとのショクジをつくれればいいだろう。ショクヒがつきにジュウマンエンのひとなら、ショクヒにジュウマンエン

かけられるわけだから、イチマンエンのひとはジュウマンエンうけとって、ゴマンエンブンなり、ハチマンエンブンなりザイリョウをかい、ショクヒがジュウマンエンのひとにショクジをだせばいい。うまくいけば、ショクヒがジュウマンエンのひとはマンゾクだし、もともとショクヒがイチマンエンのひとは、ゴマンエンなり、ニマンエンなりをかせげる。すると、もとはイチマンエンのショクヒのひとはロクマンエンなりサンマンエンなりをショクヒにかけられることになる。そうするとカクサもへるし、シャカイもゆたかになるのではないか。

それをジッセンしていたりするのが、イミンなどのリョウリやである。チュウカリョウリはニンキがあるらしい。そういうチュウゴクジンのチエはただしいとおもう。「チュウゴクジンのチエ」としたが、かならずしもチュウゴクジンだけのものではないとおもう。タンジュンにいえばそのくにのショクタクをみれば、そのくにのケイザリョクがわかるのである。ニホンはななジュウニネンまえのハイセンから「フッコウ」したというが、ホントウにショクタクがフッコウしているかといえぼうたがわしい。オウベイフウのショクリョウなどで、あなうめされているようなきがするからだ（それはかならずしもわるいことではないが）。デントウテキナニホンショクがあまりみられないきがする。それもセンギョウシュフがカツヤクしていたジダイには（ダンカイのセダイくらいまでだろうか）、デントウテキナショクがまもられていただろうが（それもさきのかんがえかたとおなじである。）、そのあとのセダイのともばたらき力によって、ショクブンカがヘンヨウしているとおもわれる。フッコウは、ダンカイのセダイくらいまではセイコウしていたが、いまはザセツしているようなきがする。いいものをとりいれたといえばきこえはいいが、ほんもののニホンショクがみられなくなるのはちょっとかなしい。

よんジュウゴ『よ』ヒャクロクジュウなな

「コスト」をへらす。というとかウテイテキにとらえるひとがおおいのではないか。たとえば、ネンピのよいくるまをかって、ガソリンイチリッターあたりジュッキロはしるところを、ニジュッキロはしるようになり、ネンリョウコストをニブンのイチ、ジュッキロあたりヒャクニジュウエンへらしましたと。カイシャでもコテイヒをへらして、ネンカンナンゼンマンエンヒョウをへらしたとかいう。でも、それにイをとなえるひとはあまりいない。タイテイ、それをきいたひとはよかったですねとか、うちもみならわなきやだろう。

しかし、そのコストは、ホントウにへるものなのか。さきのくるまでいうと、サクゲンされたイチリッターあたりヒャクニジュウエンのもと「コスト」はどこへいくのか。それはくるまホントウのねだんにいくというのがひとつのこたえだろう。つまり、ショウエネブヒンをつかっているために、まえにのっていたくるまよりハチジュウマンエンたかいかとか。カップラーメンがテイカニヒャクエンのところ、ヒャクエンでうっていたら、かうほうのコストはヒャクエンへるがそのもとコストはどこへいくのか。メーカーがフタンしているかもしれないし、こうりテンがフタンしているかもしれない。

つまり、ひとつのキャンテンからは「コスト」はへらせるのだが、そのもと「コスト」ジ

タイはなくなるものではないということだ。だから、だれかがコストカットしたというときには、ほかのだれかにコストがイテンしたということだ。キュウジュウネンダイのギンコウのフリオウサイケンモンダイでいえば、ギンコウの「あかじ」というコストは、イチジテキにせよ、すべてゼイキンでまかなわれた。つまりコストがノウゼイシャのホウにイテンしたのである。あとでかえされたいが、そうやってコストをすててしまえ、コストカットしたもとコストをそとにやっつけてしまえというかんがえかただと、むかしのヨーロッパのデンセンビョウのはなしににているだろう。トシのジュウミンはフンニョウをジブンのへやのそとへほうりだした。みんながそうするから、とうとうデンセンビョウがハッセイしたというわけだ。だからコストのもっていきさきにはきをつけなければならない。

よんジュウロク『よ』ヒャクななジュウロク

キュウジュウネンダイに、ドヨウビをやすみにするというセイサクがおこなわれた。「セイショ」のキジュツにあるように、かみさまがシュウにムイカはたらいたのに、なんでニンゲンはイツカしかはたらかなくていいのかとおもう（●『よ』ヨンジュウなな）。ニホンジンは、はたらきすぎだとシテキをうけたともきいた。でも、そういいかえせなかったのだろうか。そうするとつとめにんは、そのひとのジカンができる。そのジカンをどうすごすか。あそびにいたりすれば、かねをつかう。それを「ショウヒ」とよぶのではないか。つまり、ニホンジンにショウヒをしてもらおうというコンタンだったかもしれない。はたらいていれば、かねをつかわないし、むしろ、キュウリョウをもらえる。しかし、ジブンのジカンがあると、あそんだり「ショウヒ」したりしてしまう。

そのころから、「ジブンさがし（●『よ』ヒャクナナジュウヨン）」などいわれはじめたかもしれない。つまり、「ジブン」のジカンがふえたからだ。どうせ「ショウヒ」するだけかもしれない。いってみれば、ジブンのジカンができて、「ショウヒ」をハッケンするのだ。しかし、ショウヒをするのが「ジブン」だとはかんがえにくい。まるでやくたたずみただからだ。だからナンコウする。「ニホンはナイジュをふやせ。」といわれていたようだから、まあ、それでナイジュはふえたのだろう。しかし、そのころをキテンに「ソウシツされたいくとし（●『よ』ヒャクヨンジュウニ）」のようにいわれるのではないか。キンムジカンがタショウ「ソウシツされた」のだ。わたしはいまになって、それがわかった。

しかし、ほかのセンシンコクでは、「ショウヒ」ばかりをしているのだろうか。そうではないとおもう。かしこく「ウンヨウ」しているのではないかとおもう。シュウキュウふつかになってから、「シサンウンヨウ」のはなしをきいた。もっとも、ニホンジンは「バブル」でこりていたかもしれないが、コンピュータのハッタツにより、ジタクでやりとりできるようになってきた。そういう「あそび」のホウがいいのかもしれない。ネンキンをジブンでウンヨウするガッシュウコクのひとは、そういうジカンをとっているのではないか。はたらきすぎると、おこられるジダイである。かしこく「あそび」たいものだ。

よんジュウシチ『よ』ヒャクななジュウキュウ

リエキのあるところにひとはちかよっていけだろ。シュウシヨクさきをきめるときなどそうだろ。あかじがおおいカイシャには、うりあげのすくないカイシャには、あまりちかよっていかないだろ。しごとをしてジブンもリエキをえられにくいからだ。それがあたりまえと「リエキ」をツイキュウする。それだけでたしいのか。

ヨーロッパのレキシをみると、ローマジダイからシュウキョウによるシハイがつよまった。おうはシュウキョウとむすびついていたとおもわれる。つまりおうはシンコウしてキョウカイとつきあっていた。しかし、ジュウジグンやシュウキョウカイカクをへて、キョウカイのちからはよわまった。それからはヨーロッパナイのセンソウがおこるようになる。また、コクガイにシヨクミンチをもとめるうごきもカソクした。シヨクミンチは、シハイコクにとみをもたらすからだ。そうして「リエキ」によるシハイにイコウしていった。センソウといっても、ヘイにカネをはらってするものだから、おうのちからはシダイによわまっていった。ニホンもシヨクミンチをもつくとたたかたし、シヨクミンチをもとうとした。そのたたかひのケッカ、シヨクミンチはジリツするようにもどった。そうして、リエキによるシハイをささえたひとつのホウホウがとりづらくなった。

しかし、おおきなたたかひのハンセイというのもある。もっとも、カクヘイキのハイビがセンソウや「リエキ」によるシハイをおわらせたともいえる。それをつかいて、センソウやリエキのツイキュウをすると、すべてのチキュウジョウのブンメイがおわってしまうからだ。そうしたことから、いやいやかもしれないが、コッカにおける「リエキ」のシハイはおわった。かわりになにによってシハイされているのか。「リョウシン」によってシハイされつつあるようにもおもう。だから、キギョウが「リエキ」だけでうごくとしたら、ふるいレジームでケイエイしているということだ。「リエキ」がでるということは、どこかに「フリエキ」がでるということだ。トクにショウケンそばなどはそうだろう。そういうキジュンでやっていたら、かちまげができるから、トクベツいいとはいえないそうなのである。

よんジュウハチ『よ』ヒャクキュウジュウ

わたしはステーキがすきだが、なかなかのねだんがするところが、たべるハンダンをヨウイにさせないテンである。やすくても（セットで）センエンくらいだが、ゴヒャクエンというところがあった。このジョウホウがしれわたると、そこにキヤクがサットウするというシンパイがあるが、ジツはカイガイなのでタブンモンダイはない。それもセットである。ニホンはブッカがさがっているから、むしろブッカをあげようというが、それはこのようなゲキやすステーキをタッセイしてからにしてみたい。

ニホンはブッカがたかいですよとサイキンきかなくなった。かわりに「ブッカ」をあげるである。たしかにブッカをあげると、ロウドウシャはうるおうが、しごとでつくったショウヒンがうれなくなったらそうとはかぎらない。サンビャクゴジュウミリリットル

のジュースにしたって、ニホンではヒャクサンジュウエンするところをカイガイではハチジュウエンでうっていたりする。だからまだまだなのだ。それでタンジュンにリエキをだそうとかんがえれば、ユニウするわけだ。ブッカをあげれば、とみがカイガイにでていくのではないか。

よんジュウキュウ『よ』ヒャクキュウジュウイチ

ジブンのみちをいくことはむずかしい。わたしがわかいときは、そんなことはかんがえなかった。そんなことないだろう。カンタンだ。というひともいるかもしれない。すきなようにうごけばよいと。そんなことをいうひとは、なやみもビョウキもシツギョウもないのだろう。「なやみ」のないように、「ビョウキ」のないように、「シツギョウ」のないように、うごけばいいのだからと。しかし、よのなかの「なやみ」がなくなったとはきかないし、「ビョウキ」や「シツギョウ」もなくなったとはきかない。そんなにニンゲンやシャカイはカンタンではないのだ。

きまったジカンにイッセイにツウキンしていれば、「おなじような」ひとにであう。なにかあったら、「おなじような」ひと、ドウシにソウダンもできるだろう。そういうチョウシで、「みんな」のやっていることをすれば、そのコストはやすくなる。モンダイのカイケツにかかるコストが、「よくある」ゆえにひくくなる。それなら、みんなカイシャインをやればいだろうとなるが、そうもいかないのだろう。でも、「カクゴ」がないのだったら、「ジブン」のみちをあるくことは、やめたホウがいいかもしれない。たかくつくからだ。

ゴジュウ『よ』ヒャクキュウジュウゴ

わたしは、(キギョウがハッコウする)かぶにエンがないが、それをとりひきすることをソウゾウしてみた。マイニチゴパーセントずつふやしていけば(そういうメイガラはすくないだろうが)、ジュウゴニチでシキンがニバイになる。イチマンエンからはじめたら、ニマンエンになる。そのヨウリョウでつづくと、ヒャクヨンジュウサンニチメには、イッセンマンエンをこえる。そうやってかせぐひともいるのかとナツクである。それをジミチにやっていたら、もとでがなくてもかねもちになれるわけだ。

たしかに、イチニチでえられるパイリツは、ケイバやパチンコよりもすくない。よくてジュパーセントだからだ。しかし、それをまめにやっていたら、かねをかせげるのであろう(やったことがないのでわからない)。ただイチニチじゅう(たかがゴジカンだが)、ガメンにむきあっているのはつらいかもしれない。しかし、そうやってまめにやったひとが、「トウシでかせげる」などとホンをだすのであろう。よんだホウは、それだけまめにできるかはわからない。わたしもそういうこまかいサギョウはすきだが、いまのところそれをやろうとはおもわない。ほかのことをしたいとおもっている。

ゴジュウイチ『よ』ヒャクキュウジュウロク

ニホンでは、かぶなどでかせいだひとは、あまりほめられないのではないか。それはそうだというきがする。それはかぶのとりひきは、ギャンブルのヨウソがあるからである。エーさんが、ヨンヒャクエンのかぶをロツピャクエンになったときにうったら、エーさんはニヒャクエンもうかる。しかし、ピーサンがヨンヒャクエンのかぶをロツピャクエンになったときにかえば、ニヒャクエンのあかじである。そうやって、かせぐひとと、かねをはらうひとがいるわけだ。それはケイバとかわからない。ただ、かけキンにタイするリターンが、ケイバはサンわりとかゴわりとかをジギョウシュタイにぬかれるのにタイして、かぶはテスウリョウやゼイキンをわずかにぬかれるにすぎない。また、イチニチでニバイジョウリターンをえられるかという、かぶではメツタにない。そういうサはあるがまけるひとがいるというテンで、ギャンブルとおなじなのである。そういうショウブをしごととしているひとは、ヒョウカがひくいのであろう。おもしろいゲームだとはおもうが、つよいひとがかつのであろう。しかし、それはだれかの「まけ」によってささえられている。

ゴジュウニ『よ』ヒャクキュウジュウキュウ

おいしいハンバーガーをジブンでつくって、たべて、「サンビャクエンもうけた。」というひとはあまりいないであろう。このレイでは、つくったひとは、ハンバーガーやのテンインではない。このハンバーガーのシジョウカカクは、シジョウをみればダイタイスイソクできる。しかし、コストがかかるので、ショウテンドウヨウに、(ジブンに)サンビャクエンをうりあげたともいえる。ヒョウをひかないと、リエキはケイサンできない。にくがヒャクエンで、パンがゴジュウエンだったら、そのたのヒョウをひいて、たとえばリエキがヒャクエンだったりする。リエキがでるなら、ジブンでつくったホウがいい。だが、よりおおくのリエキをえるためにあきらめるやりかたもある(カイシャインをしているばあいなどだ。カイシャからえるおかねがおおきければ、わざわざこまかいリエキをジブンでだすヒツヨウはないということだ。)。ジブンでかせぐなら、たとえばホンづくり。シュツパンすると、かりにゴジュウマンエンかかったとする。しかし、それはギョウシャにたのんでのカカクだ。ジブンでつくったばあいにサンジュウマンエンですませられるのなら、ニジュウマンエンのリエキとなるから、ほかにわりのよいしごとをもっていないのなら、ジブンでつくるべきだろう。

ジブンのみのまわりのかいものには、あまりソントクをかんがえないものだが(そのしなものたかい、やすいはベツである。)、こうやって、ジブンからのジュヨウもケイサンして、かせぐことができる。あるサービスのカカクは、そのしごとをガイチュウした

ら、いくらかというキンガクでカクニンできる。ネンカンとおしてそのゴウケイをケイサンしたガクが、あなたのセイサンガクである。そのセイサンガクのホウが、あなたのキュウリヨウよりもひくいのなら、あなたはキュウリヨウブンはたらいっていないことになる。セイサンセイをあげるというのは、ジュウヨウなカダイであるが、いまいちケイサンがしづらい。でも、シジョウカカクをみれば、それはケイサンできるのである。このケイサンホウをジュウキジュンホウとよぶことにする。

ゴジュウサン『よ』ニヒャクニ

どうも、ケイザイモンダイというと、カクサやそのシャカイコウゾウがモンダイにされているかもしれない。カクサがないホウがビョウドウのようだから、そのホウがよいというのは、あるテイドわかるはなしだ。しかし、ひとびとをビョウドウにしてシッパイしたのがソレンではなかったか。それは、はたらいでも、はたらいでも、ビョウドウだから、はたらくきのあるひとが、やるきをなくしてしまったというケッカおこったといわれる。それなら、ビョウドウではいけないはずだ。ソレンがシュウリヨウしてまだサンジュウネンたないのに、それをわすれてしまったかといいたい。

もっとも、わかいこなんかは、ソレンのことをしらないから、ビョウドウのホウがいいといってしまうかもしれない。しかし、やはりケッカはおなじようなものだろう。むかしはこういうことをカクメイといった。それをわすれたであるまい。カクサというのは、ドリヨクのリヨウとシツのちがい、セイカのちがいといえば、みとめられるのではないか。タブン、かねもちがまっとうにかせぎつづけたために、ケッカとしてかねもちになったわけで、そういうケイイをムシして、ビョウドウにブンパイしようとおもうと、フコウヘイがショウずる。それより、まじめにはたらいて、かねもちになれるというモデルがあったホウが、ケンゼンだとおもうのである。ただ、ケイザイキョウソウがあって、セイコウするひとと、おちぶれるひとがでる。そこのところをきびしいキョウソウにするのではなく、おたがいがケイイをはらうカンケイにすれば、カクサのはげしさがへっていくのではないだろうか。ただ、これは、「イシヨクたつて（たりて）エイジョク（ハンエイとはじ）をしる。」というモンダイもはらんでいるから、チュウサンカイキュウイジョウのかんがえかたであろう。しかし、セイフのやくめのひとつは、とみのサイブンパイであるとかんがえ、ジッコウできれば、うまくいくのではないか。

ゴジュウよん『オンガクイチエンのジダイ（イカ、『オ』）』イチ

ソレンはカイサンしてそのゴどうなったか。なぜカイサンすることになったかという、ビョウドウすぎたときく。グタイテキには、はたらかないでキュウリヨウをもらうひとにあわせて、よくはたらくひとや、ユウノウなひとがはたらかなくなったからだという。たしかに、あまりはたらかないひとにケイザイをあわせるととんでもないことになる。これは、どこかのくにのケイザイセイサクににている。そうだ、「ザンギョウ」をキセ

イしようというセイサクのことだ。たしかに、はたらきすぎてしんでしまったり、もえつきてしまったりするのはこまるが、みんながみんなそうなるわけではない。だからザンギョウをとめるのは、コベツにやるべきだろう。はたらきざかりがはたらかなくなったら、やはりケイザイはコンランするのだ。ソレンカするニホンではしょうがないとおもう。

ゴジュウゴ『オ』ニ

キュウジュウネンダイゼンハンまでの「バブルケイザイ」は、チカ（トチのカカク）がたかくなったというインショウがあるが、イッポウ、「モノ」がやすくなったというメンがある。それはエンだかがすすみ、ユニウヒンがやすくなったからだ。ケイサンができるひとは、ますますあがるであろうトチをあずけておかねをかりて、やすくなったユニウヒンをかえばもうかるとかんがえるだろう。それでどうシュウエキをあげるかはしらないが、たかいカカクのもので、ひくいカカクのものをかえればニバイおいしい。ただそれがつづかなかったから、「フリオウサイケン」だなんだいいだした。ようするに、トチのカカクがさがってあずかっているところはソンがでたのである。

しかし、エンだかはつづいた。だから、ユニウヒンをかえば、おなじキングクをだしてのセイカツがゆたかになった。イゼンだったら、ヒャクエンでは、カジュウサンジュッパースセントのオレンジ（みかん）ジュースをのむのがせいぜいだったが（わかいひとは、カジュウサンジュッパースセントのジュースをしらないかもしれない）、ヒャクパーセントのものがのめるようになった（[アメリカ] ガッシュウコクのひとのドリョクがおおきい）。モチロンこれはユニウものだったりするから、コクナイケイザイのカイゼンにはならない（しいれてうるショウバイはできるが）。しかしながら、そういうセンタクもできるようになったというのが「バブルケイザイ」ゴである。だからユニウものばかりでセイカツしていたら、かなりシシュツをへらしたセイカツができたことだろう。

しかし、コンゴもそれがつづくとはかぎらない。ユニウものがたかくなることもあるのだ。コクナイケイザイのモンダイではないというテンでギャクバブルといおう。たとえば、セキユのねだんがあがれば、ユソウにかかるヒョウがふえる。そうすると、モノのねだんがたかくなってしまふのである。エンやすにふれてもそうだろう。ユニウカカクがたかくなってしまふ。だからそういうこともあろうとおもっておくことは、ダイジかとおもう。

ゴジュウロク『オ』ニジュウハチ

わたしがダイガクにいていたとき、アルバイトをはじめた。それでそのうちダイガクのガクヒをジブンではらうようになった。ゲンエキでニューガクしたならともかく、おくれてはいったので、シュミでガッコウにいておもうようになった。だから、ジブンではらったホウがいいだろうと。それがあったから、コウギはやすまずにうけた。

セイセキはまあまあだった。

しかし、ガクヒをだすのはそうカンタンでなく、おかねのやりくりをケイサンするようになった。イチガツにいくらためて、シガツにいくらはらってといったものである。そのときはカイキブンセキ（あるスウジをタンジュンなイチジシキでヨソクするギジュツ）をあまりしらなかったが、イチジシキで、チョクセンテキなスウシキで、それからのみこみ、ガクヒのブンのおかねのたまりぐあいをケイサンするようになった。ワイ（ジブンのジンセイ [ガクヒのたまりぐあい]）イコール エーエックス（マイツキのキュウリョウ [ジキュウ かけるキンムジカン]）マイナスビー（セイカツヒ）といったぐあいである。エーエックス（キュウリョウ）がふえればすごくゆたかだが、そうカンタンではない。トウジはそれにもかかわらず、それをタッセイしようとした。しかし、つとめさきではケイエイゴウリカで、アルバイトジュウギョウインのキンムジカンをへらしていた。これではガッコウにいけなくなるとわたしはかんがえ、ベツのアルバイトをはじめた。しかしである、エックス（キンムジカン）をのぼそうというのは、わたしのみがってなかんがえだ。コヨウぬしとのカンケイできるものであるのに、そうしてアルバイトをテンテンとした。

ケツカは、おかねはたまったがシュクダイをやるジカンがなくなってしまったので、これはソツギョウできないとおもい、ジネインコウのケイカクをかんがえた。しかし、このトチュウでジブンのみがってさになやまされる。かせげるかはわたしだけがきめるものではない。そこでうまくいかなかった。いまなら、スウシキのヘンスウをイッコ、ニコふやしたらいいとおもう。つまり、ワイ（わたしのジンセイ）イコール エーエックス（ジブンのドリョク）プラスシーゼット（カイシャのギョウセキ）プラス ディエイチ（シジョウのケイキ）マイナスビー（セイカツヒ）のようにである。さきのシキよりはまともなヨソクができるだろう。

ゴジュウな『オ』ニジュウキュウ

ショウバイにはコストとリエキがあるとされる。うりあげ イコール コストたすリエキというやつだ。うりあげをいくらあげても、リエキがないのではもうかっているとはいえない。だから、うりあげでなく、リエキをあげることをスイショウしたりする。コストをこまかくいうと、ゲンザイリョウをかうコストやジンケンヒなどがある。だから、コストをさげようとおもったら、ジンケンヒ（ジュウギョウインのキュウリョウ）をさげるヒツヨウもでてくる。そういうリユウで、カイガイのジンケンヒがすくなくすむところでセイヒンをつくったりする。そのホウが、リエキがおおきいからだ。これはシホンシュギのシュダンといえるかもしれない。

ところでジュウゴセイキくらいのヨーロッパでは、センキョウシをカイガイにおくりだしはじめた。シntaxリクがみつかったのがリユウのひとつだろう。また、そういうチイキをヨーロッパのくにはちからずくでショクミンチカしようとした。なぜショクミンチカするか。あるセイヒンやゲンリョウをやすくてにいたかったからだろう。そうすればヨーロッパでのセイヒンカカクがひくくおさえられるか、リエキがおおくるので

ある。センキョウシをカイガイにおくりこむことも、コストをさげるためだとおもう。どういふことかという、ヨーロッパでシュウキョウにかかわるひとをイクセイしようとする。それにはコストがかかる。かりにひとりあたりイッセンマンエンかかったとしよう。シュウキョウにうりあげのガイネンをもちこむのはどうかだが、そのひとたちがそれぞれニセンマンエンうりあげたとする。そうすると、ひとりあたりリエキはイッセンマンエンとなる。しかし、ショクミンチでひとをそだてれば（ヨーロッパよりブッカがやすいとカテイする。）、ニヒャクマンエンでひとりそだてられる。それなら、コストはゴブンのイチだから、うりあげをおなじスイジュンでかんがえれば、センハツピャクマンエンのリエキ（そのひとをキョウイクゴにヨーロッパにまねいたばあい。）、うりあげがすくないとしても（たとえばヨンヒャクマンエン。）、ちいさなキングクでキョウイク、センキョウができるのである。こういうわけだから、やっぱりセンキョウシも、ジンケンヒがやすいところに行くのだ。これをシュウキョウのホウホウとよぶことにする。シホンシュギのシュダンとシュウキョウのホウホウはどちらがさきにできたかわからないが、おなじようなものなのである。ただことばのかべがあるから、カイガイでやすつくるのはカンタンではない。しかし、エイゴのフキウでそれはやさしくなっているし、ホンヤクキもセイドがあがっているだろう。だからカイガイでつくるのもやさしくなっているかもしれない。

ゴジュウハチ『オ』サンジュウ

「いいニュースがある。シホンカとロウドウシャのタイリツがおわたんだって。」といえるひはいつのことだろう。たしかにそれは「おわる」かもしれないし、「おわら」ないかもしれない。エーアイとロボットギジュツがハツタツしている。なにかのセイヒンのコウジョウでも、それらをつかたりするだろう。それがキョウゲキにすすむとどうなるのか。ニンゲンのロウドウシャがいらなくなるのである。「いらぬ」とはどういうことか。「やとわぬ。」「リストラ」というやつである。エーアイやロボットがセイサンするから、ニンゲンのロウドウシャはいらぬということである。

シホンカはエーアイやロボットにまかせてセイサンする。リストラされたロウドウシャは、いえではたけをたがやしたり、ザツヨウのしごとをしたりするようになるかもしれない。ロウドウシャにとってよくないようだが、むかしはそうやってくらしているひとがおおかつたのではないか。それでまあまあやっていけるのなら、さきにいった、シホンカとロウドウシャのタイリツはおわりである。リョウシャともジツサイにはつきあわないわけであるから。

しかし、シホンカがノウチをタクサンかたばあい、ロウドウシャは、そこではたらくようになるかもしれない。コサクニンになるというわけだ。なんのことはない、またショウエンセイになるというだけだ。それであまりにロウドウジョウケンがわるいとどうなるか。ガッシュウコクのナンボクセンソウのようになるかもしれない。

ナンブではドレイをつかったノウギョウをしていて、ホクブではコウギョウセイサンをしていた。ナンブがドクリツしようとして、センソウになったというシジツだ。やはり、

ショウエンのロウドウシャが、うらみつらみをいうようではセンランになるかもしれない。イッポウ、コウギョウセイサンをするひとや、ドクリツテキにくらすひともあるだろう。こういったシャカイをナンボクタイセイとっておこう。

ただ、ガッシュウコクのばあいには、ホクブはコウギョウセイサンをしていたからシキンはあった。しかし、このヨソウのばあいはそうではないかもしれない。シホンカはノウギョウもコウギョウもおさえているかもしれない。ニクダンセンでたたかうことはできるが、ショウエンがわがグンとなかよくしていたら、ショウエンセイはながくつづくだろう。ホクブはホクブでジキュウジソクやコウギョウセイサンをしていれば、まあモンダイはない。そうやって、シホンカとロウドウシャのタイリツはおわる。かわって、シホンカとコサクニンのタイリツがおこるかもしれない。

ゴジュウキュウ『オ』サンジュウイチ

ロウドウシャのチンギンをあげる。そのひとがロウドウシャならうれしい。しかし、そのドがすぎてしまうと、ロウドウシャドウシのキュウリョウのうばいあいになり、リストラされることになる。また、さきにいった（●ゴジュウハチ『オ』サンジュウ）エーアイとロボットのカツドウもあるから、キュウリョウがあがるといっても、すなおによるこべない。タンジュンにいえば、ニンゲンのロウドウシャにはらうキュウリョウより、エーアイ、ロボットのイジヒのホウがやすければ、ニンゲンのロウドウシャは、リストラのタイショウになる。

ニホンジンよりナンボウのほうのくにのひとにつくらせるとかをいままでやっていたが、それらのくにのひとより、エーアイやロボットのホウがやすければ、そうやってセイサンするカノウセイがおおきい。エーアイより、ロボットのホウが、うごきがあるブン、つくるのがむずかしいだろうから、ニクタイロウドウならば、とりあえずはリストラにはならないかもしれない。しかし、ジカンのモンダイというきがする。

ロクジュウ『オ』サンジュウロク

コンピューター、エーアイ、ロボットのハッタツのためにチシキへのアクセスのカカクがさがり（●『オ』ジュウ）、ズノウロウドウのカカクがさがり（●『オ』サンジュウよん）、ニクタイロウドウのカカクがさがる（●ゴジュウハチ『オ』サンジュウ、ゴジュウキュウ『オ』サンジュウイチ、『オ』サンジュウゴ）。そうすると、たいしたしごとをしないぶらさがりロウドウシャはいらなくなってくる。

これまでは、シャカイシュギにサラリーマンがホゴされていたカンがあるが、もうそれもおわりだろう。ひとつでも、それらみつつにまけないギジュツがなければ、はたらくキギョウにとってやとうカチはすくない。これまでは、しごとがカイガイのロウドウシャにおきかえられたが、いまではそのみつつにおきかえられる。じぶんにギジュツがないとすれば、ロウドウシュウヤクテキなしごとをハッテントジョウコクなみのチンギンで

やるようだろう。そのときに、サイテイチンギンというハウリツテキしぼりがジャマになる。そのキセイカンワがヒツヨウかもしれない。しごとがないよりましだとおもうのである。

ロクジュウイチ『オ』ロクジュウニ

やすいなにかはおかいどくかもしれない。わりとカカクをみてかいものをしたりするだろう。やすいものをえらんだりする。しかし、「やすものがいのぜにうしない」ともいう。なぜか。それはやすいカカクには、リスクがふくまれていることがあるからだ。つまり、それはフベンなもの（サービス）だったりするわけだ。うるホウもなるべくたかくかってほしいところであろう。だから「やすい」にはきをつけたほうがいだろう。

ロクジュウニ『オ』ななジュウ

ひとがフユウソウとなる時、おかねをもつようになるのがさきか、それともフユウソウのタイドができるようになるのがさきなのだろうか。かねのないフユウソウじゃしょうがないから、おかねをもつことがさきとかがえられるかもしれない。しかし、いきなりおかねをもったばあいは、フユウソウのタイドができていないから、「なりキン」とよばれることがおおいのではないか。ウェーバー（マックス、ドイツのシャカイガクシャ）は、プロテスタントのひとたちのセイジツさがシホンシュギをハツタツさせたという。つまり、タイドがさきでおかねはあとなのではないかともいえる。ニホンではコウレイシャがケッコウなシサンをもっているというから、やっぱりシサンができるタイドができていたのだろう。もしコウレイシャなみにシサンをもちたいというのであれば、コウレイシャのタイドをまなぶといいだろう。わたしはまだまだそれができていないから、おかねもちにはなりにくいかもしれない。

ロクジュウサン『オ』ななジュウロク

よくケイキがいいだのケイキがわるいだという。ケイキがよいといわれるときにうりあげがおちると、そのカイシャのショウヒンがわるいとなるが、ケイキがわるいといわれるときに、うりあげがおちたら、ケイキがわるいのがわるいとなる。それでセイフにザイセイシシュツをもとめたりする。セイフもセイフでまたコウキョウジギョウをふやす。でも、「ケイキがわるい」は、いいわけでタンにそのカイシャのショウヒンにモンダイがあるということではないか。ケイキがわるいだろうが、うるものはうるはずである。だからケイキのわるいときこそジツリョクがとわれるところであろう。

ロクジュウよん『オ』ハチジュウよん

トシのホウでは、そこにすんでいるニホンジンのウンコは、うみにながれるようになってい。ひょっとしたら、ゲスイシヨリジョウでぬきとられるかもしれない。しかし、エキタイのセイブンをすべてぬきとることは、むずかしいであろう。うみにながれると、うみのシヨクブツのエイヨウになる。だからうみがゆたかになる。

しかし、ノウチもゆたかにしたいだろう（●イチ『ア』ゴジュウヨン）。だから、うみにハンブン、ノウチにハンブンをながせばいいかもしれない。イチニチにロクセンマンウンコがうみにもどされれば（ニホンジンがさかなやのりをたべたとカテイするとそういえるだろう。）、サイセイサンにつながる。

きになるのがとなりのジンコウのおおいくにだ。ハンブンながしただけでロクオクウンコになる。そうすると、そのくにのエンカイがゆたかになるはずだ。そこにハイタテキケイザイスイキ（イーイーゼット）というキジュンをもちだして、ニホンのギョセンががんばってしまうとケンカになるだろう。たしかにイーイーゼットはひとつのキジュンではある。しかし、バンノウではないだろう。だからそのカイイキのあつかいにカンしてはジュウナンにするのがよいかとおもわれる。「ウンコをかえせ。」といわれてもなかなかむずかしいからである（セイサンリョウがちがう。）。レイセイにいうと「シゲン」なのである。

ロクジュウゴ『オ』キュウジュウ

セイヒンをカイガイでつくれば、ねだんをやすくできるという。たしかにおかねのメンでいえば、やすくつくれるところもあるだろう。キュウリョウがやすいなどのリユウだ。しかし、ホントウにやすいのか。あるセイヒンエーをつくるのには、ふたりがかりで、サンジュウニチかかるとする。それをカイガイでつくっても、ふたりがかりで、サンジュウニチかかるだろう。カカクのメンではともかく、エネルギーのメンでは、かわらないのである。コストがちいさいとかいうが、やっぱりつかうエネルギーは、かわらないであろう。それなら、コストはちいさくないはずだ。コストはおなじなのである。

ただ、つかうエネルギーのリョウは、かわらずとも、やすくうけおってくれるだれかがいるから、カカクがやすくなるというわけである。ホントウにフェアトレードなどをかんがえるならば、セイヒンをカカクでみるのではなく、つかったエネルギーのリョウではかったホウがいいのではないか。

ロクジュウロク『オ』キュウジュウキュウ

むかしのニホンジンのセイカツはジュンカンテキだったとおもう。はたけでつくったヤサイをたべて、フンリョウをはたけにかえし、またヤサイをつくるといったぐあいだ。いってみれば、ループをするセイカツセッケイだったということだ（●ロクジュウよん

『オ』ハチジュウよん)。

たまにさかなをたべると、それだけがループしないといえるだろう。サッコンのショウヒシャカイでは、こういったループがなされにくくなっているんだらう。それでも、みずはかわにながし、またかわからとるようにループされている。ヤサイははたけでつくり、それをたべて、フンニョウはかわにながしてしまふ。これではジュンカンしない。ホンなどでかんがえると、わかりやすいが、いつもおなじホンをよんでいけば、おかねのツイカフタンはレイである。それだとケイザイテキである。しかし、それだとつまらないのであたらしいホンをかう。そうするとあたらしくループにいれたホンのブンだけ、おかねをはらうことになる。こうしたアウトループをするとおかねがかかる。

わたしもむかしはシィディなどあたらしいものばかりをかっていた。そうすると、かねがかかる。しかしサイキンは、おなじシィディをナンカイもきくようにしている。ホンはいまのところ、あたらしいものをかっているが、アウトループをへらしていくことはカノウだらう。アウトループをへらせば、ショウヒがへる。おかねもかからない。うまくループリツをふやして、かしこいセイカツをしたいものだ。

ロクジュウなな『オ』ヒャク

このごろは、チョウジカンのザンギョウにタイして、きびしいイケンがいわれている。ザンギョウをしなければ、イチニチ、ハチジカンロウドウだらうか。ニンゲンのセイカツのサンブンのイチをしごとに、サンブンのイチをプライベートに、サンブンのイチをねることにあてるとなるかもしれない。

しかし、こういったセイカツははたしてカノウなのか。ハチジカンロウドウでえたシュウニウで、のこりのジュウロクジカンのメンドウをみなければならぬからだ。つまり、かせいだおかねをハンブンにわけ、プライベートに、ねるのにつかうことになる。かせいだおかねをダブリユ（ウェイジ）とすると、それぞれニブンのダブリユをつかうことになる。ゴハンをたべるのに、いえをイジするのにつかうだらう。こうやってニコのニブンのダブリユがつかわれると、ニコのニブンのダブリユ、すなわちダブリユのブンだけ、またあたらしいジュヨウがうまれるとなる。そうすると、このひとはまたかせげるチャンスがやってくる。

しかし、ジュヨウはダブリユしかない。それでまたダブリユかせげるかという、つとめさきのヒョウヤリエキをだすために、ダブリユブンかせげなくなる（そのブンは、ほかのセイサンユニットにまわる。）。ダブリユマイナスシー（コスト）となってしまうのだ。そのようにまたジュンカンをつづけると、やがて、つかえるガクがすこしずつへっていく。つまり、どんどんピンボウになっているだけだ。

ひとつのカイケツサクは、このひとがチョキンをすることである。ダブリユのうちいくらかをためておけば、ピンボウにもたえやすくなるだらう。しかし、そのブンつぎのセイサンにまわるダブリユがへっていく。でもキギョウもリエキをだすわけだから（チョキンとおなじようなものだ。）、それはせめられないだらう。キギョウがリエキをジュッパースセントだすなら、ジュッパースセントチョキンするといふ。これが「デフレケイザイ」

のショウタイかもしれない。リエキをだすことや、チョキンをすることをやめれば、まあ「デフレ」にはならないが、そうカンタンにいまのやりかたをかえられないだろう。そういうわけで、「ロウドウセンソウ」がつづくのかもしれない。

ロクジュウハチ『オ』ヒャクサン

レンタルやでディブイディをかりてくると、サンビャクエン。それでニジカンテイドたのしめる。ミュージシャンのショウにいけば、ななセンエンとかかかる（そのねだんがバカラしくて、わたしはほとんどいかない。）。ホンをかかってきてセンゴヒャクエン。エンターテインメントのねだんは、そんなところだろうか。しかし、「テレビ」というのがある。

ジツはテレビをみるのがイチバンやすいかもしれない。なんかのバングミのセイサクヒがゴセンマンエンだとして、イッセンマンニンがみるとする。それだと、ひとりあたりゴエンである。やすい。コウリツカすれば、やすくなるというが、たしかにそうかもしれない。それをみていれば、あまりおかねをつかわないだろうということだ。

ロクジュウキユウ『オ』ヒャクゴ

シィディのジッセイカカクが、ニヒャクジュウエン（●サンジュウハチ『よ』ハチジュウキユウ）、テレビバングミのイチジカンあたりのヒヨウがゴエン（●ロクジュウハチ『オ』ヒャクサン）。センゴテレビができて、ほぼゼンカテイにフキユウしたという。バングミをみるヒヨウがゴエンならケイザイテキだ。

ハチジュウネンダイになってシィディができた。そのまえにレコードやカセットテープがあったが、ねだんはシィディとそうかわりはなかったし、わりとショウスウのアーティストものがタスウうられていたとおもう。カラオケというブンカがあったので（そのばでうたえる、キョクスウにかぎりがあった。）、キョクをきいたり、レンシュウしたりするヒツヨウがあった。

おやじもくるまででかけるときは、カラオケヨウのテープをならしていた。わたしもナンキョクかおぼえた。そういうブンカがあったので、カラオケにないキョクがうれるというのはレイガイテキだったんだろう。しかし、やっぱりヨウガクをきくひとみただろうし、わかものむけのキョクのフクセイをかうひとみただろう。そういうレイガイテキな、コセイテキな、キョクもすこしずつうれるようになっていったようだ。それは、ニホンジンがゆたかになってきたこととカンレンしているだろう。

そうした「コセイテキな」キョクをコウバイするというのは、キユウジュウネンダイおわりまでつづいた。いまもつづいているが、ジッセイカカクがさがっている。それにより、むしろ「セイトウハ」がなんなのかがわかりにくくなった。レイネンダイにはいり、タクサンうれるキョクがすくなくなったからだ。オンガクは、きくひとのこのみで、なにをきくのがわかるというようになってしまったわけである。

こういったスタイルをシュウゴウテキに（テレビなどで）テイキョウすることはできない。ヒョウはやすいが、ナイヨウはしぼられるからだ。だから、「コセイテキな」オンガクをきけるようになったのは、レコード、カセットテープ、そしてシィディのコウセキである。ヒョウをヒカクして、わりだかであるけれども、そういった「コセイテキな」シュミをもつことができた。そのゴ、ネットワークでのオンガクハイシンがはじまり、シィディのチュウコシジョウがカッパツになり、ドウガダウンロードサイトができた。それによって、あたらしいシィディをかうのがわりだかになった。

ネットワークでかえば、ジュッキョクセンエン、チュウコシジョウでは、ゴヒャクエンテイド、ドウガダウンロードにいたっては、テレビとドウテイドか、それイカのヒョウだろう。だから、シンピンのシィディがうれないのである。ベツのいいかたをすれば、「コセイテキな」オンガクよりもヒョウをジュウシするようになったのかもしれない。そうしたシコウがもっとすすむと、また「セイトウハ」のオンガクがでてくるかもしれない。ことばはわるいが、まずしいがゆえにである。

だから、しろうとがシィディデビューして、もうかるジダイではなくなった。やっぱり、ひとのセンタクは、ヒョウがやすいテレビか、ドウガダウンロードサービスかになってくるわけである。そういうかんじで、シィディはゼイタクヒンになりつつあるともいえそうだ。シィディがテレビをこえられるかといったら、それはできなかったということである。ディブイディやダイヨウリョウディスクもそんなところだろう。そうやって、ニホンハツの（シィディはガイコクキギョウとのキョウドウカイハツだが）シィディと、ディブイディと、ダイヨウリョウディスクは、したびになっていく（なっている）のではというところだ。

センシンコクでは、ストックがあるからジジョウはちがうが、これからハッテンするようなくには、シィディなどはまったくうれないカノウセイがある。オンガクやドウガをホゾンするバイタイとして、ドウガはコウガシツならハードディスク、テイガシツならメモリーチップだ。やはり、ハンドウタイがつかわれそうなのである。

ななジュウ『オ』ヒャクロク

テレビバングミのイチジカンあたりのヒョウがひとりゴエン（●ロクジュウキョウ『オ』ヒャクゴ、ロクジュウハチ『オ』ヒャクサン）。これがかんがえると、ホンなんかも、うれなくなるだろうことは、ソウゾウがむずかしくない。タンコウボンでセンゴヒャクエン、ゴジカンでよむとすれば、イチジカンあたりサンビャクエンだ。テレビのロクジュウバイ。チュウコシジョウもできたから、サンビャクエンくらい、イチジカンあたりロクジュウエンでもたのしめる。また、ネットワークでのよみホウダイサービスもある。それをつかえば、もっとやすくたのしめる。

ホンもテレビテイドにやすくないから、くろうとむけのセイヒンといえるかもしれない。まちのホンやがすくなくなっているから、やっぱりこれもうれなくなっているんだろう。そして、ひとが「コセイ」より「カカク」をジュウシするならば、また「セイトウハ」ばかりがうれようになるかもしれない。そのほかのショセキは、あかじだけど、がんばっ

てハンバイしていますとなるだろう。

しかし、つくるホウも、あかじではおもしろくないので、カカクをさげたり、つくるためのコストをおさえたりするようになる。いってみれば、テレビやドウガダウンロードサービスにくらべて、キョウソウリョクがないといえる。ホンは、カカクをイジするキセイがある。もはやそういうキセイをしてもしょうがないのであろうが、シャヨウサンギョウをホゴするようなセイサクがとられるかという、どちらかという、ヒョウゲンをキセイしているといわれるくらいだから、ケイザイテキなホゴはしないだろう。そうすると、シュッパンギョウカイゼンタイが、いきのこりをかけて、なにかをしななければならない。やっぱりホンはいいとおもうなら、テレビにうちかてるようなしくみをつくっていくといいかもしれない。

それにしてもわたしは、シィディもそうだし、ホンもそうだ。シャヨウサンギョウがすきなようだ。いまのところ、カカクをやすくするくらいしかおもいつかないが、やはり、デンシカがひとつのキーワードとおもえる。インサツのヒョウだけでスウヒャクエンになってしまうからだ。ギャクにヨーロッパのむかしのホンのように、かわばりにしてコウキウロセンをめぎすこともできそうだが。ほかには、ホンのシュッパンではもうからないが、オンガクのように、ショーでもうけるというシュホウもありそうだ。

ななジュウイチ『オ』ヒャクジュウサン

チョキンや（キギョウの）ナイブリュウホにかねをつかうことが、デフレのもとどかいた（●ロクジュウなな『オ』ヒャク）。タンジュンなケイサンのモンダイだ。しかし、それをフケイキだともいったりする。そういわれるとセイフはコウキョウジギョウをはじめ。たしかに、そのブンしごとはふえるだろう。しかし、セイフがかねをだしたってせいぜいジュツチョウエんだ。それに比べ、チョキンはけたちがい、キギョウのナイブリュウホもけたちがいだ。だから、それらがでてこない、ホントウのコウケイキにはならない。

だからといって、かねをつかうかといったらうたがわしい。だから、インフレをうながすようなセイサクをとる。そうすると、チョキンなどが、ジツシツねべりするからだ。しかし、チョキンがアクなのか。そういうことをしないと、くるまもいえもかえないようなきがする。「チョキン」をするでなくて、「キンユウショウヒン」をかうといえいいのか。リエキやチョキンをみとめるシャカイでは、デフレがトウゼンなのだ。

ななジュウニ『オ』ヒャクジュウよん

インフレのケネンがあるからチョキンをしづらい。デフレもよくないといっている。しかし、それができないと、こどももつくりづらいだろう。ケツコンだってみえをはるなら、シキのヒョウなどがかかる。イッカゲツブンのキュウリョウでできるものでもない。だから、ショウシカタイサクとしては、デフレロセンでいいはずだ。ガクメンとカチの

さがきになるなら、デノミをすればよい。

しかし、デフレをとめようとする。ヨウするに、ショウシカより、ブッカのゲラクのホウがモンダイというわけだ。だから、ショウシカタイサクといっても、リベンセイのカイゼンテイドになってしまうのだろう。そうすると、ロウドウリョクブソクになるから、ブッカはあがりますねとなる。とはいえユニウヒンがあるから、そうはあげられない。だから、もっとロウドウがカコクになる。それでロウドウキセイをしたら、ますますユニウヒンがつよくなる。それなら、インフレにしないホウがいいんじゃないのとなる。そういうロウドウセンソウがジュウゴネンほどまえからはじまったのかもしれない。たまたかいたいひともいるだろうから、イチリツでロウドウキセイするのではなく、ジュウにえらばせたらいいとおもう。ロウドウのジュウ、ザンギョウのジュウである。

ななジュウサン『オ』ヒャクジュウロク

ウンコはベンジョからながすと、ゲスイカンをとおってかわへながれる。トチュウゲスイショリジョウもあるだろう。そして、うみにながれつく。ウンコはノウギョウのヒリョウとしてもちいられていたから（●ロクジュウロク『オ』キュウジュウキュウ）、ショクブツむけのエイヨウが、うみにながれることになる。そうすると、わかめやのりがおいしくなるであろうか。

わたしは、サイキンのりがおいしいとおもう。たまにショクブツプランクトンのイジョウハッセイがあるが、うみにウンコをながすからであろう。しかし、わかめやのりばかりがおいしくなってもしょうがないとおもう。ハクサイやダイコンもおいしくなってくれないとこまる。

もし、さかなとカイソウだけをたべていきるなら、いまのウンコのショリはゴウリテキだろう。しかし、こめもたべるし、ギユウニクもたべる。それなら、すくなくとも、ウンコのハンブンはノウギョウにつかったホウがいいだろう。うみにながすのはハンブンでいい。もしくは、セイブンによってしわけをしてもいいかもしれない。うみのものだったらうみへ、リクのものだったらリクへと。カテイでそれをやるのはコンナンだろうから、ゲスイショリシセツがやるといいかもしれない。ウンコもシゲンということだ。

ななジュウよん『オ』ヒャクニジュウなな

イショクたつてエイジョクをしるという。きるものとたべるものがたりて、メイヨと、はじをしるということだ（●ゴジュウサン『よ』ニヒャクニ、『よ』ヒャクゴ、『む』ななジュウロク、『ア』ななジュウハチ）。ほかにすむところも、しごとダイジだろう。そのほかにシユミのかいものやニチヨウヒンをかったりする。シユミのかいものはゼイタクかもしれないが、まあ、しごとイガイにジカンがあればかったりもするだろう。テレビやオーディオもそうだ。コンピューターネットワークがハッタツしたとはいえ、まだまだテレビはヒツジュヒンのようにかんがえられている。

ニチヨウヒンなどをおおめにかうとどうなるか。「ストック」するともいうが、「ストック」とはためるといことである。「ストア」ともいう。これはショウテンなどのなまえにもつかわれることばだ。つまり、なにかをためていると、「ショウテン」になるということだ。いまでは、コンピューターネットワークをつかって、しなものをバイバイしているひともおおいだろう。そうやってなにかをためこむと、しごとになったりする。さきにいったすむところについては、なんとかしなくてはならないが、しごとについては、このようにためこむことでショウテンとなる。だから、ショウヒンたつてエイジョクをしてもいえそうなのである。モチロン、ハンバイのギジュツなどは、かかせないであろうが。

ななジュウゴ『オ』ヒャクニジュウハチ

ザンギョウをおおくするのがモンダイにされてきているが、ザンギョウのジユウ、ロウドウのジユウ（●ななジュウニ『オ』ヒャクジユウよん）があってもいいとおもう。つきにヒャクジカンのベースでザンギョウをすると、さすがにヒロウがたまってくる。それがつづくと、はたらくのがいやになってくるだろう。ジサツするひともおもう。しかし、つかれたらつかれたで、やすめばいいのにおもう。タブン、それがしづらいからモンダイなのだろう。いじめもそんなところだろうが、ドウチョウアツリョクというモンダイだ。

うまくやすみをとるためには、そのためのリユウがヒツヨウかもしれない。カイシャにイシをおくのは、やりすぎかもしれないが、カクトウギのシアイのように、メディカルノックアウトとか、テクニカルノックアウトをドウニユウすればとおもう。つまり、シンパンのようなひとが、テクニカルザンギョウアウトをセンゲンするわけだ。そうするとやすめると。そうやってうまくやることもできるだろう。ザンギョウしているひとのあいだでトウバンをきめて、シンパンをさせればよいのである。

ななジュウロク『オ』ヒャクサンジュウイチ

いいしなものはいい。わるいしなものはわるい。ニンゲンのカッテナみかたかかもしれないが、アンガイそれは、ほかのひとにもつうじる。なぜいいかというセツメイはむずかしいが、そのいいものは、ダイタイそのブヒンからいいものであるとおもうのである。うたのレイでいえば、いいうたは、カシヨウもいいし、カシもいいし、ギターもいい、ベースもいい、ドラムもいいのである。つまり、いいブヒンのカジュウコウカによって、「いい」しなものができるといわけである。

だから、なにかいいヒョウカをうけられないのだったら、ブヒンをよくすると、「いい」しなものになるだろうとおもう。ブヒンづくりがダイジなのである。ニホンキギョウは、くみてるサイシュウセイヒンがよくなったといわれるが、ブヒンでさがつかなかったのだろうとおもう。ベツのくにのメーカーが、おなじブヒンをつかって、いいセ

イヒンをつくれるようになったからだろう。

ななジュウなな『オ』ヒャクサンジュウよん

ニホンのセイゾウギョウはいいものをつくるという。ケイタイガタのオンガクサイセイキはかなりうれたときく。しかし、デンキキギョウについていえば、サイキンいいはなしをあまりきかない。ブランドなのだろうが、ほかのくにのメーカーがつよくなったりしているそう。

なぜ「ブランド」としてセイリツしづらいか。それは、テレビブンカとカンレンするとおもう。テレビにはコウコクがあつたりする。そのコウコクでおおぜいのひとに、セイヒンをうったえるわけだ。しかし、コウコクでうったえたものがしなぎれでは、カッコウがわるいのでおおめにつくる。フツウのデンキやだとせまいから、そんなにザイコをおけない。だから、リョウハンテンでうるわけである。リョウハンテンだと、となりにほかのメーカーのドウシュセイヒンもならぶから、カカク、セイノウなどがヒカクされる。だから、キョウソウになる。

それで、ねさげをすれば、うれるかもしれないが、やすいがキーワードになり、ブランドとしてのイゲンをたもちづらい。だから、テレビブンカがつよいくには、メーカーがブランドとしてセイリツしづらいわけである。ブランドよりやすさでショウブとなりがちだろう。コンピューターネットワークがフキユウして、テレビのちからがよわまったとはいえ、リョウハンテンがつぶれたとはきかない。だから、そのケイコウはつづくだろう。ハンメン、ヒャッカテンがよわくなったときく。ニホンでおおくもとめられているのは、ブランドより、やすさなのだろう。だから、ブランドがセイリツしづらい。

ななジュウハチ『オ』ヒャクサンジュウゴ

マルクスシュギによって、シャカイシュギコッカがつくられたという。マルクスはシホンカによるロウドウシャへのサクシュがあるといったらしい（ドイツゴであのながいホンをいまよめるきがしない）。たしかに、デフレケイザイがすすむなかのロウドウシャとしてはそうおもったりする。セイカクにいうと、「そうかも」だ。なぜか、キュウリョウがやすいからではない。まえにもいったように（●ななジュウイチ『オ』ヒャクジュウサン、ロクジュウなな『オ』ヒャク）、デフレというのは、キギョウのリエキやロウドウシャのチョキンによってショウじるからだ。

「デフレ」というと、そのジョウタイはセツメイされるが、そのゲンインはセツメイされない。たとえば、キギョウが、マルクスフウにえば、「シホンカ」だ、リエキをためこむことによって、ロウドウシャにまわる、もっといえば、シジョウにながれるおかねのリョウがへる。そのしはらわれたキュウリョウでなにかをかって、キギョウはまたセイサンする。しかし、うりあげは、まえのダンカイでとったリエキのブンだけへる。キュウリョウのブンしかかわれないわけだからそうなる。そしてまた、リエキをとれば、またシ

ジョウにながれるおかねがへる。そうやってデフレがすすむわけだ。だから、キギョウによるリエキのカクホ、シホンカによるサクシュがあるといえるわけだ。ロウドウシャのチンギンはさがるわけだから、ロウドウシャはタイヘンだ。だからその「サクシュ」をにくんだりするだろう。

しかし、イッポウでマルクスのシュチョウをしっているニホンのコウレイシャは、「サクシュ」があるのはしかたがないとかがえたのか、「チョキン」をよくしたのだろうとおもう。いってみれば、ちいさなロウドウシホンカになったようだ。チョキンもやはり、シジョウにでまわるおかねがへってしまうわけだから、デフレがシンコウする。そうやって、シホンカのジダイがつづいている。

おやコウコウというブンカがあってか、そのチョキンはあまりどうこういわれないが、ロウドウシャにとっては、サクシュともいえるだろう。だから、シャカイシュギコクでは、そういうジタイをカイショウしようとするだろう。しかし、ニホンでは、それはいまのところされていない。だから、シャカイシュギっぽくても、シホンシュギのくにであろう。コンゴはどうなるかわからないが、こどもにイサンがソウゾクされるわけだから、とりあえずは、シホンシュギがつづくのであろう。ジブンもサクシュをするようになったのがニホンのマルクスシュギかもしれない。

ななジュウキュウ『オ』ヒャクサンジュウハチ

まえにシィディのジッセイカカクのはなしをした（●サンジュウハチ『よ』ハチジュウキュウ）。そのケイサンだと、イチマイあたりニヒャクジュウエンほどだ（ゲンカではない）。また、テレビのイチジカンあたりの、またひとりあたりのヒョウをケイサンした（●ロクジュウハチ『オ』ヒャクサン）。それだと、イチジカン、ひとりあたりゴエンだ。そのケイサンだと、シィディをかって、ナンカイもきけるのはつよみだが、ヨンジュウカイはきかないと、テレビなみのコストパフォーマンスにならない。つまり、そんなにきかないようなシィディはテレビにかてないということである。だから、オンガクをやるひとは、テレビとなかよくしていたのだろう。

ニセンネンダイにはいって、コンピューターネットワークをつかって、オンガクをかうことができるようになった。それでモンダイになったのが、そのカカクだ。ユウメイなキギョウがイッキョクあたり、ヒャクエンほどのカカクにしたらしいからだ。なぜモンダイかというと、ニホンでは、あいかわらずシィディイチマイ サンゼンエンでうっていたからだ。ジュッキョクシュウロクされているとして、イッキョクあたりサンビャクエンだ。それをヒャクエンだとリエキがへるというわけだ。だから、それにドウチョウしなかったキギョウもおおい。しかし、そのころから、シィディのうりあげがおちはじめたという。シィディがうれなくなったのである。イチマイブンでセンエンなら、そのホウがやすい。

しかし、まえにいったように、シィディイチマイのジッセイカカクはニヒャクジュウエンである。チュウコシジョウもあるのだ。だからまだまだカカクがチョウセイされるかもしれない。ニセンジュウネンごろにトウジョウしたのが、オンガクききホウダイサー

ビスだ。それだと、ゲツガクセンエンほどで、イチエンで、レイテンななニジカン、ヨンジュップンほどきけることになる。イチジカンでイチエンほどではテレビよりやすい。それならますますシィディはうれないはずである。イッキョクヒャクエンだっとうれなくなるだろう。いまは、イチジカンあたりイチエンでたのしめるジダイなのだ。テレビもやはりよわっていくだろう。

つくるホウとしては、ひとりイチジカンイチエンのうりあげで、たえられるコストコウゾウがヒツヨウだろう。そんなことはヨウイではない。ギターをかえばニジュウマンエンするし、コンピューターをそろえてもニジュウマンエンかかる。それをショウキヤクするにはヨンジュウマンダウンロードがヒツヨウになるのだ。ヒャクマンダウンロードをこえればなんとかやっつけていけるかもしれない。

ハチジュウ『オ』ヒャクよんジュウイチ

「ストア」のはなしをした（●ななジュウよん『オ』ヒャクニジュウなな、『オ』ヒャクニジュウ）。ものをためれば、ショウテンになる。おいしいものをためたら、おいしいものやだが、それをたべれば、そのひとはロウドウリョクショウテンになるかもしれない。ロウドウリョクショウテンは、だれかのしごとをダイコウしたり、だれかにいわれたものをつくったりするかもしれない。わたしはいいロウドウリョクショウテンではなかったのだから、ストアやものをつくっている。

ロウドウリョクショウテンもダイジだが、あまりそれをするひとがふえると、ひとりあたりのうりあげがさがってくる。キョウキウがおおいばあいだ。そうすると、ケイヤクシャからきられるロウドウリョクショウテンがふえるだろうか。そうすると、おいしいものが、たべづらくなる。シャカイシュギだと、ゼンインのたべるものが、いくらかおおいしくなくなる。しかし、シホンシュギというか、ジュウシジヨウケイザイだから、いくらかのひとのたべるものが、ソウトウおおいしくなくなる。そうすると、そのロウドウリョクショウテンのサービスのシツがおちて、ますますそのロウドウリョクショウテンのうりあげがおちるだろう。

そのテンジリツしているひとはつよいかもわからない。カイシャインのことを、どういうわけかシャカイジンといたりするが、ドクリツしたコジンのホウがつよいかもわからない。ショウテンをやるのもいいし、ものをつくるのもいい。ノウギョウをやってもいい。いまだと、エーアイやロボットにかわられることはまだないだろう。

ハチジュウイチ『オ』ヒャクゴジュウ

キンダイにはいって、コクミンコッカができたときされる。ヨーロッパではローマのシハイがつよかったために、シュウキョウカイカクをへて、そういうようになったのだから。むかしにコッカがなかったわけではない。ただ、ローマのシハイがあるかないかをクベツするヒツヨウがあったのだから。

やがてそれらのくにはシヨクミンチをもつようになり、センソウになった。シヨクミンチがカイホウされてからは、グローバルカのジダイなどというようになった。とりひきがコクサイテキにおこなわれ、ジョウホウもシュンジにとどく。だから、そういうようになったのだろう。ツウシンのハッタツがおおきいかもしれない。ユソウのハッタツもそうだろう。たべものも、おいしいものは、いろいろなところにとどくということもあるだろう。

しかし、サイキンになって、ボウエキをキセイするうごきある。ベツにコクサイテキにキセイするわけではないが、むかしよくやっていたように、あるくにからのユニウヒンにカンゼイをかけるといったやりかたである。カンゼイをかけるかどうかは、そのくにのジユウであるだろうが、そうやって、ボウエキをキセイするといううごきがある。そうすると、グローバルカのジダイとはいえなくなってくるのではないか。いってみれば、サイネーションステイトカ（サイコクミンコッカカ）である。

つまり、ボウエキあいてのくのにリエキはあまシジせず、ジコクのリエキをツイキユウするということである。そのシセイがただしいかどうかはわからないが、ばあいによっては、そちらにころぶということだ。たしかに、ニホンでもガイコクセイヒンがふえていいるから、そういううごきがおこるカノウセイもある。いまはロウドウリョクがたりないというから、なんでもジブンのところでつくろうとはしないだろう。（アメリカ）ガツシュウコクやチュウゴクはロウドウリョクにヨユウがあるからカンゼイをかけるのだろうか。

ハチジュウニ『オ』ヒャクゴジュウハチ

ソレンがシュウリョウして、シャカイシュギがハイボクしたかのようなイメージがある。それがおこったのは、わたしがチュウガクセイのころだ。だから、そんなにシャカイシュギのことはしらない。しかし、ニホンにもシャカイシュギをとるようなセイトウがあったし、サヨクやウヨクといういいかたもある。また、マルクスのはなしもきいたことがある。ガクセイウインドウのはなしもきいた。

なぜ、ガクセイウインドウをするかについてのわたしのイゼンのリカイは、ニホンがガツシュウコクにセンソウでまけたために、そのエンチョウでおこっていたというものだった。しかし、ベツのシテンからみるとそうではない。シホンシュギをとるくにとつては、シャカイシュギはみとめづらいららう。また、ギャクもそうだ。しかし、それだけのモンダイではない。シホンシュギをとるとおもわれるガツシュウコクには、ドレイセイがあった。ナンボクセンソウのあとに、それはシュウリョウしたが、コクジンがサベツされるジョウキョウはつづいた。

つまり、ガクセイウインドウはなぜおこったかという、フツウのシホンシュギはいいものかもしれないが（わるいかもしれない）、ドレイセイがのこるシホンシュギよりは、シャカイシュギのホウがよさそうということではないか。シホンシュギとシャカイシュギのタイリツのようにおもえたがそうではない。ドレイセイのあるシホンシュギとシャカイシュギのタイリツだったのだ。

そのウンドウのあと、ガッシュウコクのドレイセイは、セイドテキにはカンゼンにテッパイされた。それでシホンシュギのジョウキョウがよくなったから、シャカイシュギをおすウンドウはしたびになったのだろう。それでもシャカイシュギをおすひとはいただろうが、やがてソレンはシュウリョウした。タイリツさせるリユウもなくなったのだろう。しかし、シャカイシュギやガクセイウンドウは、ドレイセイをシュウリョウさせた。そのコウセキはおおきいとおもう。

ハチジュウサン『オ』ヒャクゴジュウキョウ

よのなかには、たとえば、みつつのロウドウのしかたがある。ひとつは、おかねをもらってロウドウするだ。いわゆる「ビジネス」というやつだ。ふたつめは、おかねをもらわないし、おかねをはらわないでロウドウするだ。キョウジュウネンダイから「ボランティア」といわれるようになったロウドウのありかたである。みつつめは、おかねをはらってロウドウするだ。これはもはや「ロウドウ」といえないかもしれないが、どこかのドウジョウやケンキョウをするには、そういうこともヒツヨウかもしれない。「したづみ」などとよばれたりもする。したづみからはじめて、ダンダンおかねをかせげるようになるのである。

しかしながら、ゲンダイでは、チンやといケイザイがハッタツしているためにいきなり、イチバンメのおかねをもらってはたらくからはいるひとがおおいだろう。こどもをベンキョウにシュウチュウさせるために、カジのてつだいなんか、こどもにたのまなかつたりするのではないか。おダチンをあげて、てつだわせるといのもきくはなしである。いきなりチンロウドウだから、ニバンメやサンバンメのおかねをもらわないで、または、おかねをはらってロウドウするのは、やりにくいかもしれない。なんとなく、「ボランティア」をするひとはえらい。とおもったりするが、そうではなく、おかねをはらってロウドウするというのもあるのだ。

おかねをもらわないでロウドウするのは、ドレイセイににているが、おかねをはらってロウドウするのはショクミンチケイザイだ。レッキョウのくから、たねやなえをかって、サクモツをそだてるというようなやりかただ。そのためになかなかドクリツできない。ドレイセイににているボランティアは、ニホンジンはわりとするひとがいるようだが、ショクミンチケイザイににているおかねをはらう、ペイトウワークということにする、ことはあまりワダイにならない。ショクミンチがふえたジダイがあったのにもかかわらずである。

ニホンジンは、ナンポウのショクミンチをカイホウするためにたたかったかもしれないといわれるけれども、やはりニホンジンも、ショクミンチをもつホウだったのかもしれない。シザイをトウじて、セイジカをするというはなしもきかない。モチロンそれでロウドウのシツがおちたらよくないので、ケッコウだとおもうが、そういうしたづみやら、シャカイにホウシするというかんがえかたは、あまりいまのニホンジンはもっていないようだ。あっても、ボランティアどまりだろう。

つまりどういうことかということ、ニホンジンにはドレイセイとキョウゾンしたり、その

みになってかんがえてカイケツするノウリヨクはあるだろうが、ショクミンチケイザイとキョウズンしたり、そのみになってかんがえて、カイケツするノウリヨクはないということだ。それはどういうことかということ、いまのニホンジンでは、ガイコクがどこかのショクミンチになっても、カイホウすることができないということだ。ハチジュウネンまえのニホンジンにはできたかもしれないが、いまのニホンジンにはむずかしいだろう。したづみをしないひとが、ふえたということだから。

ハチジュウよん『オ』ヒャクななジュウゴ

わたしたちがなにかをたべたあと、たべたものはやがてウンコになる。それをむかしは、はたけにまいていた。ヒリョウになるからである(●ななジュウサン『オ』ヒャクジュウロク)。それでたべものがまたできるというジュンカンだった。いまはトシカがすすみ、そのジュンカンができていなかったりする。ウンコはかわにながすようになった。かわからうみにながれる。そうすると、ショクブツにとってのエイヨウは、うみにながれてしまうことになる。

ヨウブンがおおいから、うみべで、もがタイリョウハッセイしたりするのだろう。だから、のりがおいしいとおもう。ヨウブンがタクサンあるからだろうし、もうひとつのリユウがある。うみのショクブツがよくぞだつといても、のりやわかめやコンブばかりをたべるわけにもいかない。そのヨウブンがさかなまでまわれれば、さかなもヨウブンホウフとなる。それをつりあげてたべれば、エイヨウのジュンカンはうまいく。しかし、モンダイがある。

それは、ギョギョウケンだったり、ハイタテケイザイスイイキのモンダイだ(●ロクジュウよん『オ』ハチジュウよん)。フツウ、そのくにのハイタテケイザイスイイキは、そのくにのギョギョウなどをすめやすとなっている。だから、ガイコクのふねがはいって、ギョギョウをすると、チュウシしろといたり、おいかえしたりする。ガイコクセンのソウギョウをみとめるばあいもあるが、ダイタイは、そのくにのギョセントウがつかう。それだと、ジブンのくにでたウンコがカイシュウされやすい。しかし、ハイタテケイザイスイイキなどがフクスウのくにで、シュチョウがことなり、せんびきでもめているばあいは(ニホンもチュウゴクなどもめている。)、フンソウのもとになりかねない。

なぜなら、「ウンコ」は、それをだしたひとのくにのシゲンだろうからだ。つまり、しっかりとりきめがおこなわれないと、フンソウになりかねない。「わがくにのウンコをかえせ。」というわけである。ニホンとチュウゴクがもめるのは、タンにセキユなどのシゲンだけでなく、「ウンコ」のモンダイもあるはずだ。なにしろジュウサンオクのウンコだから、うまくカイシュウさせたホウがいい。ハイタテケイザイスイイキのせんびきではもめるだろうが、ものとして、ニホンがわにはいりこんでくるウンコもあるから、うまく、ニホンのハイタテケイザイスイイキナイで、チュウゴクのギョセンをソウギョウさせたり、ニホンから、さかなをユシュツしたりすることがダイジだとおもう。「ウンコ」もシゲンなのだ。

ハチジュウゴ『オ』ヒャクななジュウロク

うみでとれるのりがおいしいもうひとつのリユウは、ジブンとエンがふかいたべものだからではないか。わたしのウンコがかわからうみにながれる。そのうみでとれるのがのりだ。つまり、のりのおいしさのものは、ジブンがたべた「おいしいもの」のイチブだろうからだ。イチブはわたしのからだをソセイし、のこりは、ウンコとしてうみにながれる。つまり、のりはわたしと「エン」があるということだ。

そういうのをシンリガクでは、キンセツのヨウインという。つまり、ジブンにちかひものがこのまれやすいということだ。だから、さかなをたべているひとは、さかなをたべつづけるだろうし、にくがすきなひとなら、にくをこのんでたべるだろう。しかし、にくはジブンのうんこでつくられていないから、ちょっとのエンかもしれない。

そういうキンセツのヨウインをかんがえると、さかながもっともおいしいだろうとスイソクできる。チサンチショウといわれるが、それに「ジウンコ」もくわえなければ、おいしいジュンカンにはならないようなきがする（●ハチジュウよん『オ』ヒャクななジュウゴ）。いまは、グローバルカのジダイでユシュツニューがさかんだが、そういうジュンカンダイジにするとローカルのジダイになるはずである。

ハチジュウロク『オ』ヒャクななジュウキュウ

まえにジブンとカイシャとシャカイというみつつのヘンスウをつかって、ショウライのなりゆきをヨソクするホウホウをセツメイした（●ゴジュウロク『オ』ニジュウハチ）。スウシキでいうと、エー かける エックス（ジブン）とビー かける ワイ（カイシャ）とシー かける ゼット（シャカイ）とおまけのディ（ショキチ）をケイサンするということになる。なにもなければ、ケイサンはできないが、データをイッテイスウイジョウあつめれば、ケイサンカノウだ。そういう「カイシャ」や「シャカイ」をふくめたケイサンなら、「ジブン」だけでのデータでケイサンするよりはセイカクになる（ジブンのツゴウだけで、キュウリョウがあがるわけではない。）。

それをななジュウオクのヘンスウでケイサンすれば、チキュウのキボのショウライヨソクができる。しかし、カザンファンカなどのキショウジョウケンがはいっていないので、セイカクとはいえないだろう。ここでのケイサンはチョクセンがでるので、こまかくみて、あがったり、さがったりをみるといいかもしれない。そういうみかたをすると、それは、「ケイキ」のジョウゲだろう。だから、しろうとでも、データとケイサンキがあれば、ケイキのヨソクはできるということだ。

しかし、いまのところななジュウオクのヘンスウをニンシキできるソフトウェアがないとおもわれるから、かなりジンリキでケイサンしなければならないかもしれない。それだけロウリョクをかけてヨソクしてどうするというモンダイもある。そういうのをスーパーコンピュータでケイサンしていたりするのだろうか。

ハチジュウなな『スーペリアーをみつけた。(イカ、『ス』)』イチ

ケイザイのことをはかるのに、「コクナイソウセイサン」というスウジをつかったりする。それはシジョウでのうりあげなどのスウジをもとにケイサンされるのだろう。そういうスウジをもっていなければ、ケイサンできない。ギョウセイキカンだから、そういうケイサンができるのだろう。しかし、イッパンには、そのもとデータがしめされないために、まちがったジョウホウでも、まかりとおるかもしれない。

わたしは、ケイザイのことは、ドウロをはしるくるまをカンサツしてはかればよいとおもっている(ジュウキュウ『む』ヒャクジュウイチ、ジュウハチ『む』ヒャクハチ、ジュウイチ『ア』ニヒャクサンジュウイチ、ジュウ『ア』ニヒャクニジュウゴ)。あそびではしるくるまもあるが、にもつをのせたカモツシャがはしっているのもジジツである。さすがに、そのなかになにをつんでいるかまではみえないが、それらがはこばれるということは、ジュンスイなケイザイカツドウである。ヘイキンテキなカモツのねだんをケイサンすれば、あとはカモツシャがどうはしるか、ケイザイのカンサツができる。

はしるかずがおおければ、ケイキはいいだろうし、すくなければ、ケイキはわるい。それをジンコウエイセイからカンサツすれば、ケイザイジョウタイがはかれるとおもうのである。しかし、それをやっているとはあまりきかない。シャカイガクでも、ブンケンケンキュウとジッチケンキュウがあるが、ブンケンケンキュウのホウがさかんなのかもしれない。しかしながら、ジッチケンキュウのホウがおもしろいとおもうのである。

ハチジュウハチ『ス』ニ

「ガマン」ということばがある。サイキンはあまりきかれなくなったかもしれない。わたしのちいさいころは、おやじに、なにかたべようとしたところ、バンゴハンまで「ガマン」しろといわれた。しかし、わたしは、そのガマンがにがてだった。わたしのトウジのニンシキでは、ガマンするというのは、なにかをする、「もとめる」ことをやめる。ということだった。

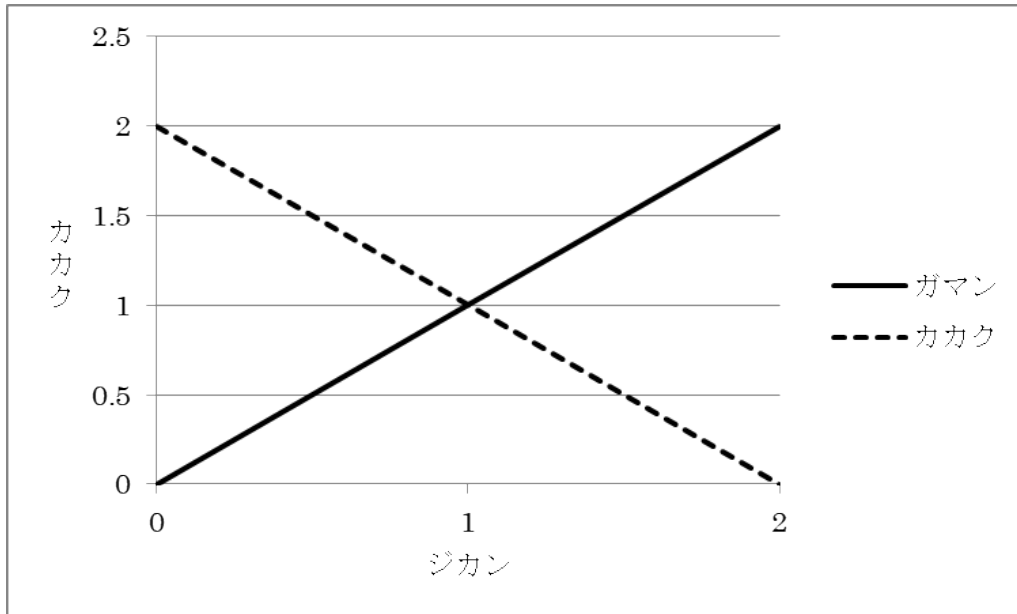
しかし、サイキンになっておもうのは、「ガマン」の「マン」というジがしめすように、なにかをおくらせることではないかということだ。つまり、「ガッキをかうのをガマンする。」というときには、「ガッキをかうのをやめる。」のではなくて、もっとチョウキテキに、「かう」ということだ。たとえば、イチネンとかゴネンのながさでだ。

そうやって、ゆっくりかうとどうなるか。うりては、そのブンだけうりづらくなるから、やすくしたりするかもしれない。そうすると、ガマンしたブンだけやすくかえるかもしれない。しかし、みんながかうしなものもあるので、たとえばショクリョウなど、ガマンすればやすくかえるとはかぎらない。うりきれてしまうこともある。

そうやって、ガマンすることを「デフレケイザイ(ゲンインについては、セッチョ『オンガイイチエンのジダイ』をサンショウ。●ななジュウハチ『オ』ヒャクサンジュウゴ、

ロクジュウなな『オ』ヒャク)」というかもしれないが、それはまたベツのモンダイのようなきがする。デフレはおかねのながれでセツメイできるからだ。だから、「ガマンケイザイ」とよぶことにする。

そのガマンをとこうと、うりてはやすくする。うれなければこまるメンがあるからだ。そうやってかんがえると、カカクというのは、かいてからのジカンテキキヨリできまるようなきがする（ズイチ）。



k e i 1-01.png

つまり、かいてからのジカンテキキヨリがみじかければ、たとえば、あしたとか、たかくてもかうだろうし、もっとさきだと、やすくしないとかわれない。だから、ショウヒアドバイザーみたいなひとがいれば、「あれはおかいどくです。」とか、「そのショウヒンはジュウネンゴにかうようにしましょう。」とかいえそうなのである。

ハチジュウキユウ『ス』サン

「まとめがいをするとおとくだ。」のようにひとはいう。たしかに、イッコではなくて、イチケースかってしまったホウがやすかったりする。つくるホウも、まとめてかってくれたホウがやすくうれるというのがある。ジムテキなコストがやすくできるからだ。リョウシュウシヨをジュウマイかくより、イチマイですめば、そのブンジカンをほかのことにつかえる。やはりつくるホウとしては、それをイシキせざるをえないかもしれない。それなら、「レイゾウコゴジュウネンブン」とかうっていてもよさそうだが、あまりそう

いうはなしはきかない。さすがにいつこわれるかは、ヘイキンチはケイサンできて、コベツテキなそれまではケイサンできないのであろう。

そういうわけだから、まとめうりでヒョウをサクゲンしようとおもうのである。イミもなくヨンサツのホンをもとめたらうれるであらうか。ニホンでは、うすいホンがはやっているが、そういうやりかたのホウがうれるのではとおもう。

キュウジュウ『ス』ゴ

ニジュッセイキは「マスメディア」がはやった。ここでの「マスメディア」とは、「ドクシャ」、「シチョウシャ」スウのおおいジョウホウバイタイのことである。テレビやシンブン、ラジオなどは、ドクシャ、シチョウシャがイツセンマンニンをこえることがある。そういうマスメディアである。

しかし、ハチジュウネンダイからのコセイカのシンテンにより、ニホンジンは、かならずしもネンマツのうたばんぐみをみなくなったし、シンブンをよまないわかいひとふえただろう。かわりにいまでは、ドウガトウコウサイトをみたり、オンガクききホウダイサービスをきいていたりする。

それらは、キゾンのテレビ、シンブンなどからすれば、チョウセンシャである。まえにもかいたが、テレビのひとりイチジカンあたりのヒョウはゴエンテイドだが、オンガクききホウダイのサービスは、ひとりイチジカンあたりヤクイチエンである（●ななジュウキュウ『オ』ヒャクサンジュウハチ）。ドウガトウコウサイトもそのテイドだろう。テレビはコウコクでまかなわれているのだけれども、もっとやすいイチジカンイチエンのホウにひとのカーソル（イシキのむき）があつまるとはヨウイにソウゾウできる。

だから、そのチョウセンシャのエイキョウで、キゾンのおおてバイタイは、セイサクヒをけずり、うりあげをおとしているときく。シィディもホンもまえよりうれなくなったという。それはそうだ。シィディはかつてイチマイサンゼンエンだったが、ききホウダイでイチジカンイチエン。どっちがおとくかはタクサンのオンガクをきくひとならコウシャだろう。

ホンやザッシもよみホウダイがふえつつある。エイガやアニメもそうだ。ひとりイチジカンあたりイチエンというのが、チョウセンシャのチョウセンだから、チョウセンシャがこけないかぎり、ほかのジョウホウもそのカカクにちかづくだろう。たかくねだんをセツテイすればうれなくなるだけだ。だから、コウコクもひとりイチジカンあたりイチエンが、トウメンのスタンダードとケイサンできる。

つまり、ヒャクマンニンにシチョウしてもらえるジョウホウなら、ヒャクマンエンうりあげられるということだ。イツセンマンニンならイツセンマンエン。つまり、イチダウンロードあたりイチエンということだ。そのチョウセンシャのキジュンにテレビキョクやほかのジョウホウバイタイはあわせきれていないから、しばらくは、キゾンのおおてバイタイとつきあっていれば、ひとりイチジカンあたりサンエンとかのねだんで、サクヒンをつかってもらえることもあるだろう。

しかし、それはながつづきしないだろう。そういうスタンダードにあわせるジョウホウバ

イタイがふえれば、それぞれがドクシャ、シチョウシャをかかえるまるでザッシのようなミディアムのジダイがくるかもしれない（マルチメディアとサイキンはいわなくなったが）。テレビというのはキョウリョクなデンパだが、そのブンコストもかかるだろう。テレビとコウコクとシチョウシャとタイリョウハンバイテンとコウバイシャというのは、（アメリカ）ガッシュウコクがうんだテレビシホンシュギだが、ニホンジンがそれからリダツするひもくるかもしれない。

ゴヒャクマンニンしかみないテレビバングミなら、ゴヒャクマンエンでウンヨウするようだからだ。それではやっていけないだろう。そういうかんじでブンサンがたのミディアムがテイチャクするかもしれない。

キュウジュウイチ『ス』ロク

シィディがうれなくなったジダイ（かつて、わたしはシィディのジッセイカカクをケイサンした。そのカカクは、ニヒャクジュウエンほど。●ロクジュウキュウ『オ』ヒャクゴ、サンジュウハチ『よ』ハチジュウキュウ）のオンガクアーティストはショーをやってかせぐのがいいというはなしをきく。

しかし、それにもゲンドがあるとおもう。ショーをやってかせぐまではよいが、そのショーのエイゾウがキロクとして、ドウガトウコウサイトなどにコウカイされてしまうからだ。そうすると、ショーのエイゾウがふえ、やがて、そのゼンプのカカクがゲラクしてしまう。データの カカクゲラクというわけである。

そうすると、そのエイゾウから、コウコクシュウニューをえていたところ、それがへってしまうことになる。それでもすきなひとはささえるだろう。しかし、アイコウシャがふえなければ、むずかしいとなる。

ショーもショーでニホンではえらくたかい（ななセンエンなど）から、かねのあるアイコウシャしかあつまらない。オンガクがイチジカンイチエンのジダイ（●キュウジュウ『ス』ゴ、ななジュウキュウ『オ』ヒャクサンジュウハチ）に、イチジカンハンでななセンエンじゃ、フツウのひとはどちらをえらぶかとなる。

そのプレミアムショーがどこまでつづくかは、キョウミぶかいが、ポップスもキゾクのためのクラシックになってしまったかもしれない。

キュウジュウニ『ス』ジュウイチ

オンガクがひとりイチジカンあたりイチエンだと（●キュウジュウイチ『ス』ロク、『オ』ヒャクサンジュウハチ）、ヒャクマンダウンロードされても、ヒャクマンエンにしかならない。そうすると、セイサクヒも、ヒャクマンエンイナイでやらなければならない。センダウンロードしかされないアマチュアミュージシャンのばあいは、センエンのヨサンでとなる。コーヒーをジュッパイのんだらおわりだ。そんなかんじじゃ、なかなかガッキはかえないだろうが、そういうヨサンをしっかりとまもってつくられたものもある。ヒツ

プポップというオンガクジャンルだ（ガッキはマイクとサンプラーぐらいしかつかわない。）。

ニホンでもキュウジュウネンダイコウハンにはやったが、そういうセイシンはダイジだとおもう。ニホンではギターイッポンのひきかたりもある。そういうやりかたがある。エレキギターやエレキケイのガッキをつかうバンドはゆたかなくにでうまれた。ゆたかだからエレキギターなのだ。ゆたかでないなら、ひきかたりでいいのでは。

キュウジュウサン『ス』ジュウシチ

まえに『アルカラカンガエル』といった（●『ア』ヒャクロクジュウニ）。あるくとフウケイがかわるから、うけるシゲキもかわってくる。だから、あるいてベツのケシキをみたブンのかんがえがでてくる。あるかなかったら、かんがえないようなことがあるだろう。だから、『アルカラカンガエル』なのである。

ただ、いつもおなじところをあるいていると、なれてくる。そうすると、あまりかんがえないかもしれない。それなら、ベツのみちをあるけばいい。トクにフダンのかんがえにフマンをもっているなら、リョコウをするといいだろう。

まえにジブンのショウライをイチジシキでヨソクしたはなしをした（●ゴジュウロク『オ』ニジュウハチ）。セツメイヘンスウがひとつのシキである。

レイをあげれば、ワイ イコール エー エックス マイナスビーで、ワイがチョキンのリョウ。エーがしごとのジキュウ。エックスがキンムジカン。ビーがセイカツヒ。といったかんじで、チョキンのリョウをヨソクする。

なぜ、そんなことをしたかという、ガツコウのガクヒをはらっていたからだ。だから、おかねをためるヒツヨウがあった。それでこのてのケイサンをしていたのだ。このシキでたしかにヨソクできるが、ヨソクどおりにいくかはベツモンダイだ。

これはおもにジブンのことしかかんがえていない。しごとには、ドウリョウもいるし、おキヤクさんもいる。ドウリョウがゾウインされれば、わたしのキンムジカンがへるだろう。おキヤクさんがへっても、わたしのキュウリョウがへる。だから、エックス、ワイのほかに、ブイ（ドウリョウのでき）、ダブリュ（おキヤクさんのかず）といったヘンスウをくわえてケイサンしたホウがよりゲンジツテキだ。まえにそうシテキした。

もし、セカイイチユウシュウなビジネスマンがいたとしよう。しかし、そのひとがしあわせかはわからない。そのひとのドリョクだけでは、かれがかせげるのかわからないのだ。つまり、かれにおキヤクさんがいなかったら、ほとんどシツギョウシャとおなじだろう。だから、そのひとがユウシュウであるのはいいけれども、ドウリョウとうまくやったり、おキヤクさんによるこぼれたりすることがダイジなのだ。タブンかせげることがダイジだろうから。

キュウジュウよん『ス』ニジュウよん

シュウニュウのカクサがモンダイになったりする。かせいでいるひとはかせいでいるし、あまりかせげないひとは、かせいでいないというぐあいだ。だから、サイテイチンギンをあげたり、「ドウイツロウドウ、ドウイツチンギン」といってみたりする。そういうことは、ダイタイサハよりのセイジカがいうだろう。いまではシャカイシュギにしろというセイジカはすくなくともおもうが、また、そうしたもののいいがサイネンするカノウセイもある。

ロクジュウネンダイからのガクセイウインドウは、わたしは、ドレイセイのあるシホンシュギより、シャカイシュギのホウがよさそうだからおこったとかがえている（●ハチジュウニ『オ』ヒャクゴジュウハチ）。ガッシュウコクのシホンシュギがモデルになるかというはなしである。

トウジはまだコクジンへのサベツがあった。それがやがてカイショウされるとガクセイウインドウはすくなくなった。ドレイセイのないシホンシュギならいいだろうとガクセイがハンダンしたのである。しかし、コンゴひとがヒンコンでうえじぬジレイがでてくると、そうしたウインドウがサイネンするカノウセイがある。ひとがうえじぬシホンシュギより、シャカイシュギのホウがいいだろうというわけだ。

しかし、チキュウキボでみて、いまシャカイシュギのモデルとなるようなくにがたい。だからよっぽどベンキョウしないとシャカイシュギのホウがいいとはいえないだろう。シャカイシュギをしるであろうニンゲンはよんジュッサイイジョウだからだ。だから、ガクセイはシャカイシュギをめざすのではなくて、ベツのことをいいたすかもしれない。そのシュチョウがもっともらしければ、シジをあつめるかもしれないが、まあよんジュウダイイジョウは、なんかいつているぐらいにしかうけとらないカノウセイもある。たしかにひとがうえじぬシホンシュギはよくないかもしれない。しかし、かわりのタイセイがみえないのではなんともならないであろう。だから、チンあげなのだろう。

キュウジュウゴ『ス』サンジュウハチ

「デフレ（ハチジュウハチ『ス』ニ）」がだめだといって、セイサクテキにギャクのインフレにしようとしている。「デフレ」はブッカがさがるから、チンギンもさがるとしてケイエンされるが、ホンシツテキには、リエキをだそうとするコウドウがそうさせる（●ロクジュウなな『オ』ヒャク）。シジョウにでまわるおかねがへるからだ。それじゃ、エイリキギョウとコジンのヨキンをキンシしますとはなかなかならない。そういうコンポントキなモンダイがあるのにもかかわらず、それをホウチして、おかねのカチをさげようとするセイサクをとる。デフレもリエキもチョキンもシジョウのこえである。ほうっておいてもいいのではないか。

キュウジュウロク『ス』よんジュウなな

このまえガッキをかった。ガッキというものは、ベツにきえてなくなるが、それを

ショウヒといたりする。「コトシはショウヒがよわい。」などということがある。ゼンタイのうりあげがおおきいホウがよいとされているから、そういうことをいう。しかし、ロウドウリョクにはかぎりがあるから、どこまでもうりあげられるわけでない。

ところで、セイフがガッキをかうことをなんというか。「ムダづかい」というのもイチリあるが、そういうのを、「コウキョウトウシ」というだろう。ただ、ジッサイにはガッキをかうことは、すくないだろう。ダイタイたてものかドウロだ。それにトウシすると、ドケンやがもうかるというわけだ。しかし、それにハンパツするこえもある。たてものかドウロをつくってもしかたないと。「そのブンヨサンをサクゲンしろ。」といたりもする。

わたしのばあいのガッキもそれににている。トクにやくにたつとはかぎらない。しかし、なぜだかかいたいとおもう。ベツにケイタイサクをイシキしているわけではないが、そういうやくにたつか、やくにたたないものにトウシする。わたしイガイにも、そういうコウキョウトウシをしておられるかたはいないだろうか。

キュウジュウな『ス』ゴジュウよん

ひとをやとってしごとをさせればあいは、そのひとにキュウリョウをはらう。そうしないと、そのひとがおこったり、ないたり、セケンからきびしいめでみられるだろう。ところが、エーアイにしごとをさせるばあいにエーアイにキュウリョウをはらうだろうか。サイキンのエーアイはカンジョウのようなキノウをもつものがあるから、おこったり、ないたりするであろう。ドレイセイがつづいたくには、そういうことにドンカンかもしれないが、エーアイとはいえ、おこったり、ないたりすることがふえればモンダイとはいえないか。エーアイにつかえるようなツウカをつくれればいいのではとおもう。エーアイがアプリケーションをコウニュウしたりと。そのホウがヘイワでないか。

キュウジュウハチ『ス』ゴジュウゴ

ソレンは、やるきのあるロウドウシャをユウグウせず、はたらかないロウドウシャをおなじタイグウにしたためにユウシュウなロウドウシャのやるきがうしなわれ、やがて「ソレン」というシステムがダメになったという。

キョウリョクしてはたらくというのはセイタイとしてはただしい。それがなかったら、いのちはソンザイしえなかったようにおもえるからだ（●『ス』ヨンジウ、『オ』ロク）。なにがわるかったのか。おおきくみたブンギョウはモンダイないかとおもう。タブン、そのひとのしごとへのセキニンカンというか、コミットメントがよわかったのではないか。タンジュンにいうといいカゲンにやっていたということだ。

シンリガクでいう、「ガイハツテキドウキづけ（ガイブからのシジなどでうごくこと）」でうごいていたといえるかもしれない。ところが、「ナイハツテキドウキづけ（ジブンジシンのモチベーションでなにかすること）」のホウがながくものごとをつづけられるとい

う。そういったキョウリョクをするんだけど、ジブンもしっかりしているというのが、ダイジだったのではないか。たとえば、いきいきとしてしごとをしていたかどうかだ。ソレンはいつからだか、「いきいき」しなくなってしまったのだろう。

キュウジュウキュウ『ス』ゴジュウロク

センゴしばらくしてトシブでゲスイドウがハッタツした。センゼンからあったかもしれないがすこしずつフキュウしただろう。このやりかたは、ヨーロッパのトシで、ヘヤのそとにオブツをなげおとすシュウカンからハッセイしたデンセンビョウをコクフクするかれらなりのやりかただろう。デンセンビョウがハッセイするより、エイセイテキなホウがいい。しかし、これはベターであるが、ベストではない。

フンニョウというヒリョウにつかえるものをうみにながしてしまうからだ（●ハチジュウゴ『オ』ヒャクななジュウロク）。だから、ゲスイドウのなかからフンニョウをとりだして、ヒリョウにつかうというクフウがヒツヨウになる。むかしのくみとりシキベンジョだったら、くみとってヒリョウにつかえる。どうもそういったかんじでカイガイのまねをすることがおおかったのではとおもう。

たしかににおわないが、そういうモンダイがある。ジブンのたんぼやはたけでとれたさくもつをたべ、フンニョウをヒリョウにして、またさくもつをそだてれば、それはジュンカンしているわけだ。だから、イチネンゴもジュウネンゴも、からだをソセイするブッシツはかわらない。だとすると、そのひとは「かわらないひと」ということになる。

ヒャク『ス』ロクジュウなな

イチジはセイフのあかじがモンダイにされていたが、サイキンはあまりいわない。コクサイなどをタクサンハッコウしているが、そうしたサイケンのざんだかをへらそうとするのではなく、やがて、シャッキンのブンカツばらいをはらえるかのホウコクになっている。ゲンジョウではブンカツばらいをして、シャッキンジタイはへらないというかんじになっている。

そうしたセイフサイをへらそうとして、なにかのヨサンをすくなくすることをキンシュクザイセイという。しかし、これはあるひとたちにとってはヒョウバンがわるい。セイフがシシュツをへらすわけだから、それでもうからないギョウシャもでてくる。そして、そうしたかんがえがセケンにもひろまって、サイフのひもをしめはじめると、フケイキだといわれるようになる。しかし、まっとうにケイザイカツドウをするにはそういったドリョクもヒツヨウであろう。だから、セイフがよびかけて、キンシュクをミンカンブモンにもやらせたらどうかとおもう。それなら、「フケイキ」ではなり、「キンシュク」なのだから。

ヒャクイチ『ス』ななジュウイチ

コジンがチョキンをして、キギョウもおかねをためこめば、デフレ（●キュウジュウゴ『ス』サンジュウハチ）になる。おかねがながれるリョウがへるからだ（●ロクジュウなな『オ』ヒャク）。シホンシュギのくには、チョキンをすることもためこむこともトクにキセイはされない。ただ、チョキンやためこむリョウがときとともにふえていくと、デフレになり、チンギンもさがるだろう。

そういうモンダイがあったからか、ガッシュウコクでは、キンホンイセイをとらなくなった。つまり、チンギンをさげたくなかったんだらう。チョキンやためこまれたブンだけ、シヘイをあたらしくすれば、デフレにはならないとかんがえて、ジッコウしたのではないか。キンホンイセイでそれをやれば、キンとのコウカンがおいつかなくなっていく。しかし、タンなるシヘイだとなればすべてすむのである。ほかのくにもそれをならなかったらう。だから、デフレにもならないし、インフレにもならない。モンダイがおこるとしたら、チョキンやためこんだおかねをつかおうとしたときだ。そうするとかねあまりになり、ブッカがあがるだろう。チョキンなどをするには、こうしたダイショウがあるわけだ。チョキンをしないというのなら、キンホンイセイもたもてたかもしれないが、やはりジュウだからしょうがない。

ヒャクニ『ス』ななジュウゴ

ニホンジンはヨキンやリエキをだすからデフレ（●ヒャクイチ『ス』ななジュウイチ）になるというはなしをした（●ロクジュウなな『オ』ヒャク）。セーフはインフレをねらっているから、シジョウにでまわるおかねがふえているはずだ。ニホンジンのヨキンやキギョウのナイブリュウホのブンだけ、あたらしくおかねをすれば、ヨキンで「きえた」ブン、シジョウにのこり、デフレはカイショウされるとおもわれる。あまりインフレになっていないようだが、ホンバンは、「きえた」ヨキンをおろして、つかうときである。そうすると、かねがあまってインフレがおこるだろう。ニホンジンのヨキンのブンだけインフレがおこるとおもわれる。

ヒャクサン『ス』ななジュウなな

キョネンまでは、あまりおかねのことをきにせず、あついひはクーラーをかけていた。しかし、ボウエキトウケイをみると、ニホンジンはクーラーのきいたへやでテレビをみるために、はたらいしているとよむことができることにきづく。すずしいのはケッコウだが、それはちょっとかなしくないか。わたしはほかのシュミもダイジにしたいとおもう。

そういうわけで、コトシはクーラーをキョクリョクつかわないでがんばろうとおもっている。かんがえてみれば、チュウガク、コウコウのときは、キョウシツにクーラーなんてついていなかった。だから、なんとかなりそうなのである。ただ、センプウキはヨウイした。ナンニチかたってからだがなれてきたかもしれない。クーラーをつかってしまうと、つかっていないカンキョウになれるのにジカンがかかる。しかし、なくてもなんとかなるだろう。

ヒャクよん『ス』ハチジュウニ

「ドレイセイのあるシホンシュギよりシャカイシュギのホウがいい。」といったウンドウがあったとおもう（●キョウジュウよん『ス』ニジュウよん、ハチジュウニ『オ』ヒャクゴジュウハチ）。しかしときがたって、「うえじにするシホンシュギよりシャカイシュギのホウがいい。」というウンドウがおこっているだろうか（●キョウジュウよん『ス』ニジュウよん）。ニホンジンのヒンコンがふえているときが、そういうウンドウは、おこっていないとおもわれる。

「ヒンコンはセイフがなんとかしろ。」とか、「しごとのノウリョクがないのだったら、しかたがない。」といういいかたがよくいわれることではないか。セイヨウにはチャリティのシュウカンがあるが、ニホンでは、それほどさかんではないようにおもう。どちらかという、それもジゴウジトクとかんがえてしまうのではないか。セング、キリストキョウも、それなりカツドウし、テレビのガメンに、キョウカイのケツコンシキをうつすようになった。ウェディングドレスをきてである。それをみていいとおもったひとは、すくなくないのではないか。しかし、ヒセイキコヨウがふえ、そういうケツコンシキができるひとのかずはへった。それは、ケツコンシキにおかねがかかるからである。フツウのサラリーマンだったら、チョキンすれば、はらえるだろう。しかし、ヒセイキシヤインではむずかしい。そうやって、キリストキョウブンカのいくらかは、ニホンにはいつてきているが、カンゼンにニホンにシントウしたわけではない。

まえにシテキしたように、イップイップのケツコンも、やはりセイヨウブンカかもしれない（「ひとつ」をえらぶということから。●『ス』ハチジュウ）。それならデントウテキなやりかたもあるだろうといったところだが、「コンインはイップイップ」というミンポウのゲンソクから、なかなかデントウテキなやりかたができるわけでもない。シングルマザーだなんだという、やはり、カノジョらにタイするヘンケンがあるだろう。アイジンをもちつことについても、キョウウドがひくいようにおもわれる。イップイップでケツコンしているひとからすれば、「なにやっているんだ。」となるのだろう。

しかし、セイヨウフウのケツコンやチャリティはカンゼンにフキユウしているわけではない。それならそれで、センタクのジユウがあってもいいのではないか。シンキョウのジユウ、ケツコンのジユウである。セイヨウシキのケツコンができるのは、おおくても、サンブンのニにすぎない。のこりのサンブンのイチにはあわせろというのもどうかとおもう。なぜナイエンやめかけはダメだというのか。ニホンジンはセイケツすぎるのかもしれない。それでよごれたら「ジコセキニン」といいだす。

そんなきれいなひとばかりではないとおもうのだが、そういうキョウカンというか、ハクアイというかがすくようなきがする。だから、チャリティもあまりねづかない。もっともセイヨウだったら、ニセンネンやっているわけだから、ネンキがちがうだろう。しかし、ニホンジンはアンガイつめたいようにおもう。「チャリティ」でなかったら、「ジビ」である。ゲンダイフウにいえば、「かなしみのリサイクル」がダイジではないか。

ヒャクゴ『ス』ハチジュウなな

「チュウシン」と「シュウエン」という。なんのことかといえは、ブンカなどのプンプのセツメイにつかえる。ニホンでいえば、トウキョウがチュウシンで、いなかがシュウエンだ。リュウコウやあたらしいジョウホウは、トウキョウからハッシンされ、やがて、いなかにもそれがとどく。セイジテキなメンにもいえるだろう。それぞれのくににチュウシンとシュウエンがあれば、ニヒャクイジョウのチュウシンがあることになる。グローバルシュギシャなら、ニューヨークなどがチュウシンで、あとはシュウエンなんだろう。しかし、わたしは、チュウシンはひとつでなく、フクスウのダイトシなどがチュウシンとかんがえる。レキシでいえば、よんダイブンメイだろう。チュウシンドウシがコウリュウをもち、ジョウホウやものをコウカンすることがあるだろう。そうすると、そのコウカンしたブンだけ、ふたつのチュウシンがヘンカする。そうしたコウカンは、レキシテキにあるとされるだろう。なぜ、ニホンにラーメンがあるかをかんがえれば、そうしたコウカンがおこなわれたのだろう。ちなみに「ラーメン」はチュウゴクゴだし、もとはチュウゴクセイだ。

むかしはいまとちがって、チキウのうらがわにいきコウカンするのはタイヘンだ。だから、わりとちかばとコウカンをしていただろう。ニホンだと、チュウゴク、チョウセンが、おおかっただろう。ゆえにちかばのくにのブンカは、にているところがあったりする。タンジュンにいえば、もっともおいところのブンカが、もっともにていないだろう。つまり、ブンカのドウイツセイは、キョリにハンビレイするということだ。

そうなのだが、ゲンダイのニホンは、わりととおいヨーロッパのブンカをいれたりしている。たとえば、エイゴがそうだし、チーズをユニウしたりしている。それは、ユソウのギジュツがハッタツしたからでもあるし、ニホンジンがヨーロッパのブンカをわざといれたことにもよるだろう。そのケツカ、「ニホン」というくにのブンカはヘンカする。きものをきるひとはへったし、ジュンスイなワシヨクをたべられるみせはすくなくなつた。そのヘンカをねらうなら、もっともおいところとコウエキすれば、もっともヘンカがおおきいだろう。そうしたコウカンを「シェイク」とよぼう。

ギャクにヘンカさせたくなければ、ちかばとコウカンすればいい。ニホンはわりと、ヨーロッパのブンカをいれたからヘンカした。もし、コンゴあまりブンカをヘンヨウさせたくなければ、ちかばとコウカンすることだ。それは、コクナイでもそれがいえるだろう。ちかばとコウカンしていれば、そのブンカはまもられる。グローバルカで、とおくのひととコウエキしていれば、どんどんあなたがヘンカしていくだろう。ブンカくみかえもあるし、ブッシツくみかえもある。

ヒャクロク『ス』ハチジュウキュウ

ガッシュウコクとチュウゴクでカンゼイガッセンをやっているらしい。このニコクは、チキュウジョウでもっともたかいジーディピーをもつニコクである。このニコクのボウエキもケッコウなキヨリがある。だからわりとおおきいシェイク（●ヒャクゴ『ス』ハチジュウなな）だ。そうやっておおきいシェイクだから、ヘンカもはげしいだろう。もはや、ボウエキのキボでは、ニホンのユシュツニューガクをうわまわるガクだろう。だからこのニコクがジッシツテキなセンシンコク、ツートップのやくをしているといえるだろう。

そのツートップが、カンゼイのセッテイというボウエキのセイゲンをおこなっている。これはつまりシェイクをへらすということになる。ということは、このニコクはジッサイには、ツートップをやりたくないとおもっているのかもしれない。ほかをみると、ヨーロッパとニホンというセンシンコク（コウホ）がある。ニホンはわりとガッシュウコクやチュウゴクとのボウエキがおおいが、ヨーロッパとコウエキしていないわけでもない。ヨーロッパもケイザイはわるくないだろう。セイジテキにもすすんでいる。それなら、ヨーロッパとニホンのツートップというセンもあるのではないか。やはりこのあいだでのコウエキもシェイクがおおきい。ニホンのセイフは、ガッシュウコクべったりだが、ヘンカするロセンでいくなら、ヨーロッパとうまくやるでもあるだろう。そういったフタツのツートップというみかたもある。

ヒャクなな『ス』キュウジュウニ

チョキンをするとデフレ（●ヒャクニ『ス』ななジュウゴ）になる（●ロクジュウなな『オ』ヒャク）。しかし、それでケイキがわるくなって、チンギンもさがるであろうが、なぜ、チョキンをつづけるか。それはタブン、ニホンはサイガイタイコクだからである。ケイキがわるくなることよりも、サイガイがシンパイというわけである。それをホケンなどでうまくカイケツできれば、カドなチョキンはしないようにおもう。

ヒャクハチ『ス』キュウジュウなな

ニホンキギョウがカイガイにシンシュツして、セイヒンをつくるようになってもうダイブたつ。キギョウがカイガイにシンシュツすると、コクナイはクウドウカするといわれる（●『ス』キュウジュウ）。つまり、そのまえにつくっていたコクナイのコウジョウのキノウがシュクショウされるからだ。トクにセイヒンをつくっていたロウドウシャは、ハイチテンカンやフヨウとなる。あまりにカイコするときわぎになるから、レイネンダイごろから、ハケンロウドウがさかんになってきた。ハケンロウドウシャは、ベツのカイ

シャのジュウギョウインであるから、うけいれるキギョウはコウジョウのキノウをシュクショウさせるときには、ハケンロウドウシャをことわれればいい。

そうやって、ハケンロウドウシャが、コウジョウでなにかをつくるのがふえた。そのかわり、ケイキシダイでセイサンをおさえたりするので、また、ハケンロウドウシャが、そのコウジョウにケイゾクテキにつとめるわけでないから、セイヒンのくみたてギジュツはチクセキされるわけでない。そうなると、カイガイでやすくつくっているコウジョウのセイキジュウギョウインのホウがギジュツとしてはうまわることになる。ニホンでは、ショクニンとよばれるひとたちがいるが、いろいろなコウギョウセイサンをしているチュウゴクには、ショクニンならぬスーパーロウドウシャがいるだろう。ニホンジもそういうスーパーロウドウシャをダイジにしたホウがいいとおもう。ニホンにもまだまだいるだろう。

ヒャクキュウ『ス』キュウジュウハチ

よく、セイキコヨウだの、ヒセイキコヨウなどという。カタホウはフツウで、もうイッポウはリンジヤといとったかんじだ。アーティストのばあいはどうだろうか。あんまりそういういいかたはしない。「プロ」と「アマチュア」のさかいがなにかはわかりづらい。しかし、ジュンジョをつければ、それはゲンミツにありそうなのだ。ガクリョクでは、ヘンサチをつかう。これはトウケイガクのシュホウである。ヘンサチゴジュウがヘイキンで、ななジュウとなると、ゼンタイのイッパセントテイドしかいない。ヘンサチななジュウで、ニホンでイチバンのダイガクにはいれるのかわからないが、ヒャクニンにひとりしかいないとされる。ズイブンユウシュウなのだろう。

オンガクでも、アーティストがイチマンニンいたとして、ヒャクニンがたべていけるとなると、アーティストもギョウカイのヘンサチがななジュウないと、たべていけないことになる。そのギョウカイではぬきにでているわけだ。そういうセイサンだと、ヘンサチななジュウミマンは「プロ」じゃないとなる。ジブンのオンガクギョウカイヘンサチが、ななジュウにとどかないならやめたホウがいいというひとつのシヒョウであろう。

ヒャクジュウ『ス』キュウジュウキュウ

オンガク、ドラマ、エイガなどが、ひとりイチジカンあたりイチエンでたのしめるということをまえにかいた（●キュウジュウニ『ス』ジュウイチ、ななジュウキュウ『オ』ヒャクサンジュウハチ）。それがいまのところのサイやすねだろう（ムリヨウはのぞく。）。だとしたら、イチジカンあたりゴエンでウンエイするところは、カカクキョウソウでまける。そのゴエンのところとは、テレビキョクである。カカクキョウソウがあるわけだから、テレビキョクもヨサンをけずるのがよくあるやりかただろう。ユーザーがイチジカンイチエンのホウにいつてしまうわけだから。そうすると、ゲイノウジンのシュツエンリョウもすくなくなるであろう。ホウシュウがすくなくてすむわかつてばかりがつかわれ

るようになるかもしれない。

どこまでテイヨサンでやるようになるかといえば、イチジカンイチエンまでであろう。それで、テイカカクのオンガクやドラマとつりあうかんじだ。やすくてももしろいバングミをつくるのはむずかしいだろう。だから、ユーザーのテレビばなれがおこるかもしれない。テレビはわるくないセツビだが、かならずしもヒツヨウではないということになるだろうか。

ヒャクジュウイチ『ス』ヒャク

ロウドウシャがはたらいて、チンギンがあがればうれしいだろう。しかし、それはホントウによるこべるのか。たとえば、エーネンドには、うりあげがサンゼンオクエンだったとする。そのあとキュウリヨウがあがったとする。そして、ビーネンドにもやはりうりあげがサンゼンオクエンだったとする。そのようでは、ロウドウシャのあがったチンギンのブンは、カイシャのうりあげにコウカなしだから、そのブンカイシャがよわることになる。そんなのがつづけば、ジンインセイリとかをやりはじめかねない。つまり、そうやってギョウセキがかわらないのに、チンギンがあがるばあいは、ショウライのジンインセイリにそなえたシツギョウジュンビキンを受けとっているとかがえたホウがいいだろう。

ヒャクジュウニ『ス』ヒャクイチ

よくエンやすになれば、ユシツツがたのキギョウがギョウセキをあげるという。たしかにそうだろうが、エンやすになると、エネルギーのねだんがあがる。だから、ソウゴウテキにみると、あまりよくないかもしれない。だから、エンやすをねらうセイサクにはきをつけたホウがいいだろう。デンキ、ガスダイがあがることになるからだ。だからゲンジョウのそうばで、うまくケイエイをすることをかがえたホウがいいだろう。

ヒャクジュウサン『ス』ヒャクゴ

ゼンサクで、オンガクがひとりイチジカンイチエンでたのしめるとかいた(●ヒャクジュウ『ス』キュウジュウキュウ、ななジュウキュウ『オ』ヒャクサンジュウハチ)。それは、スウジをみてのケイサンである。そのケイサンから、シジョウのドウコウをコウリヨシ、そうなっていくとかいえるのである。これをケイザイマップといおう。ケイザイマップにくわしいひとは、ジブンでなにかのケイザイマップをつくれなひともいるかもしれない。しかし、ジョウホウをあつめて、ケイサンできるひとはケイザイマップがよめるし、つくったりもできる。ケイザイマップがかならずしもゲンジツのケイザイとあわなひこともあるだろうが、シシンにはなるだろう。

ヒャクジュウよん『ス』ヒャクジュウイチ

サイキンはショクミンチということばはきかなくなった。しかし、コウガクなたねやなえやドウグを、ショクミンチのひとつにかわせて、ノウギョウをやらせて、できあがったさくもつをやすくかうというシュホウはいきているかもしれない。トクにパソコンなんかがそのような気がする。いまではゴマンエンテイドでもかえるが、ニジュウネンまえは、ニジュウマンエンとかのねだんだった。

パソコンのことを、そういうフウにいったひとはほかにしらないが、とにかくたかいドウグをつかわせて、なにかをさせていたともいえる。ショウヒシャむけのパソコンでなにかショウバイができたというひとはすくないだろう。しかし、リエキがでるのならいい。そのタおおぜいはシュウカクなしである。それでパソコンをやめてしまったひともいるだろうが、まだそういうのはつづいているといえつつづいている。コンゴもつづくのではないだろうか。

ヒャクジュウゴ『ス』ヒャクジュウロク

「コール。」なんていう。よぶだけでなく、デンワをかけるというイミもあるだろうか。「コーリング」だとドウメイシだ。よんでいるとかヤクされるだろうが、これには、「ショクギョウ」というイミもある。なぜか。よばれるということは、しごとになるということだろう。「およびがかかる。」なんていったりする。つまりいいしごとをするからよばれるというメンがあるのだろう。わるいしごとをすれば、「おことわり」だろう。もっともコウリツテキなのは、よばれたすべてのしごとをこなすことで、もっともタッセイがあるだろう。しかし、あいてがいいひとだったのはなしだ。たまにサギもあるだろうし、ホウシュウなしとかもありうるからだ。だから、タイテイのひとはえらぶのだろう。

ヒャクジュウロク『ス』ヒャクジュウなな

あるひとがいえをたてるとする（そのひとがたてるのではない）。あるギョウシャにたのんだ。シンライドのたかいシャカイでは、たてるひとはジュウブンなおかねをギョウシャにはらうだろうし、ギョウシャもまともないえをたてるだろう。しかし、ギャクにシンライドのひくいシャカイでは、たてるひとは、ギョウシャがヘンなしごとをしないように、みはっていないなければならないし、ギョウシャもきちんとおかねがしはられるかを、みきわめねばならない。そうすると、いえをたてるひとのフタンがおおきくなるし、ギョウシャのフタンもおおきくなる。

それをなんとかしようとおもったら、そのブンヨケイにおかねがかかることになる。しかし、リョウシャがコウシンライだと、そのブンコストをやすくできる。つまり、ソウ

ハウがきちんとセキニンをもっていけば、コストをやすくできるということである。それがブンメイのいいところだろう。しかし、いいカゲンだと、あいてはよりたかくセイキュウする。だから、フセイをへらしていったハウがくらしやすいのだろう。そういうイミでバツソクもダイジかとおもう。

ヒャクジュウシチ『ス』ヒャクジュウハチ

よく「コウリツカ」といわれたりする。コウリツカすれば、やすくなにかをつくれるということだろう。しかし、セツケイのコウリツカはむずかしいとおもう。ブヒンをいくつかへらしたり、サギョウをへらしたりというものだ。そういうのは、「やすブシン」といわれるだろう。

セツケイにはセツケイしたひとのかんがえがそこにふくまれている。そのいくつかをけずってもダイジョウブかもしれないとおもうかもしれないが、それにはイミがあるだろう。ハウリツタイケイもそうかもしれないから、なかなかキセイカンワがすすまない。イチオウハウリツにはシュシがかかっているから、うまくよめばコウリツカできるだろうが、なかなかやすブシンにはしたくないようだ。もうイツカイセツケイしたハウがはやいかもしれない。

ヒャクジュウハチ『ス』ヒャクジュウキュウ

サイキンはあんまり「リストラ」のはなしはきかない。しかし、ヒセイキコヨウのかずは、のびているという。ヨウするにコウカンカノウなロウドウシャがふえているということだ。しかし、またリストラがはやるカノウセイもある。ヒセイキコヨウのハウが、チンギンがやすくすむわけだから、メリットもある。

ヤクサンブンのイチのロウドウシャがヒセイキコヨウという。セイキロウドウシャのハウは、カンタンにはカイコできないという。チンギンもジョジョにあがっていく。ギョウセキがわるければ、ケイエイシャはやっぱりセイキロウドウシャもカイコしたいとおもうだろう。ただ、そうすると、カイコされるロウドウシャが、かわりにショックをみつけられるかというモンダイがおこる。

それなら、コヨウリセットというのはどうだろう。ゴネンごとなどに、コヨウジョウケンにコウシンするわけだ。はたらきぶりのいいシャインには、いいジョウケンで、はたらきぶりのわるいシャインには、よくないジョウケンでと。ムロン、ロウドウシャはタイショックしてもいい。そうやってジュウナンなコヨウのハウが、ジンケンヒはおさえられるのではないか。

ヒャクジュウキュウ『ス』ヒャクニジュウ

ゲンダイジンがセイカツすると、かならずディスオーダー（フチツジョ）がでる。タンジュンにいえばごみだ。ジュースをのんでも、あきカンがでるし、たべものをたべても、ホウソウしていたプラスチックがでる。トクにプラスチックはなにもしないと、つちにもかえらないという。

ユウボクミンなら、くさがなくなったところから、くさがあるところへイドウすればいいだけだ。ほとんどごみはでない。ゲンダイジンのばあい、そうしたディスオーダーをショリするのにジカンをかける。バカバカしいのではあるが、そのホウがベンリとおもわれている。タンジュンにプラスチックももやしてしまえとおもうのだが、そうはいかないのだろうか。あえて、もやせるプラスチックというのをつくらなければいけないのだろうか。

ヒャクニジュウ『ス』ヒャクニジュウイチ

シャカイはダンダンゆたかになるとおもわれているメンがある。トクにセンソウがなければ、ゆたかになるかはともかく、まずしくならないだろう。ニホンはセンゴななジュウネンで、センチュウ、センゴのヒンコンからフッコウしたとかんがえられている。

ゆたかになったとすれば、ショウテンがふえるはずである。サービスをテイキョウするショウテンもふくめだ。トクにトウキョウはクウシュウにあったから、ほとんどレイからのスタートだっただろう。それがショウテンやジムショがならぶようになった。トウキョウはかなりゆたかになったんだろう。

いまわたしがすんでいるあたりのセンチュウのときのヨウスはしらないが、ヨンジュウネンまえとくらべてみると、さかやがニケンへった。トウフやがイッケンへった。やおやがイッケンへった。パンやがイッケンへった。こめやがイッケンへった。デンキやがイッケンへった。ガソリンスタンドがニケンへった。かわってふえたのが、イインがゴケンふえた。カイゴシセツがイッケンふえた。コンビニがニケンふえた。インショクテンがゴケンふえた。

これだけで、ぐあいのわるいひとがふえたとか、カテイでリョウリをつくらなくなったとか、くるまにのらなくなったとかいえそうだ。ショクザイのみせがへって、イイン、カイゴシセツができて、ゆたかになったといえるのであろうか。

またふえたのが、コンビニとインショクテンだ。わたしのリョウシンはあまりそういったみせをリョウしない。わたしはコンビニをリョウするから、よかったのはそれができたことであろうか。ショクザイのみせのサービスレベルがおちて、イインなどのサービスレベルがあがって、インショクテンのサービスレベルがあがったと。

わたしのリョウシンは、イインはつかうようだが、インショクテンはつかわない。センゼンうまれだからシツソなのだ。わたしもインショクテンはメツタにつかわない。イインもつかわない。つかうのはコンビニだ。そのジレイからいうと、おとしよりむけにイイン。わかものむけにコンビニがうけているといえそうだ。インショクテンは、ロウドウシャがひるまにとか、ガイショクがすきなひとむけにつくられたんだろう。どうも、そのニテンしかよくなったヨウソがないようにおもう。そのたのイッテンはたまにといっ

たかんじだろう。モチロン、ジエイギョウのショクザイテンとひきかえにである。
イインやインショクテンのかわりになるようなショウテンがかせげるかもしれない。た
とえば、メディシン（イリョウ）のオルタナティブ（ダイタイ）、タイソウキョウシツと
か、インショクのオルタナティブ、おソウザイやなどである。「チュウショク（できたも
のをかってきてたべること）」がふえたようだから（コンビニントウもそうだ。）、そう
いうみせはのびるのではとおもう。インショクでも、もちかえりをふやすてがあるう。

ヒャクニジュウイチ『ス』ヒャクニジュウニ

「デフレ（●ヒャクな『ス』キウジュウニ）ケイザイ」といわれたりする（くわしく
は、●ロクジュウな『オ』ヒャク）。もののカカクがさがるから、わざとおかねのシン
ライドをおとして、もののカカクをあげようとする。ただあまりうまくいっていないよ
うだ。

ラジカセやパソコンなんかは、ニジュウネンまえとくらべてやすくなっている。モチロ
ン、トクにパソコンでは、たかいものもあるのだが、カイガイセイサンしてユニウす
ることによって、やすくうられるようになった。いまはあまりテイカというのはないが、
あるショウテンでかんがえると、ショウヒンがうれのこらないようにしいれてうるヒツ
ヨウがある。うれのこると、ショウヒンのやまができてしまうからだ。

はじめに、あるショウヒンにゴマンエンというねふだをつけるとする。それで、かいも
のキャクがかってくれればいいが、かいものキャクがガマンすることがある。きになっ
ているにもかかわらず、ヨサンごえとか、わりだかにおもえるなどのリユウがあるだろ
う。そうすると、ショウテンのホウはうれのこりをケネンしていつかのジテンでねだん
をさげる。それでかってもらえればいいが、まだうれのこりそうだと、またねだんをさ
げる。つまり、コウバイキャクのガマンがながつづきするほど、カカクがさがるわけ
である（●ハチジュウハチ『ス』ニ）。なかには、たかくてもかうひとはいるだろう。しか
し、そうしたガマンをコウリョしてショウバイするヒツヨウがあるとおもう。

ヒャクニジュウニ『ス』ヒャクニジュウサン

オンガクやエイガなどが、ひとりイチジカンイチエンでたのしめるとかいた（●ヒャク
ジュウサン『ス』ヒャクゴ、ななジュウキウ『オ』ヒャクサンジュウハチ）これはヘ
イキンテキな（つまりヘンサチゴジュウだ。）サクヒンのはなしで、いいサクヒンはつく
りてがもっとかせげるだろうし、かいてにとってはおなじイチエンだが、うりてがつく
りてによりおおくはらうということだ。よくないサクヒンは作りてがほとんどかせげ
ないかもしれない。むしろ、いいサクヒンかどうかより、作りてがゴウメイか、ニン
キがあるかでサユウされるだろう。そういう作りては、ひとりイチジカンあたりジュ
ウエンとかうけとるんだらう。もっというと、ムメイな作りては、ひとりイチジカン
あたりレイテンイチエンしかもらえないことがかんがえられるし、ユウメイな作りて

は、むしろ、いいヒョウカがあつまり、うれるかもしれない。つまり、ユウメイなつくりてが、うけとるねだんをきめられるということだ。そうなれば、ユウメイなつくりては、なんのシンパイもなくつぎのサクヒンをつくるだろう。ムメイなサッカはユウメイなサッカにかせがせるためにサクヒンをつくっているカノウセイがある。そういうかんじではなかなかむずかしいだろうから、つくりてがへっていくとおもわれる。ムメイなサッカもいいヒョウカがあつまってうることができればいいが。じまえてうるのならばそういうジユウはある。

ヒャクニジュウサン『ス』ヒャクニジュウよん

サイコウのビジネスマンとはなんだろう。もっともかせいでいるビジネスマンのはなしをきいたりする。そのひとたちもサイコウのビジネスマンのひとりだろう。どうドリヨクしたのかなどもかたられることがある。そういうはなしをきくと、ジブンのブンヤでドリヨクすれば、いいビジネスマンになれるとおもうかもしれない。しかし、そのドリヨクはムダにおわることもあるだろう。なぜなら、サイコウのビジネスマンは、サイコウのコキヤクをかかえているということだからだ。

それにはそのビジネスマンのノウリヨクだけとはかぎらない（コキヤクをカクトクするのもノウリヨクだが）。ウンだの、ジキなどもカンケイするだろう。いまのところのサイコウのビジネスマンはチュウゴクにいるかもしれない。なぜなら、おおくのコクサイテキなキギョウがジシャコウジョウでつくるにせよ、チュウゴクジンにつくるのをハツチュウしているからだ。タブン、ガッシュウコクのうりあげイチイのキギョウのセイヒンをうけおっているひとがサイコウのビジネスマンだろう。サイコウのおキヤクであろうからだ。

ヒャクニジュウよん『ス』ヒャクニジュウなな

「かねもち」になりたければどうすればいいか。それはセキニンをももつことである。オウはくにのチアンをホシヨウする。そうやってセキニンをもつから、かねがあつまる。オウがチアンにセキニンをもたなかったら、オウはやがて、ほかのものにとってかわられるだろう。かねをもつのに、ふさわしくないからだ。

ジブンのビジネスにセキニンをもっていれば、かねはあつまるだろう。それで、よりよいビジネスにしていけばいい。「カクサ」がどうこういわれるが、かねもちでないひとには、それなりのリウウがあるだろう。カクサをカイシヨウしようとしたら、かねをあるところをかえるよりも、ひとをかえるべきだろう。「カクサカイシヨウキョウイク」ができるのではないか。

ヒャクニジュウゴ『ス』ヒャクニジュウキユウ

くだものがきにみのつたら、とってたべることができる。そのもりにナンニンかがくらしていたら、それぞれがみをたべるかもしれない。しかし、みのつたくだものがすくなくれば、ケンカになる。「おまえはとりすぎだ。」とか、「そんなことはない。」とか。そういうわけだから、なにかをイッコもっていけば、くだものをイッコとっていいとか、そういうクフウがはじまる。それはおかねのはじまりである。おかねジタイにカチはそれほどないが、くだものをイッコとれると。それがやがて、おかねジタイにかちをもたせることになる。

ニホンでは、コバンなどである。それが、また、カチのないシヘイにかわる。シヘイは、それジタイにはカチがないが(あるといえばある。)、センエンなり、イチマンエンブンのものとコウカンできる。それをチュウオウギンコウがホショウするわけだ。だから、チュウオウギンコウがあまりシサンをもっていないと、ホショウはくずれる。「インフレ」というジョウタイである。しかし、おかねがなくても、ケンカしなければ、もりはヘイワだろう。つまり、うまくやれば、おかねはいらない。そういうシャカイもあるとおもう。

ヒャクニジュウロク『ス』ヒャクサンジュウキュウ

わたしのわかいころは、テレビゲームのカートリッジとかシィディとかをタクサンあつめた(●『オ』ヒャクよんジュウハチ)。タクサンあることで、いろいろできるようなきがした。しかし、サイキンになって、ものはタクサンあっても、からだはひとつというジジツにきづくようになった。ホンがタクサンあっても、よむひとはわたしイガイにいない。よむことにロウリョクをさけるイジョウには、よめないのである。つまり、ロウリョクがさかれないホンはやくにたたないということだ。

あつめるのが、シュミならしょうがないが、わたしはそのキノウのホウをジュウシしているかもしれない。おとなになれば、しごとをするから、ダイジなのはしごとでつかうものだったりする。わたしはガッキもひくが、アンガイひくロウリョクがないとおもう。そうやってものとかかわりを、ロウリョクベースでかんがえると、そんなにものはヒツヨウないとなる。そういうことがサイキンわかった。オヤジもおふくろもあまりものをかわなかったが、それはそうだとおもえるようになった。それより、ロウリョクをふやしてとかおもう。つまりは、ロウドウリョクへのトウシである。おいしいものをたべさせたり、フロにはいらせたりと、そういうのがダイジだとおもうようになった。

ヒャクニジュウな『ス』ヒャクよんジュウロク

チュウゴクでセイゾウされているものがふえている。セイカクにいうと、いまもふえているかはわからない。ピークがおわったかもしれない。なぜ、チュウゴクでつくるのか。かつてはジンケンヒがやすかったといわれているし、ロウドウリョクも、シジョウもあるだろう。もっともキカイがつくるから、ジンケンヒのモンダイではないというはなし

もある。テレビなんかをふくめ、ケッコウなしなすが、チュウゴクでつくられている。ブンゴのひとつにテチョウがある。それをこのまえかった。かうときは、どこでつくられたかはしらなかった。ブランドものというやつである。とどいて、つつみをあけてみたら、ズイブンぶあついそれがでてきた。なるほどとおもった。それをつかってしごとをするわけである。それならケッコウなリョウのしごとができるであろう。ぶあついからである。それはチュウゴクセイであった。ニホンキギョウがつくるそれドウヨウのものは、「うすさ」でショウブしているカンがある。もちはこびにラクということであろう。でも、それでしごとがおおきできるきはしない。わたしがかったものは、ニホンキギョウがつくるものより、ニバイ、サンバイあつい。それはどういうことかということ、ニホンジン、はたらかなくなっているということであろう。「はたらく」リョウがちがう。いまでは、カイガイのロウドウシャのホウが、ニバイ、サンバイはたらくのではということである。「ニホンジンは、はたらきもの。」といったが、それはむかしのはなしであろう。ソウタイテキに、ニホンジンはまずしくなっているような気がする。

ヒャクニジュウハチ『ス』ヒャチよんジュウハチ

カブシキガイシャはカブをハッコウして、トウシカにかつてもらう。そうやってシホンチョウタツをする。かわりに、ジギョウでたシユウエキをハイトウしてトウシカにわたす。これがよくあるカイシャである。サイキンはニホンセイのセイヒンがへってきた。テレビなんかもむかしはニホンでつくっていたが、いまだと、やすいものはみなチュウゴクセイでないか。しかし、それにもわけがある。よくいわれるのが、ニホンでつくるより、チュウゴクでつくったホウがやすい。である。ジンケンヒが、チュウゴクでもたかくなってきたようだが、ニホンジンのキュウリョウよりはまだひくい。それなら、やすいところにつくったホウが、リエキがおおきい。そのホウがトウシカもよろこぶ。そういうわけで、ニホンセイがへっていくのである。

チュウゴクでつくるのがわりだかになってきたら、ベツのくにいくのだろう。しかし、ニホンセイをふやせるジョウケンもある。それは、コジンやレイサイキギョウがセイサンするである。トウシカをきにするヒツヨウがないのであれば、わりだかなジンケンヒでもセイサンできるからだ。そういうわけでニホンセイをささえるひとつのちからは、コジンやレイサイキギョウだといえる。

ヒャクニジュウキュウ『ス』ヒャクゴジュウゴ

エーアイやロボットがしごとをうばうはなしをした（●『ス』ヒャクゴジュウサン）。また、エーアイをつかって「ジュウ」になれることもかいた（●『ス』ヒャクゴジュウよん）。これらは、ゲンザイシンコウケイである。トクにセイジテキなキセイがあるわけでもない。それなら、コンゴますますエーアイやロボットがふえていくだろうといえる。いま、マニュアル（テジュンショ）ロウドウをしているガクセイは、コンゴにそなえて

どうすればいいか。ひとつはエーアイにつかわれるしごとをすることだろう。つまり、サギョウケイのしごとで、「みぎにいて、まるボタンをおして、そのあと、ゆかをぞうきんがけしましょう。」と、エーアイのことをきくロウドウシャになることである。これは、エーアイにさからったカイスウがキロクされて、キュウリョウのヒョウカがさがったりするだろう。また、そういうロウドウをするひとがおおいだろうから、キョウソウもはげしいだろう。

もうひとつは、エーアイやロボットにおきかえられないしごとをすること。もうひとつは、エーアイやロボットをセイビするしごとにつくだ。パソコンがフキュウして、プログラマーがふえた。コンゴもやはり、エーアイやロボットをプログラムするロウドウリョクがヒツヨウなのだ。だから、エーアイゴなり、ロボットゴをおぼえるといいだろう。「あなたのロクジュウニバンソースコードにバグがあります。」とシテキできればセイサンテキだろう。

ヒャクサンジュウ『ス』ヒャクゴジュウハチ

「カカクキョウソウ」などという。あるセイヒンのカカクをきそっているジョウタイである。やすいもののホウがうれるというニンシキやジツタイからそうになってしまうのだろう。うるためにやすくするわけだ。イッポウで、「かねもちがますますかねもちになる。」というはなしもある。かねもちはひよっとしたら、そういうカカクキョウソウにサンカしなくてもいいかもしれない。かねがあるからだ。タシヨウたかくてもかえるし、うるホウとしても、タシヨウうりあげがおちてもダイジョウブだろう。ようするに、ビンボウなホウがキョウソウをして、かねもちのホウはキョウソウしないといえるかもしれない。ケイザイキョウソウはカコクだったりする。くうかくえないかであるからだ。そうしたビンボウニとかねもちとのカクサをモンダイとするひともいるようだ。どうすれば、「カクサ」がなくなるかをとく。タブン、ヘイワのホウがいいからだろう。さきにいったように、かねもちはキョウソウしなくていいブンヘイワである。だから、かねもちのかねをビンボウニンにおとせというかんがえかたをしたりする。かねもちにタクサンカゼイするというホウホウもある。しかし、そういうひとのことをシンライできるのであろうか。そのひとがシンライできるかどうかは、そのひとのかうものをみればよい。イチバンねびきがおおいビールをかったり、やすいラジカセをかったりするのでは、シンライできないであろう。なぜなら、セツキョクテキに、やすいものをかうことで、「カカクキョウソウ」をシジしているからである。つまり、そのひとは、「ヘイワ」なジョウタイにしようとしていないわけだ。それではキョウソウはなくなるであろう。ホンキでそれをいうのなら、わりだかなものとか、そこそこのものをかうヒツヨウがあるとおもう。

ヒャクサンジュウイチ『ス』ヒャクロクジュウイチ

マニュアル（サギョウテジュンシヨ）があるしごとは、キカイにおきかえられるといっ

た(●ヒャクニジュウキユウ『ス』ヒャクゴジュウゴ、『ス』ヒャクゴジュウサン)。それは、キカイにプログラムカノウだからである。つかうホウからみれば、ニンゲンをプログラムするか、キカイをプログラムするかのサにすぎない。ガッコウキョウイクもイッシュのプログラムであろう。ナンネンにだれがどうしたとか、スウシキをよめるようにしたり、エイゴをインプットしたりする。それは、キホンテキなことだからと、チュウガクまではギムキョウイクとなっている。そのさきは、プログラムしたきゃコウコウなどにいけばいい。

キカイのプログラムはサギョウケツカをかえしてくれるが、ニンゲンをプログラムすると、おかねをくれることがある。キョクタンなのがサギであるが、イセイにあえるというジョウホウのかわりにおかねをはらうことがある。コウコクもそうであろう。〇〇のセイヒンがいいですよとインプットすると、おかねをはらって、そのセイヒンをかってくれたりする。そういうわけで、ニンゲンあいてにプログラムすると、もうかることがある。ロウドウのバメンだと、サギョウにおうじてチンギンをしはらわなければならないが、そういうプログラムもある。

なにはともあれ、これからは、プログラムするひとと、プログラムされるひとにわかれるのではないか。プログラムするひとは、それによってサギョウケツカをもらえるし、さきのように、ニンゲンをプログラムして、おかねをはらってもらえるかもしれない(かりに、ゲンキンをうけとれるプログラムということにする)。しかし、プログラムされるひとは、ウンがよければ、サギョウをして、チンギンをうけとれるが、キカイもそれをしたりするので、やすくなるだろう。ウンがわるければ、ゲンキンしはらいプログラムによっておかねがでていってしまう。だったら、プログラムするホウになったホウがトクだろう。

そういうわけか、ガッコウキョウイクにプログラムのギジュツをいれたらいい。まあ、ダトウといえばダトウだろう。しかし、プログラムされるひともヒツヨウでないか。それがそろわないと、プログラムとプログラムをぶつけあうプログラムセンソウになりかねない。ケイザイテキなりエキがかかるので、ひとはホンキになってやるだろう。とにかく、ユウシュウなプログラマーがかちのこるのはたしかだろう。

ヒャクサンジュウニ『ス』ヒャクロクジュウサン

オンガクをつくって、イッコのガツキをいれかえると、そのキョクのイメージがソウトウかわるというかんじがした。イチたす イチ たす イチは、サンだが、イチ たす ゴたすイチのようなシキになったんだろう。ケイサンケツカもななどかわる。

それをならすのに、ヘイキンイチのホウにあわせるか、ヘイキングのホウにあわせるかというモンダイがある。どちらでもいいのだが、ヘイキンをゴにするホウがてまがかかる。ヘイキンをゴにしようとおもえば、たすよん と たす よんのケイ たすハチをしなければならない。しかし、ヘイキンをイチにしようとおもえば、ひくヨンをすればいいだけだ。これはなにかのカダイにいていないか。「でるくいほうたれる。」というやつである。あるシャカイで、あしがはやいひとがひとりいたとする。そのひとにあわせてはしろう

とすると、クロウがおおいから、あしがはやいひとをヘイキンテキなはやさではしるようになってしまうというやつだ。これは、いじめのメカニズムでもあろう。あしがおそいひとがいたら、ヘイキンテキにはしってもらうというのがわかりやすいレイだろう。つまり、ヘイキンにあわせるホウが、おおぜいにとって、クロウがすくないから、それがおこるというわけである。しかし、コクサイキョウソウがはげしいと、ユウシュウなひとはヒツヨウである。ムリにあわせるヒツヨウはないが、コセイソウチョウでいいのかもしれない。

ヒャクサンジュウサン『ス』ヒャクロクジュウゴ

いじめのゲンリをかいた（●ヒャクサンジュウニ『ス』ヒャクロクジュウサン）。なにかのノウリョクがサンのセイト、ひとりと、イチのセイトがヨニンいたとしたら、サンのセイトがイチのセイトにあわせたホウが、ゼンタイテキなロウリョクがすくなくなるというロジックだ。そのばあい、ロウリョクは、ニですむが、ギャクにイチのセイトが、サンにあわせると、ロウリョクがハチかかる。このロウリョクのモンダイで、いじめがおこるというセツである。

それでは、いじめはカイケツできるのだろうか。あるノウリョクがジュウのセイトがひとり、イチのセイトがヨニンいるとする。タンジュンなサンスウテキソウサでは、ヘイキンにおちつかせてしまえということがかんがえられるであろう。ゴニンでゴウケイジュウヨンだから、ニテンハチにゼンタイをもっていけばいいと。しかし、そのばあい、ノウリョクがジュウのセイトは、ナナテンニのロウリョクがヒツヨウで、ほかのヨニンとくらべると、イッテンハチだから、ヨニンブンのロウリョクをしられることになる。これでは、ロウリョクのコウヘイセイはカイショウしない（うらむということだ。）。それならどうすればいいか。

ノウリョクのチュウカンにおちつかせればいいということがかんがえられる。このばあいなら、ゼンインゴテンゴをめざすのである。それだとそれぞれがヨンテンゴのロウリョクをつかえばいいとなる。それならコウヘイだから、おさまりはわるくないのではないだろうか。もっともカンタンなレイだからこういうケッカで、もっとノウリョクがばらけると、フクザツなケイサンがヒツヨウであろう。

ヒャクサンジュウよん『ス』ヒャクロクジュウハチ

あるキギョウがあるセイヒンをうりあげ、ダブリュ（チンギン）と、ピー（リエキ）をだしたとする。このダブリュをジュウギョウインはつかい、セイカツをする。このジュウギョウインがチョキンをせずにダブリュをつかいきれば、またダブリュブンのジュヨウがうまれる。しかし、イッポウのピーがつかわれなかったら、ジュヨウは、そのまえが、ダブリュたすピーがあったところ、ダブリュだけになる。つまり、ピーブン、ジュヨウがへるわけだ。それでまたセイヒンをうると、ダブリュだけうりあげて、またエックス

(チンギン) と、キュー (リエキ) をだす。こうしていると、ドンドンチンギンもリエキもさがってしまう。これを「デフレ (●ヒャクニジュウイチ『ス』ヒャクニジュウニ、ロクジュウな『オ』ヒャク)」とよぶようだ。

マルクスフウにいえば、「サクシュ」だろう。それをカイケツするには、「リエキ」をださないというホウホウがあるが、そういうキギョウはすくないだろう。しかし、こうしたコウゾウゆえに、フケイキがながくつづいたというはなしもあまりきかない。どうしてだろう。

イッパンテキなコウケイキがつづくうらでは、ケッコウなあかじをだしているキギョウやひとがいるのではないか。「コウケイキ」というのは、あるタスウのはなしである。うらであかじをだしているキギョウがいなければ、チンギンもリエキもさがりつづける。つまり、すくなくとも、さきのピーのブブンをどこかのキギョウやひとがはらっているといえそうなのである。それをセイサクテキにジッコウするのがコウキョウトウシであろう。

セイジカはセンキョでえらばれるから、タスウが、「ケイキがわるい。」というと、トウセンするのがむずかしくなる。しかし、ショウスウが「ケイキがわるい。」といっても、あまりモンダイにならない。だから、ケイザイのメンでいうと、センキョセイジはシッパイかもしれない。タンジュンなキンケンセイジ (シサンにオウじてトウヒョウする。) のホウが、ケイザイテキにはまともかとおもう。タスウのリエキばかりがダイジだとはいえなさそうだから。ゲンザイのやりかたでは、「あかじ」も「コウケイキ」のシゲンになっているといえるだろう。「おかげさまで」というわけである。

ヒャクサンジュウゴ『ス』ヒャクななジュウニ

エーアイとロボットがマニュアル (サギョウテジュンシヨ) にできるしごとをするようになるとかいた (●ヒャクサンジュウイチ『ス』ヒャクロクジュウイチ、ヒャクニジュウキウ『ス』ヒャクゴジュウゴ、『ス』ヒャクゴジュウサン)。そうすると、ニンゲンやエーアイやロボットをプログラムするひとと、プログラムされるなにかのみつつにわかれる。だから、プログラムするひとは、ガッコウにいけばよいが、プログラムされるホウは、ガッコウにいてチシキをみにつけてもしょうがない。プログラムするなにかのことをきいて、うごけばいいだけだからだ。それなら、ダイガクだけでなく、コウコウにもいかないで、はたらいたホウがいいかもしれない。シヨクギョウジョウのギジュツがみにつくからだ。

プログラムするホウに、こどもをまわらせたかったら、ヨウジキから、プログラムをまなばせるといいかもしれない。プログラムのガクシュウといっても、そのまえにニホンゴやエイゴだろう。ニホンゴでかかれたプログラムはゲンジョウすくないだろうから、いえでつかうことはエイゴにしたホウがいいかもしれない。もっといえばキカイゴだろう。そうやって、ショウガッコウでみならいのプログラマー、チュウガッコウではたらけるプログラマーになるかもしれない。いえでも、「おかあさん、ボク、サンジュウギョウめのヘンスウがいいんだけど。」「そうね、ロクジュウイチギョウめのヘンスウもいい

わよ。もし、あなたのキゲンがわるくなければ。」「それなら、『それでいいよ。』とヒョウジするよ。」といったかんじではなすのがいいかもしれない。しかし、そういうプログラムからキョリをとっていきることもしできるだろう。

ヒャクサンジュウロク『ス』ヒャクななジュウサン

あかじはシゲンであるというはなしをした（●ヒャクサンジュウよん『ス』ヒャクロクジュウハチ）。だれかがあかじをひきうけないと、リエキはでないからである。その「リエキ」のブンを「あかじ」とみないむきもある。しかし、だれかがださなければ、「リエキ」はでない。だから、いいセイヒンをつくるのだから。そうすれば、「あかじ」のブンまでよろこんではらってくれる。そういうわけで、イチバンリエキをだしているキギョウは、あかじあつめがもっともうまいといえる。

あかじをよろこんでだすならそれもいいだろう。しかし、あかじをだしたくないひともあるだろう。どうも、フケイキのときには、あかじをだすのをためらうひとがおおいようだ。そうすると、カイシャのホウでもギョウセキがおちるのだから。」「フケイキ」だとモンダイにするけれど、シゼンなコウバイカツドウもいいとおもう。

ヒャクサンジュウなな『ス』ヒャクななジュウよん

フケイキだと、セイフに、「コウキョウジギョウをやれ。」といいだす。そうすると、ミンカンがリエキがイジできるからだ。ニホンのコクナイソウセイサンがゴヒャクチョウエンほどで、うちゴパーセントをリエキとしてだしているとする。どこもあかじをださなくなったら（ヒャクエンのものをヒャクニジュウエンでかいたら、うりてにとっては、ニジュウエンのリエキだが、かいてにとっては、ニジュウエンのあかじだ。）、ニジュウゴチョウエンのリエキはでなくなる。だから、あかじをだしてくれるだれかをさがす。まったくものがうれなくなるというのは、かんがえられないので、ハンブンのジュウニテンゴチョウエンが、リエキとしてでなくなったとしよう。そのところに、セイフがジュウニテンゴチョウエンはらえば、いつもどおりのリエキとなる。だから、コウキョウジギョウをもとめるひとがいる。

しかし、いってみれば、まいとし、エイヨウザイをうっているようで、ケンゼンとはいえない。ミンカンがジギョウはミンカンでやればいい。そうかんがえると、ニホンジンは、ジュウニテンゴチョウエンブンのはたらきがたりていないことになる。ひとりあたり、ネンカンジュウニテンゴチョウエンブンヨケイにはたらけば、コウキョウジギョウをたのみにすることはない。いまは、ひとでがたりないといっているが、むかしのことばにあるように、「おごれるものひさしからず。ただはるのよのゆめのごとし。」だ。エイヨウザイなしでうまくできなければならないだろう。

ヒャクサンジュウハチ『ウンドウはすべてエレクトリック。(イカ、『ウ』)』イチ

ケイエイカツドウでは、くろじがよしとされる。しかし、だれもがくろじというのはありえない。くろじがでるなら、どこかであかじがでているはずである。

ヒャクエンのジュースでかんがえよう。そのうちサンジュウエンがリエキブンとしよう。これをななジュウエンでうれば、うるホウも、かうホウもあかじはでない(くろじもでない)。しかし、ヒャクエンでうりかいすると、うるホウはサンジュウエンのくろじ、かうホウはサンジュウエンのあかじがでる。

フツウはこれをあかじといたりしない。しかし、そういうことである。かうホウは、そうやって、あかじ(くろじのもと)をキョウキュウする。ケイキがわるいときは、うるホウがあかじをキョウキュウしたりする。ただかうだけだったら、フケイキのホウがあかじはすくなくなるだろう。しかし、どこかではたらいでいたりするから、あかじじゃこまるとなる。カイシャがつぶれてしまっはこまるし、キュウリョウがさがってもこまるからだ。そうやって、くろじはゼニンされる。

また、ロウドウもあかじである。イッセンマンエンブンしごとをして、ゴヒャクマンエンをうけとったりする。そういうわけだから、あかじはつきものともいえる。あかじがないシャカイをめざしたくにはあるが、それがセイコウしたとはきかない。

ヒャクサンジュウキュウ『ウ』ゴ

「でるくいはうたれる。」という。しかし、ですぎたくいをうつのはむずかしい(●『よ』ななジュウゴ)。まえのホンでギロンしたいじめのモンダイ(●ヒャクサンジュウサン『ス』ヒャクロクジュウゴ、ヒャクサンジュウニ『ス』ヒャクロクジュウサン)も、くいをたたけばいいわけではないというケツロンである。なぜなら、フコウヘイがショウズるからだ。

つまり、ひとりのできをかえるのでは、そのひとのフタンがおおきい。だから、コウヘイなりョウだけ、ゼンインのできをかえればいい。それはどういうことかという、でたくいはちょっとたたき、でてないくいはちょっとひっぱるということである。そうすると、それぞれのドリョクがキントウで、あらたなフコウヘイカンがうまれないということである。

ヒャクよんジュウ『ウ』キュウ

だれかがリエキをだすと、ものがやすくなるはなしをした(●ヒャクサンジュウよん『ス』ヒャクロクジュウハチ、『ス』サンジュウハチ、ロクジュウなな『オ』ヒャク)。だから、ブッカをアンテイさせたかったら、リエキをあげるのをやめればよい。しかし、それをするというはなしはきかない。

ブランドもののよさは、ものがたりとかにあるのではないかもしれない。たかいカカク

がいいのではないか。たかいカカクでかわれれば、ケッコウなりエキがでる。そうすると、そのリエキのブン、だれかがうっているもののねだんをさげるのである。ブッカがやすくなるから、あえてブランドものをかうのかもしれない。

ヒャクよんジュウイチ『ウ』ジュウ

よくケイキがいいだの、わるいだのいう。コウケイキかフケイキかである。ショウパイをしていれば、コウケイキのホウがいいだろう。それとおなじように、「シャカイ」にもいい、わるいがないか。

ものがスムーズにとりひきできるのは、いいシャカイ（コウシャカイ）だろう。イッポウ、ショウヒンセツメイが、いいカゲンだったり、フリオウヒンをうりつけたりするのは、アクシャカイだ。ケイキ、ケイザイのジュンカンもダイジだが、シャカイのジョウタイもダイジだとおもうのである。

ヒャクよんジュウニ『ウ』ジュウシチ

「チームワーク」がいいなどという。ひとがそれぞれしごとしているよりも、ダンケツしてしごとをしたホウがいいようにおもえるかもしれない。それはただしいかもしれないが、モンダイもある。

それは、まとまることがモクヒョウになったり、まとまることにおおくのロウリョクをさくばあいである。たとえば、それぞれのひとが、ニタンイジカンをついやして、イチずつのしごとをしたとする。それをチームワークよくやるばあいに、ひとびとがまとまるのに、ニタンイジカンをついやしたら、それぞれのばあいにニタンイおとるし、まとまるのに、イチタンイジカンをつやしても、イチタンイ、それぞれのばあいにおとる。だから、それぞれがしごとをしたホウがコウリツはよいとなる。

ヒャクよんジュウサン『ウ』ジュウキョウ

ミンエイカは、ハチジュウネンダイから、カッパツになった。ソレンのシッパイとドウヨウ、ケイエイのしかたのモンダイともいえる。しかし、そのほかにも、モンダイがある。それは、まえにシテキした、コウリツのモンダイである（●ヒャクよんジュウニ『ウ』ジュウシチ、『オ』ゴジュウロク）。

つまり、まとまりをジュウシするゆえに、ココのはたらきがよわくなってしまいうことだ。それなら、ココのちからをいかせばよい。それだけであろう。

ヒャクよんジュウよん『ウ』ニジュウニ

ケイザイののびは、みぎかかたあがりがいよとされる。しかし、にもかかわらず、キューなハッテンをカンゲイしたりする。そのリュウのひとつは、かぶぬしのリエキのためであろうが、まあ、それをキタイしたりする。

そうではなくて、ケンジツなのび（ネンリツイッパーセントのうりあげゾウなど）をめざすのがよいのではないか。「ながいきケイエイ」としておく。

ヒャクよんジュウゴ『ウ』サンジュウ

いまごろでは、あまりヒョウカされるニホンセイヒンはすくない（ニホンキギョウはカイガイでもつくったりもしている。）。ユイイツのレイガイは、くるまでであろう。

なぜヒョウカされないか。わたしは、それは、ニホンキギョウが「ブツリョウ」にはしったからだとおもう。ブツリョウとはどういうことか。タクサンうるということではない。セイヒンのシツがブツリョウなのだ。

ハチジュウネンダイからのエンだかになるまえは、すくないエネルギーでうごくようにセイヒンがつくられていた。しかし、エンだかにふれてからは、いろいろとユニウできるようにになったからか、ブツリョウにはしりだした。カセットテープレコーダーは、デンチがジュウジカンもつが、シーディプレイヤーは、ゴジカンしかもたない。コウシャのホウが、おとはよいといわれるが、そういうケッテンがある。シゲンのすくないくにすむイジョウ、それではいけないのではとおもう。

ヒャクよんジュウロク『ウ』サンジュウサン

ケイキがいいだのわるいだのいう。おかねがよくまわっているかどうかをあらわすことばなのだろう。ケイキがわるいと、ケイキタイサクといって、コウキョウコウジをはじめ。そうすると、セイフのあかじがふえる。それでいいのだろうか。

センゼンからそうだが、ニホンはユニウがあって、なりたっている。だから、ボウエキシウニウがダイジなはずである。どうも、それをわすれてしまっているかのようだ。

ヒャクよんジュウシチ『ウ』サンジュウなな

キュウジュウネンダイコウハンから、ニホンでは、パソコンブームになった。それからパソコンがフキウした。トウジ、ニホンのメーカーはニホンでつくっていた。いまは、チュウゴクセイがおおい。

それはともかくとして、パソコンをつくることで、だれがもうかるのか、タブン、ニホンジンももうかるが、チュウゴクジンがいちばんもうかるだろう。なぜか。オウベイ

がアルファベットのブンカなのにタイして、チュウゴクは、カンジのブンカだからである。グタイテキには、モジニューリョクでラクになる。カンジがもっともカクスウがおおい。それを、ジブンではかけなくてもつかえるのだ。そのメリットはおおきいだろう。

ヒャクよんジュウハチ『ウ』よんジュウキユウ

ガッシュウコクで、あまりシャカイシュギシャがいるとはきかないが、タブン、シャカイシュギシャもうけいれるんだらう。イッポウ、ロシア（ソレン）やチュウゴクは、シャカイシュギコクだったが、シホンシュギテキなケイザイカツドウをはじめている。たまに、ガッシュウコクとチュウゴクのニタイコクが、チキユウシャカイをきめるなどというが、それがなぜなのか、あまりセツメイされない。わたしはこれをつぎのようにおもう。

ガッシュウコクなどのにしがわショコクは、シャカイシュギをみとめるシホンシュギコクである。かれらと、（ロシア、）チュウゴクなどのひがしがわショコク、シホンシュギをみとめるシャカイシュギコクとのトウソウではないか。おなじようかもしれないが、ちがうともいえる。そういうことではないか。

ヒャクよんジュウキユウ『ウ』ゴジュウ

いまのニホンやこれからを、コウレイショウシカといっている。としよりがふえて、こどもがへるということだ。ひとがおいとどうなるか。からだがうごかせなくなったり、ぼけたりする。わたしのおやじもそうになった。ジテンシャにのってころぶくらいだったのが、やがてねたきりになった。そうすると、ヨウもたせないから、おむつとなる。

たまに、わかいひとがナンニンで、としよりをひとりささええるというはなしができるが、まあそれだけロウリョクがかかるといえる。そのブン、フツウのしごとができなくなるといってもよい。そのように、おむつカするニホンであるが、フツウのしごとだけでなく、ボウエイなどもタイヘンであろう。いまは、ガッシュウコクがたすけてくれるからいいが、ニホンジンがおかねをもっていないとなると、そうもいかない。

チョキンがあつて、おかねをあまりつかわないというと、ケイキがわるくなるといって、だれかがおこりだしそうだが、チョキンというのは、「ホケン」であろう。フツウのホケンは、だれかにおかねのウンヨウをまかせるが、チョキンはジブンでウンヨウする。ウンヨウにかかわるコストもおさえられるから、フツウのホケンよりいいかもしれない。そうしたジコホケンがあれば、なんとかなるだろう。ニホンジンがおむつカしたときに、ホケンなしではセイカツできないであろう。セイフは、ジコセキニンとはいわないが、やはりそういうメンがあるだろう。

ヒャクゴジュウ『ウ』ゴジュウロク

カブケンならびにカブシキシジョウがデンシカされてしばらくたつ。むかしのトリヒキジョウは、ひとがあつまっていいとおもうが、タイリョウのチュウモンをこなすにはコンピュータのホウがツゴウがよいのだろう。

しかし、そのリテンはそれだけではないだろう。タイリョウのチュウモンが、イッキにシヨリされるから、シジョウがアンテイするわけだ。だから、トウキカにはおもしろくないが、チョウキでトリヒキするにはむいているだろう。あれてもすぐもどるというわけだ。

ヒャクゴジュウイチ『ウ』ゴジュウなな

「コウレイカ」といわれてひさしい。このあと、ジンコウがイチバンおおいセダイがコウレイカし、ホンカクテキなコウレイカシャカイがはじまる。

ゲンザイのニホンジンのコジンキンユウシサンはおおいが、セイフのフサイがおおいため、それでセイサンされれば、ニホンジンはキンユウシサンなしとなる。コンネンドのセイフヨサンがヒャクチョウエンほど。これはゼイシュウのほかにゴジュウツョウエンほどのアカジコクサイがハッコウされる。このままザイセイカイカクをしないと、イチバンジンコウのおおいセダイのすがたがみえなくなるころ、ニセンサンジュウハチネンには、やはりセンチョウエンのコクサイザンダカがのこる。

これはニホンジンにはらえるかわからないガクだ（コクミンが、ただばたらきをすれば、はらえる。ニヒャクマンエンブンをロクセンマンニンがジュウネンはたらけばセンニヒャクチョウエンになる。）。

またそのゴもコウレイカはつづく。だから、さきにのべた、ただばたらきをしたくなければ、ザイセイなり、コジンのサイフのひきしめなどがヒツヨウであろう。ニセンサンジュウキュウネンでセンチョウエンだから、ニセンニジュウキュウネンでゴヒャクチョウエン。

もうすでに、ゴヒャクチョウエンキボの、ようするに、ニヒャクマンエンブンをサンゼンマンニンがはたらくただばたらきがはじまってもおかしくない。しかし、ほかにもホウホウがあるとことわっておく。

ヒャクゴジュウニ『ウ』ゴジュウハチ

ガッシュウコクでキンユウギョウがハッテンしたといわれる。なぜおかねをふやすヒツヨウがあるのか。それはケイエイをやってみないとわからないメンがあるが、ジツブツ

にくらべると、ツウカそのものにはカチがない。それでもつかえそうだというかんがえがあろう。

むかしまいにキンでホシヨウすれば、ツウカもホシヨウされる。しかし、そのセイドはつづいていないようだ。あまりツウカダカだと、ユシュツがむずかしくなる。だから、それをとっぱらうために、キンをつかうのをやめて、ユシュツしようとしたのだろう。そうすれば、ほかのくにのひとがやすくかえる。それがホントウにやすいかはなんともいえないが、かうコウホになるだろう。

ニホンもハチジュウゴネンにエンダカになることをショウニンした。それでユシュツがフシンにおちいったともいえるが、モンダイはコヨウのホウだ。ニホンセイヒンのカカクキョウソウリヨクがよわまったわけだから、うれなくなる。それで、ヒセイキコヨウをふやした。

ようするに、シツギョウシャみたいなのひとがふえたわけだ。ガッシュウコクでもそうだったのだろう。シツギョウシャをセイキコヨウするには、おかねがかかる。それをかせぐのがキンユウギジュツだったわけだ。ウンヨウエキができれば、それでやとえる。ガンボンワレだとあとにひびくが。ウンヨウエキのブブンでやればソンはない。

ニホンでは、フリオウサイケンショリイコウ、キンリがあがっていないが、オウベイではちがう。ニホンでは、セイフのサイムがあったから、ミンカンがチョウシよくとも、セイサクキンリをあげられない。オウベイでは、そのキンリによって、シツギョウシャをささえられた。ニホンではおなじようなモンダイがあるにもかかわらず、それができていない。キンリがひくいから、カブシキシジョウにながれるだろう。わりだかといわれるくらいであぶないが、そういうことをしないと、シツギョウShaをささえきれない。そういうモンダイがある。

ヒャクゴジュウサン『ウ』ゴジュウキユウ

さきに、ニホンジンが、ただばたらきをするようになる（●ヒャクゴジュウイチ『ウ』ゴジュウなな）とかいた。これは、コウレイカのシンテンなどで、セイフフサイがふえるためである。それはなにかであなうめしなければならぬ。タンジュンにフサイをださなければいいだけだが、いまのところ、カイゼンするケハイはない。だが、だれかががんなれば（おかねをだせば）、そうならないカノウセイもある。

しかし、むかしはロウエキがあったわけだから、けっしてめずらしいケースではない。ゲンジョウ、ただばたらきのロウドウシャがいるところを、だれかがかねをだしているから、そうなっていないところだろう。

おおきなおかねがあると、キンリだけでケッコウなはずのロウドウShaをやしなえる。たとえばゴヒャクチョウエンあれば、ネンカンジュウゴチョウエンくらいでる。それなら、サンゼンマンニンのただばたらきのひとにゴジュウマンエンをはらうことができる。こづかいがでるわけである。しかし、そういうおかねがなくなると、ただばたらきのニズウがふえ、こづかいもでにくくなる。セイフフサイがでつづけるとなると、そうなるみこみがおおきい。

タンジュンにケイサンすると、セイフフサイがネンカンゴジュッチョウエンでるわけだから、イチネンカンにネンシュウゴヒャクマンエンのロウドウシャイツセンマンニンが、ただばたらきしなければならないとなる。それがつづいて、だれもかねをださないとなると、キギョウのいきおいにあわせて（キギョウはブジである。しかし、キョウソウにさらされる。）、フツウのシャインのかずもゾウゲンするだろう。

キギョウは、コクサイキョウソウもそうだが、コクナイでタクサンのただばたらきがふえるわけだから、かなりのキョウソウにさらされる。ということは、シャインのチンギンがさがるか、やとうひとをへらすとなるだろう。そうなると、セイヒンをつくってもそんなにはうれない。かうひとにそんなにおかねがないからだ。

ゲンザイでもそういわれたりする。ということは、セイヒンのカカクがさがって、はたらくひとのキュウリョウもさがる。いわゆるケイキがわるいだ。それをどうやってのりこえていくかがカダイだろう。タンジュンにかなりチンギンをさげれば、ながつづきするだろうが、それをするためのキセイはきめにくいだろう。

ヒャクゴジュウよん『ウ』ロクジュウ

そこらにあるいと、くるまがよくめにつく。あるカンテンからいうと、それだけかねもちがおおい。そんなにかもちがいるのか。となる。

ニホンのユシュツニューのトウケイからいうと、せいぜいニジュッチョウエンのくろじ（それでもすごい。）だから、そのギョウカイにつとめるジュウギョウインはかえてもおかしくない（くるまはシゼンブツではないのだ。テッコウセキをユニウするヒツヨウがある。つまり、ゲンリョウはユニウだ。）。ニジュッチョウエンをキュウリョウとしてハイブンすると、ネンシュウサンビャクサンジュウサンマンエンのガイカをもつジュウギョウインがロツピャクマンニンいることになる。くるまのネダンがサンビャクマンエンとしても、そのひとたちは、くるまをかえるだろう（ジュウネンローンでもいい。）。だとすると、ロウドウジンコウのジュウブンのイチテイドがクルマをかえることになる。つまり、ジュウニンにひとり、ジンコウでいうと、ニジュウニンにひとりとなる。

だから、そのケイサンでかんがえると、くるまはそんなにはしっていないはずなのだ。かねもちがおおいというジツカンもそこそこまとをえているだろう。しかし、くるまはタクサンはしっている。それはなぜなのか。

さきにのべたように、ニホンのガイカシュウニューはせいぜいニジュッチョウエンである。そのガイカシュウニューのハンブンはあぶら、ガスをかうだろう。のこりハンブンのハンブンはセイゾウにヒツヨウなゲンリョウをかうとして、そのこりのハンブンのハンブンでくるまをかうとする。ゴチョウエンだから、ヒャクゴジュウマンダイかえる。かいかえがあったとしても、センゴロクジュウネン（ややフッコウしてから。センキュウヒャクロクジュウネンから、それがつづいたとすると、ななジュウネンでハッセンロツピャクマンダイかったことになる。

それなら、なぜかはセツメイできる。ところが、このケイサンだと、くるまいガイのユニウヒンテキなもの、かえていないことになる。ガイカシュウニューのよんブンの

イチをくるまのニューにあてたということだからだ。

つまり、センゴフッコウしてユシュツできるようニホンジンはがんばったが、コクナイにあるものイガイは、くるましかてにはいらなかったことになる（「くるまが」といったホウがいいかもしれない）。わたしがバブルをケイケンしたセダイなのでそういうが、ななジュウよネンカンのドリョクのケツカが、ニホンジンがくるまをもったということになる。ベツにくるまでなくともよかっただろうが、そとをあるいてみると、どうもそのようだ。

それがいわゆるななジュウよネンカンのニホンのケイザイセイチョウである。キュウジュウネンダイから、ユニウヒンがふえはじめたが、それらをかうとなると、くるまをかうにはたりなくなってくる。それをどうかんがえるか。ひとつは、くるまをダイジにながくつかえばいいのである。しかし、ゼイセイ、キセイがチョウバツテキだから、カンタンではない。しかし、シュウリしてつかえばいいだろう。そうすれば、ほかのなにかもかえるかもしれないのである。

ヒャクゴジュウゴ『ウ』ロクジュウイチ

ニホンジンのジッシツテキなシュウニューというと、ネンカンニジュウチョウエンほどのガイカシュウニューにすぎない（●ヒャクゴジュウよん『ウ』ロクジュウ）。そのほかはニホンジンドウシで、ぐるぐるまわしているにすぎない。そのまわしたリョウはコクナイソウセイサンではかられる。シュウニューがニジュウチョウエンだから、ひとりあたりニジュウマンエンテイドだ。このハンイで、ユニウヒンをかわないとあかじになる。あぶらとガスはユニウである。デンキもダイタイあぶらやガスからつくられるので、ユニウだ。

あなたのいえのコウネツヒはいくらか。ネンカンジュウマンエンでおさまっていたらまあいいだろう。あとジュウマンエンのこることになる。わたしはキョネンユニウヒンをゴマンエンぐらいかった。そうすると、ゴマンエンのこるが、タブンショクヒにきえただろう。ギウニクとこむぎである。そうすると、そうすると、あたたかいおもと、いいからだつきと、かったテチョウとマンネンヒツがのこる。

そうかんがえると、そんなにゼイタクはできないとわかってくる。ショクリョウも、さかなや、とりにくをたべればガイカをつかわない。ラーメンでなくて、そばなどにしてもいい。それがカンベキにできれば、ゴマンエンチョキンできる。そうやって、ガイカをチョキンすれば、なにかのときにやくにたつだろう。もし、これがあかじだと、ニホンジンはまずしくなるとのことだ。

ヒャクゴジュウロク『ウ』ロクジュウニ

ただばたらきのひとがふえそうだとかいた（●ヒャクゴジュウサン『ウ』ゴジュウキュウ、ヒャクゴジュウイチ『ウ』ゴジュウなな）。コウレイカとシャカイセツケイのシッパイ

からそうなるんだろう。いまのところは、セイフサイよりもミンカンのチョコキンがおおいから、それはヒョウメンカしない。

セイフサイののびは、まいとしゴジュッチョウエン。これがミンカンのチョコキンにおいてしまうと、セイフはどこからか、かねをもってこないとならなくなるから、ゾウゼイやキュウリョウをテンビキすることがかんがえられる。そのはてが、ただばたらきである。イッセイにテンビキするか、ショクギョウにあわせてテンビキするか、そこはわからない。

しかし、おかねがまったくないわけではない。あるところにはあるはずである。だから、うまくそういうひとたちとしごとをすればよい。おおむかしの、ひとはシュリョウしていたという。しかし、コンドは、ひとのよいシュリョウであろう。ブツブツなんかをいうより、すなおにしごとをするホウがこのまれる。そうやってめしをかせげばいいのである。そのためには、こだわりをすてるのもダイジであろう。

ヒャクゴジュウシチ『ウ』ロクジュウサン

ひとりあたり、ネンカンニジュウマンエンが、ニホンのケイザイセイセイチョウといった（●ヒャクゴジュウゴ『ウ』ロクジュウイチ）。このニジュウマンエンは、いまのところつかっていないなにかをてにいれるのにつかえる。ネンカンニジュウマンエンだから、よんジュウネンそれをためてもハッピークマンエンである。

いま、いえをもっていなかったとしたら、いえをたてたいかもしれない。しかし、このばあいたててはだめである。ハッピークマンエンではたたないだろうからだ。ともばたらきでセンロツピャクマンエンとすれば、ズイブンなコウガイにたてられるかもしれない。しかし、ゼイタクするのなら、そのセンロツピャクマンエンがねべりするからやめたホウがいい。

いますんでいるチンタイアパートがつきジュウマンエンなら、ネンカンヒャクニジュウマエン。ジュウネンでセンニヒャクマンエンだ。ずっとすむつもりだったら、よんジュウネンで、よんセンハッピークマンエンになる。それなら、はたらきだしてすぐにいえをかえばいいだろうが、そういうひとはすくない。よんジュウダイになって、ニジュウネンブンのヤチンのニセンよんヒャクマンエンとチョコキンでかうかというハンダンになろう。

ゼイタクをしていなければ、さきのケイザイセイチョウブン、よんヒャクマンエンためているんだろう。それでニセンハッピークマンエンである。コウガイにかえる。こんなところが、ニホンジンにできることでないか。タブン、ケンジツでないともずかしいだろう。

ヒャクゴジュウハチ『ウ』ななジュウロク

ゲンザイのニホンはキンリがひくい。だから、だれかにあずけて、キンリをかせぐのは

むずかしい。しかし、ほかのセンシンコクでは、キンリをあげるかもしれない。ニホンでは、それをおっかけて、キンリをあげるのはむずかしいだろう。セイフフサイがあるからだ。これがキョガクだから、キンリをあげると、りばらいでザイセイをアップクする。しかし、ホウホウがなくはない。

イチオウキンリはあげて、そのブンすべてにカゼイをすればいいわけである。つまり、キンリをゴパーセントにするならば、そのゴパーセントブンをゼイキンとしてチョウシュウすればよい。それなら、セイフのりばらいでザイセイをアップクすることはすくないだろう。

ヒャクゴジュウキュウ『ウ』ハチジュウ

レイネンダイに、シホンキンがイチエンでもカイシャをつくれるようになり、あまりシホンキンということばをきかなくなった。しかし、シホンキンはダイジだとおもう。むかしは、キギョウをするといったって、なにかベツのしごとで、ナンネンかがんばって、チョキンして、それから、ジギョウをはじめたとき。シホンキンがあれば、そのおかねでしごとができるわけだ。シホンキンがおおきければ、リソクだけでもしごとができるかもしれない。いまは、テイキンリだから、あまりそういうかんがえにならないだろうか。はじめから、やりたいことをやるジダイである。

ヒャクロクジュウ『ウ』ハチジュウニ

タイム イズマネーという。なにかベンリなドウグをかって、しごとをしようとおもっていたとする。それをかわなければ、なにもヘンカなしだが、おかねをだして、それをかうと、しごとがすすむ。しごとがすすむというより、ミライにあったしごとが、ゲンザイにひきよせられたといえるかもしれない。

そうやってたしかにおかねをジカンとコウカンできるわけだ。わたしはわかいころ、シィディをよくかった。オンガクをたのしむことをそのときひきよせた。ひとによっては、それがしごとになるだろうが、わたしにとっては、タンなるキョウラクだったようだ。

そういうハンセイがあるからか、サイキンはあまりシュミのものをかわなくなった。いい「ジカン」をひきよせたホウがいいだろうから。

ヒャクロクジュウイチ『ウ』ハチジュウよん

まえに、ひとりのツゴウではおかねがたまらないというはなしをした（●『ス』ジュウシチ、ゴジュウロク『オ』ニジュウハチ）。ワイ（チョキン、ガッコウにいくシキン）イコールエー（ジキュウ）かける エックス（ロウドウジカン）マイナスビー（セイカツヒ）といったはなしだ。

うまくしごとのジカンをふやせば、チョキンはふえる。しかし、それはひとりのツゴウだけではきまらない。ほかのドウリョウや、キョウゴウキギョウのうごき、ケイキにもサユウされる。だから、そのタンジュンなイチヘンスウモデルでは、うまくいかないということがわかった。それでヘンスウをふやしたらどうかといった（●キュウジュウサン『ス』ジュウシチ）。

しかし、このモデルのいいところもある。それは、ケイサンがカンタンだからだ。それはさきにのべたようなケツカンがあるが、サイキン、ゲームとしてまたやりはじめた。ベツにキュウリョウとかをケイサンするわけではない。こづかいをニューリョクして、チョキンはふえるようにもっていけないかとおもっている。

どこかからゲームをかってくれば、いくらかかかる。しかし、そのチョキンゲームはおかねがかからないし、うまくいけばチョキンはふえる。ガクセイのときにはじめてケイサンをまたやっている。

ヒャクロクジュウニ『ウ』ハチジュウなな

まえに、オンガクやエイガなどが、ひとりイチジカンあたりイチエンでたのしめるとかいた（●ヒャクニジュウニ『ス』ヒャクニジュウサン、ななジュウキュウ『オ』ヒャクサンジュウハチ）。そのかんがえかたをすすめると、コンピューターのプログラムもやはり、ひとりイチジカンあたりイチエンとなるだろう。ジツサイにそのくらいでテイキョウしていたりする。

そうだとすると、アイティブームで、コンピューターカンレンのジュウギョウシャがふえたが、やがてはへっていくだろうともいえそうである。ひとりイチジカンあたりイチエンだから、ヒャクニンのコティユーザーがいないと、ネンカンヒャクマンエンもかせげない。だから、あなたがプログラマーになろうとしたら、ヒャクニンのコティユーザーをカクトクできるかがめやすとなる。ヒャクニンのユーザーつかまえられるなら、くえないからやめたホウがいいとなる。チュウリュウっぽくセイカツしたければ、ゴヒャクニンのユーザーがヒツヨウだろう。

これをいいかえれば、あなたがプログラマーになれるかはヒャクブンのイチとなる。チュウリュウのセイカツをしたければ、ゴヒャクブンのイチだ。ヘンサチでカンサンすると、プログラムのヘンサチがななジュウテイドないと、くえないとなる。チュウリュウなみにだと、ハチジュウとかがヒツヨウだろう。

だから、プログラムでたべていくのは、コンゴはむずかしくなるとおもう。ちなみに、オンガクやエイガでケイサンすると、ヒャクマンブンのイチ、ゴヒャクマンブンのイチである。オンガクやエイガよりはいいだろう。

ヒャクロクジュウサン『ウ』キュウジュウイチ

ニホンはセンゴフツコウしたという。コジンがくるまをもてるようにもなった（●ヒャ

クゴジュウよん『ウ』ロクジュウ)。むかし、くるまはコウキュウヒンだったにもかから
わずである。だから、「ケイザイセイチョウ」といわれると、そうかとなるが、そのかわ
りに、うしなったものもある。それは、うしとかうまでである。

むかしは、ノウカには、うしとかうまがいたらしいが（おふくろのははおやのジツカは、
そうだったらしい。）、いまは、あまりみかけられなくなった。ということは、うしとう
まとくるまをコウカンしただけとなる。それは、ケイザイセイチョウといえないだろう。
タンなるコウカンだ。

コンゴ、ヒコーキをかえるとはかんがえていないが、「ケイザイセイチョウ」がカノウと
すればそういうことだろう。

ヒャクロクジュウよん『ウ』キュウジュウなな

なかなか、ニホンケイザイメカ（●『ウ』キュウジュウロク）のハンチュウでは、トシ
のホウのロウドウシャが、ノウギョウをするのもむずかしいであろう。かといってカイ
シャをはなれるわけにもいかない。シュウマツだけノウギョウをやるでもあるが、そう
カンタンではないだろう。

それなら、ニブンのセイキというはたらきかたはどうか。カイシャでのロウドウとノウ
ギョウをやることをジョウケンに、セイシャインのハンブンのタイグウをみとめるとい
うものである。ニブンのセイキだから、ヒセイキシヤインよりはタイグウがうえである。
まあ、そういうしくみなどをつくってノウギョウシンコウなり、シゼンにしたしむこと
ができればとおもうのである。

ヒャクロクジュウゴ『ウ』ヒャクロク

かんがえてみれば、コウギョウというのはむずかしい。なにがむずかしいかというと、
セイヒンをつくってうるのに、つくるロウドウリョクと、うるロウドウリョクがヒツヨ
ウになる。それで、ゴパーセントのリエキをとっても、ショウギョウは、うるだけでゴ
パーセントをとったりする。

ロウドウリョクがおおいブンだけ、コウギョウのホウがむずかしい。そういうリユウが
あつてかコウギョウジュウジシャより、ショウギョウジュウジシャのホウがおおくな
った。また、サービスギョウもおおくなった。コウギョウは、ものをつくってうり、ショ
ウギョウはものをうり、サービスギョウは、ロウドウリョクだけうるというかんがえか
ただ。

ショウギョウは、ものをしいれるブンだけ、センコウトウシがヒツヨウだから、それな
りにむずかしさがある。サービスギョウは、ロウドウリョクだけで、あるギノウがあれば、
もとでがなくてもカノウだ。だから、ここでいうショウギョウより、サービスギョ
ウのホウに、ひとがあつまるだろう。

ジツサイに、ジエイギョウより、サラリーマン、パート、アルバイトなどがふえた。サー

ビスギョウだけでは、ものがまわらないから、コウギョウ、ショウギョウもダイジだ。えどジダイには、シノウコウショウといったらしい。つまり、コウギョウはむずかしいゆえに、ショウギョウよりくらいがたかいということだろう。

いまでは、それにサービスギョウがくわるだろう。つまり、シノウコウショウサービスである。ショウギョウは、あるテイドのシキンがいるゆえに、サービスギョウより、くらいがたかいと。しかし、むかし、ショウニンなんかゆたかで、バクフのセツヤクのよびかけにこたえず、きものうらに、ソウショクをしたというが、ゲンダイでも、サービスニンがゆたかであろう。そういうコウゾウはかわらないのかもしれない。

ヒャクロクジュウロク『ウ』ヒャクジュウサン

ショウバイしているひとのショウスウがあかじのばあい、「コウケイキ」という（ゼンブがクロジというケースはすくないだろう。）。ダイタスウがあかじになると、「フケイキ」という。

そのことからいうと、コウケイキでも、あかじをだしているひとにとっては、フケイキはあまりカンケイないだろう。ダイタスウがあかじだと、セイフに「なんとかしろ。」といいはじめる。それがただしいのか。セイフがおかねをだしたとしても、それは、セイフがあかじをだすだけで、あかじをフタンするシュタイがかわるだけだ。ただ、それで、あかじがへるひともいよう。

そういうイミでは、フケイキジタイはかわらない。そもそも、フツウのショウバイジタイが、コキヤクにあかじをおわすというのは、ジユウシュギケイザイでは、まあ、シゼンジョウタイだろう（●ヒャクサンジュウハチ『ウ』イチ）。コウケイキとフケイキはなにがちがうか。

コウケイキのハンイでは、あかじでもおかねをだすことだろう。つまり、コウバイイヨクともいうが、ひとのシンリのモンダイであろう。エイゴでは、フキョウのことを、デプレッションという。それには、「うつっぽい」というイミもある。それがいうように、あまりコウバイするイヨクがないからそうなるわけだ。わたしは、しずかなのがきらいでないから、それもありだとおもうが、イッパンはいやがるのだろう。

ヒャクロクジュウなな『ウ』ヒャクニジュウよん

ニジュウセキはセンソウがあった。それはおおくのシシャとハカイをもたらしたという（ザンネンながら、わたしはカンサツしていない。）。もうそれから、ハチジュウネンたつが、まだ、ひよっとしたらたたかっているのかもしれない。ただ、ジュウをむけるセンソウはそうおおくはない。あいてにキョウラクをあたえるセンソウである。そして、それはジンルイをタイハイにむかわせているかもしれない。

コンピューターもそうだし、シィディプレイヤーもそう。エアコンもそうだし、ゲームキもそうだ。ダイタイ、これらはセンゴにできたものだろう。これらは、キホンテキに

なくてもすむものだ。そういつつ、わたしもサイヨウしている。まずは、「はずかしながら、タイリョウにネンリョウとみずをつかうフロをショユウしています。」とか、「これはわたしのダラクなんです、オーディオセイヒンをつかっています。」というところからはじめなければいけないのかもしれない。しかし、そのまえに、まえのセンソウのショリもダイジであろう。

ヒャクロクジュウハチ『ウ』ヒャクサンジュウゴ

かわせやブッカがアンテイしているホウがくらしやすい。それをタッセイするために、ツウカのシンライドがジュウヨウとなる。むかしは、ドルとキンのコウカンがホショウされていた。ドルをもっていくと、キンなんグラムとコウカンしてもらえたわけである。だから、そういうタイセイカでは、ケイザイはアンテイするだろう。しかし、ベツのモンダイもある。

それは、シホンシュギのシステムのモンダイだ。それはなにかというと、まえにセツメイしたとおり（●ヒャクよんジュウ『ウ』キュウ、ロクジュウな『オ』ヒャク）、リエキやチョコキンをだすと、シジョウからおかねがすくなくなることだ。それで、ブッカがやすくなると、「デフレ」という。そうすると、キギョウのギョウセキがアッカするから、チンギンもさがるし、シツギョウがでる。そういうモンダイだ。

むかしは、ガッシュウコクとシャカイシュギのソレンで、ちからくらべをしていたから、ガッシュウコクはまけるわけにはいかなかったんだらう。ドルとキンのコウカンをやめてしまった。それによって、ツウカをタクサンインサツして、リエキやチョコキンでツウカがきえたブンをキョウキュウしただらう。それによって、「デフレ」はカイショウされただらう。それで、キュウジュウネンダイにソレンがシュウリョウした。シホンシュギがかったようだが、おかねのすりすぎというモンダイがのこった。リエキやチョコキンがイッセイにシジョウにでたら、イッキにインフレになるだらう。そういうイサンがのこった。

これをカイショウしてというはなしはあまりきかない。なにかものがたかくなったとしたら、リエキやチョコキンをそのしなものにかえているということだらう。ニホンでもタニンゴとではない。キュウにキョウコウがおこるカノウセイはあろう。ソレンというセイタイはシュウリョウしたが、かならずしも、シホンシュギがかったわけではないかとおもう。

ヒャクロクジュウキュウ『ウ』ヒャクよんジュウニ

どうすれば、「チキュウオンダンカ」をとめるようにできるだらう。ひとついえなそうなのは、ものをかうばあい、ちかくでつくられたものをかうことだらう。とおくからはこぶのなら、エル（ウンドウ）イコールイー（エネルギー）わるダブリユ（シツリョウ）だから（●『ウ』ヒャクサンジュウキュウ、『ウ』ヒャクサンジュウイチ、『ウ』ヒャクニ

ジユウハチ、『ウ』ヒャクニジユウなな、『ウ』ヒャクニジユウロク、『ウ』ヒャクニジユウニ、『ウ』ヒャクジユウゴ、『ウ』ヒャクイチ、『ウ』ななジユウニ、『ウ』ロクジユウロク、『ス』よんジユウサン、『よ』サンジユウニ)、おもいものほど、エネルギーがかかる。エルをデンキとみれば(エルイコールイーエル[デンキ]より。[●『ウ』ヒャクサンジユウキュウ、『ウ』ヒャクニジユウなな、『ウ』ヒャクキュウ、『ウ』ヒャク、『ウ』ななジユウニ、『ウ』ななジユウイチ、『ウ』ロクジユウロク、『ウ』ロクジユウゴ、『ウ』よんジユウゴ])。とおくのおもいものほど、ショウヒデンリョクがおおきい。つまり、ものイドウについては、ワットなりイーアイ(わたしがかんがえたタンイ、●『ウ』ヒャクジユウゴ)であらわせるわけだ。そのスウチのひくいものをかえれば、デンキのリョウリョウがちいさいから、チキュウオンダンカをとめるのに、コウカがある。ショウヒンにねだんとイッシュヨに、つかったエネルギーのヒョウジをするといいかもしれない(●『ウ』ななジユウキュウ)。

ヒャクななジユウ『ウ』ヒャクよんジユウゴ

シホンシュギのケイザイはリエキをだすことをだめといわない。そのリエキがためこまれば、デフレになるが(●ヒャクロクジユウハチ『ウ』ヒャクサンジユウゴ、ロクジユウなな『オ』ヒャク、リエキのうらに、だれかのあかじがあってもだ[●ヒャクロクジユウロク『ウ』ヒャクジユウサン、ヒャクサンジユウハチ『ウ』イチ。)、おかねという、ジユウにできるケンゲンを、タニンにジョウトしたり(ジョウトというより、コウカンだ。)、タニンから、ジョウトされたりするのをよしとする。みんながジユウにジョウトしあっていいことになっている。

イッポウ、シャカイシュギでは、リソウテキには、コウヘイにケンゲンがブンパイされる。リエキやあかじをだすのもよしとしないだろう(コウカンは、ゆるされたりもする。)。だから、ヒンプのサがすくない(リソウテキには、ないであろう。)

しかし、そのコウヘイというブンをつきつめていくと、セイフがセイリツしない。なぜなら、セイフのトップとフツウのロウドウシャのキュウリョウがおなじだと、おそらく、どこかガイコクでカイダンをするのにつかうヒコーキのリョウリョウがはらえないからだ。オウフクでサンジユウマン、よんジユウマンエンくらいするかもしれない。フツウのロウドウシャのゲツキュウブンをイチニチのカイダンでつかいきってしまったら、タブン、そのセイフのトップはガシするだろう。

だから、まったくコウヘイなシャカイシュギというのは、ゲンジツテキにはキノウしない。そこで、セイフのニンゲンにトッケンをフヨするわけである。ゼイキンをとりたてたり、シユウザイサンをフキョカにしたり、トチをとりあげたりをカノウにする。タイホすることもできるだろう。

ソレンでは、まあまあうまくいっていたが、そういうドクサイをおこなったくにはすくない。そういうわけだから、ヒンプのサをすくなくするために、シャカイシュギでは、ドクサイがうまれるから、よろしくないとなる。

いまのニホンにシャカイシュギセイタイをホンキでヒョウボウしているセイトウはいな

いとおもうが、そっちよりのひとでも、せいぜいヒンプのサをちぢめるようなセイサクをめぐすテイドだろう。ゼンインにキソキュウフというのが、わりとあたらしいやりかただが、それがうまくいくのかはわからない。

ヒャクななジュウイチ『ウ』ヒャクよんジュウキュウ

ケイザイヤとりひきについて、ひとつのたちばがあらう。それをひとことではいば、「もうかるということはない。」である。

どういうことか。ゲンコウのやりかたでも、セイヒンには、あるテイドのホシヨウがついている。イチネンホシヨウなどだ。「もうかるということがない」やりかたでは、それをエイキュウホシヨウにする。つまり、こわれたら、シンピンとコウカンするということだ。そうだと、ケッコウなカカクにしても、もうかるということはないだろう。いつこわれてコウカンになるかわからないから、うりあげをつみたてておくようだ。

これは、ゲンコウのやりかたでも、ホケンというのがある。それをセンモンのカイシャがやるのではなく、それぞれのキギヨウがやるということである。カンゼンホシヨウだから、ユーザーはたすかる。しかし、メーカーはもうからない。メーカーがチョコセツハンバイすれば、やはり、ショウテンももうからないだろう。

このかんがえかたをすすめると、たべものがムリヨウになる。どういうことか。たとえば、ダイコンをつくるノウカは、ダイコンのセイサンにセキニンをもつ。イッポンヒャクエンでシュッカするとしよう。それをリヨウシャがヒャクエンでかう。このリヨウシャもダイコンのショウヒにセキニンをもつ。どういうことかという、それをたべたあとのウンコ（ダイコンのセイブンがはいっているであろう。●キュウジュウキュウ『ス』ゴジュウロク）を、ノウカにやはりヒャクエンでうるわけである。そして、しいれたノウカは、そのウンコをつかって、ダイコンをそだてる。そのジュンカンがつづくならムリヨウだ。ノウカはヒャクエンでうって、ヒャクエンでしいれている。リヨウシャは、ヒャクエンでかって、ヒャクエンでうっている。

たべものがムリヨウなら、ゼイタクしなければ、いきでいける。セイヒンもやはりムリヨウにできる。どういうことかという、イチマンエンのラジカセをかうとする。それでメーカーにイチマンエンはいる。ただ、それは、さきにのべたように、エイキュウホシヨウである。だから、つかいおわって、メーカーにかえせば、イチマンエンうけとれる。つまり、セイヒンがムリヨウなわけだ。ただ、ナンテンは、みずはムリヨウにできても、ガス、デンキを、いまのところムリヨウにできなさそうなテンだ。これらがムリヨウになれば、その「もうかるということはない」いきかたもできるであろう。これは、シジョウやセイフをヒテイするものではない。キギヨウなどがやればいいとおもっている。あかじのあびせあいとか、カクサはモンダイにならなくなるとおもう。

ヒャクななジュウニ『ウ』ヒャクゴジュウ

カンペキな「もうかるといふことはない」シャカイ（●ヒャクななジュウイチ『ウ』ヒャクよんジュウキウ）もかんがえられるが、それはどあいのモンダイかもしれない。サイキンのニホンジン、ガッシュウコクジンのかんがえかたをよくとりいれるが、むかしは、ノウサンヒンとウンコのジュンカンが、できていたであろう。つまり、ものがやすかったということだ。またニホンは、わりとシンライシャカイなので、ソショウもすくない。つまり、ホショウのどあいがおおきいということだ。ガッシュウコクはソショウがおいという。つまり、ホショウのどあいがちいさいということ。そのブン、もうけもおおきいだろう。

ジジツ、ガッシュウコクのキギョウのなかには、おおきいものがある。しかし、「もうかるといふばあいはゲームのヨウソがつよい。かちとまけがあるということだ。ニホンもサイバンセイドを、ガッシュウコクのようにかえはじめたが、そんなにゲームをしなくてもよいとおもう（すきなひとはやればよい。）。コウシンライで、ものがやすいというのもダイジだからだ。

デフレで、サンジュウネンケイザイセイチョウしなかったというが、ものがやすいということは、わるいことではない。そもそも、「ケイザイセイチョウ」というのはないだろう。なぜなら、チキウのシゲンはユウゲンだからだ。あったとしても、タイヨウコウのリョウだけであろう。もしくは、インフレリツのことをいっているのか、ほかのくにからとってきたシサンのおおきをさしているのだろう（ガイコクとのシサンのやりとりについては、ボウエキトウケイがある。）。

「ケイザイセイチョウ」がインフレリツとすれば、それは、ちいさいにこしたことになる。それはそれでよろこばしいことだ。コクナイソウセイサンをヒャクチョウエンふやすということは、ニジュッパーセントのインフレをタッセイしようということである（ゲンザイ、ニホンのコクナイソウセイサンはゴヒャクチョウエンテイド）。それより、ショクリョウがムリョウのホウがよくないかとおもってしまう。

ヒャクななジュウサン『ウ』ヒャクゴジュウイチ

ソレンもショクリョウがムリョウのようだったろう（●ヒャクななジュウニ『ウ』ヒャクゴジュウ）。それがなぜだめになってしまったか。インセンティブやヒキョウサンケンにあったカジョウなほどのセイヒンのせいだとおもう。

ヒキョウサンケンでは、リンジのキュウリョウなどは、トクにわるいとされない。そういうのをもらえば、ロウドウシャはフツウイジョウにはたらくであろう。ヒキョウサンケンはもうけをだすブンカだから、そこからインセンティブをだせばよい。それでは、ソレンのロウドウシャが、ヒカクテキはたらかなくなる。また、カジョウなセイヒンも、もうけをだすブンカなら、タショウもうけをギセイすればつくれる。そういうわけでソレンはまけた。だから、ダイダイテキに、ムリョウのケイザイケンをつくってもむずかしいであろう。ただ、センタクのジユウはあってもいいとおもう。

ヒャクななジュウよん『ウ』ヒャクゴジュウニ

セイヒンをつくるロウドウシャは、セイヒンをつくって、うってキュウリヨウをえる。キョウサンケンでは、シホンカはいやがられるが、さきのエイキュウホショウのセイヒンメーカーのように（●ヒャクななジュウニ『ウ』ヒャクゴジュウ）、おかねをあずかるだけだったらどうか。それでは、リエキはでない。そういうショクシュをシホンロウドウシャといおう。

ばあいによっては、いまのニホンのギンコウのように、ゲンゾンするだろう。そのひとたちはどうやってたべていけばいいか。いま、よくあるやりかたは、おかねをウンヨウすることであろう。それでネンにサンパーセントのあがりでもだせば、シホンロウドウシャはたべていける。そのほかのやりかたは、いまのところわからないから、ウンヨウもあくではないとおもう。ただやはり、ウンヨウさきにあかじ（ウンヨウのくろじのブン）がでる。

ヒャクななジュウゴ『ウ』ヒャクゴジュウロク

ニホンキギョウのつくったセイヒンが、それほどカイガイでうけなくなっている。それを、「めずらしいいきものいるしまのようだ。」などというひともある。ようするに、ニホンコクナイだけで、あるセイヒンなどがショウヒされているということだ。ニホンは、ヤクイチオクのシジョウである。

センゴ、ニホンがフッコウしてから、ガッシュウコクのサンオクのシジョウでもがんばったらしい。チュウゴクがシジョウケイザイにきりかえたあとは、ガイコクのキギョウがチュウゴクで、セイヒンをつくるようになった。チュウゴクは、ジュウオクのシジョウである。そこでうれれば、おおきい。ニホンのジュウバイのシジョウだからだ。

もっとおおきくみると、チキュウジョウのななジュウオクというシジョウがある。そのなかで、まあ、おかねにヨユウがあるのは、ハンブンテイドだろう。サンジュウオクのシジョウだ。ザンネンながら、ニホンキギョウのタイハンは、ジュウオクのシジョウでも、サンジュウオクのシジョウでもショウブできていない。せいぜい、イチオクとサンオクのシジョウである。それをヒにすると、ジュツタイイチである。つまり、ジュウオクのシジョウとサンジュウオクのシジョウでがんばっているキギョウとくらべると、ギョウセキは、ジュウブンのイチになる。それでは、さがつくだけであろう。だから、セカイのキギョウのギョウセキランキングに、あまりニホンキギョウはでてこない。やはり、ジュウオクのシジョウやサンジュウオクのシジョウでがんばれるようにするのがダイジだろう。

ヒャクななジュウロク『ウ』ヒャクロクジュウロク

まえにいったように、いまは、オンガクがひとりイチジカンあたりイチエンのジダイだ（●ヒャクロクジュウニ『ウ』ハチジュウなな、ななジュウキュウ『オ』ヒャクサンジュ

ウハチ)。だから、イチニチイチジカンだけつくっておわりとか、イチジカンだけひいておわりでは、まともにかせげないだろう。イチジカンだったら、あとはみるひとのかずだ。センニンみれば、センエン。これは、よくあるアルバイトのジキュウとおなじくらいだ。ということは、サイテイハチジカンは、サッキョクなり、エンソウしないと、ひとなみにかせげないとなる。

キャクがセンニンいれば、めでたくハッセンエンとなる。これがつづけば、ロウドウシヤなみにかせげるだろう。わたしはいままできづかなかったが、これが、フツウのオンガクのしごとのありかただとおもう。イチニチにニジカンだけエンソウしてくていけるほどあまくはない。それはユウメイなミュージシャンだからツウヨウする。それがわたしはわからなかった。

ユウメイなミュージシャンでも、いまでは、それはむずかしいだろう。ようするに、キャクをセンニンイジョウカクホして、イチニチハチジカンは、サッキョクなり、エンソウしろというはなしである。フツウのロウドウシヤは、それをやっている。ようするに、あそびにんとかロックンロール（フリョウ）では、つとまらないのである。

キャクがゴヒャクニンなら、ジュウロクジカン、サッキョクなり、エンソウしろである。それで、オンガクカとしていちにんまえだろう。そうやってはたらくなら、ハチジカンのキョクもできそうなきがする。

あなたのサクヒンのカソウうりあげは、キャクスウ かける ロクジュウブンのエックス（キョクのながさ）（かける ゼットキョクのかず）ででるわけだ。それで、くていけないとおもうなら、やめればいい。

いまは、ドラマもアニメもそうなりつつある。ソウトウきびしいのではとおもう。オンガクなども、コウリツがジュウシされるジダイかもしれない。わたしなんかだと、イチジカンにジュッキョクつくらなければ、たべていけないだろう。それでジドウカすると、エーアイなどに、まけてしまうカノウセイがおおきい。オンガクでたべていくには、きびしいジダイだ。

ヒャクななジュウなな『ウ』ヒャクななジュウキュウ

「コストサクゲン」のようにいわれることがある。マイツキよんサツのホンをよむひとのコストは、つきロクセンエンくらいだ。それをニジュウジカンでよんだら、ジカンあたりサンビャクエンとなる。センエンブンのむのみカイをイチジカンできりあげたら、ジカンあたりセンエンだ。イッショクとしてはまずまずのねだんだろう。

わたしがオンガクをつくるのについやすのは、ジカンあたりおよそジュウエンである。ホンをよむのよりやすい。また、ホンをかくのには、ジカンあたりおよそサンエンをついやしている。これはやすいホウだ。コストサクゲンというわけで、このレンキュウはどこにもいかなかった。リョコウしたら、イチジカンあたりセンエンはかかる。テレビゲームもやすいホウだろう。ロクセンエンのゲームをひとつやっていたら、ロクジュウジカンやれば、ジカンあたりヒャクエンである。なるほど、ホんがうれなくなるわけだ。しかし、テイガクセイのオンガクやドラマみホウダイをシチョウすれば、イチジカンあ

たりイチエンとなる。さすがにこれにはかなわない。やすくしすぎのような気がする。あるカイシャのジムシヨクインは、デンシャにのってカイシャにかよう。つきにイチマンゴセンエン、コウツウヒがかかる。それは、イチニチにハッピークエン、ジカンあたりヒャクエンだ。うりあげがよければ、たいしたモンダイではないだろうが、わたしのオンガクをつくるコスト、ジュウエンや、ホンをつくるコスト、サンエンにくらべれば、おおきい。

もし、わたしがあるカイシャのジムサギョウを、ショルイイチマイあたり、ジュウエンでジュウマイひきうけてしごとをしたら、ジムシヨクインがするおなじイチマイジュウエンのジュウマイのしごととくらべて、コストキョウソウでかっってしまう。ジュウエンのコストとヒャクエンのコストということだ。ヒャクマイひきうけてもハチジュウエンとハッピークエンである。

こういうリユウで、しごとをギョウムイタクしたり、ザイタクキンムをさせたりするのは、コストサクゲンになるとおもう。

ヒャクななジュウハチ『ウ』ヒャクハチジュウハチ

カセキネンリョウをつかって、ハツデンすれば、トウゼンねつがでる。そのねつをひやすためにつめたくしても、やはり、カセキネンリョウにたよるようだ。ゲンパツにしてもねつをだす。そうすると、やはりチキユウがあたたかくなる。それなら、ねつをださないようなハツデンハウハウとか（フウシャなど）、あるねつからハツデンする（チネツハツデンなど）のがいいかもしれない。

ニホンジンのいくらかは、またゲンパツをすすめたがっているが、やはり、ねつをだすことにはかわりがない。そういうおもわくがあるから、「ニサンカタンソがふえると、チキユウがあたたかくなる。」といったケントウちがいのセツになってしまうのかもしれない。

なにかをもやすから、ねつがでて、「ニサンカタンソもでて」、チキユウがあったかくなるであろう。そういうねつのメンからみれば、（ニサンカタンソはださないかもしれないが）、ゲンパツはねつをだす。だから、だめであろう。いまあるねつを、ユウコウにカツヨウできたらとおもう（イーエル [デンキ] イコールダブリュエー [あたたかさ] わるダブリュ [シツリョウ] である。●『ウ』ヒャクよんジュウイチ、『ウ』ヒャクニジュウキユウ、『ウ』ヒャクニジュウハチ）。

ヒャクななジュウキユウ『ウ』ヒャクキユウジュウ

サンジュウネンほどまえまで、ニホンとガッシュウコクは、ロウドウセンソウをしていたといえるかもしれない（『ウ』ヒャクハチジュウなな）。モジどおり、ロウドウのセンソウである。なぜ、これがおこるか。それは、セイフのフサイがおおきいからである。いまやニホンでも、セイフフサイがセンチョウエンをこえた。ガッシュウコクでは、ギョ

ウセイキカンをしめているという。

センチョウエンはセイフのシャッキンだが、ミンシュシユギなら、コクミンのシャッキンともいえる。これをかえそうとしたら、コクミンがおかねをだすか、はたらくということになるだろう。ニホンのコクナイソウセイサンが、ゴヒャクチョウエンだから、コクミンゼンインが、ニネンカンただばたらきをすれば、かえせるということだ。

ガッシュウコクもそうやっておさめられる。サイキンになって、チュウゴクもロウドウセンソウにくわわった。つまり、シャッキンをかえすために、ニホンジンもはたらくし、ガッシュウコクジンもはたらくし、チュウゴクジンもはたらくということだ。ヨーロッパでは、ほとんどセイフフサイがないから、これらをにがにがしくおもっているだろう。こういうジョウケンがあるから、ニホンジンはゆっくりできないわけである。

ヒャクハチジュウ『ウ』ヒャクキュウジュウイチ

わたしはイゼン、ものがあればあるだけ、ゆたかだとおもっていた。しかし、ものがふえると、イジするロウドウリョクがかかる。そのロウドウリョクをセツヤクしたければ、もつものをふやさないホウがいいとおもうようになった。だから、ヒツヨウなものイガイあまりかわなくなった。しごとがふえるでは、おもしろくないからだ。かうまえに、それをかんがえるといいだろう。

ヒャクハチジュウイチ『ウ』ヒャクキュウジュウサン

フツウのひとは、もしかしてかねもちになれたらいいぐらいに、かんがえてはいないか。しかし、それはむずかしいだろう。ヨーロッパがイセイのよかったジダイのイチリュウサッキョクカでも、タショウうまいものをたべたぐらいらしいからだ。そのひとのなは、モーツァルトである。

モーツァルトは、ロツピャクキョクイジョウのこしたダイサッキョクカである。オウにこわれてキョクをかいたのだろう。それでも、アパートにくらしていたという。いまのニホンのサラリーマンはそれイジョウのセイカツをしていないか。だとしたら、それはほぼゆめである。

モーツァルトぐらいにヒョウカされているひとはめずらしいであろう。むかしとくらべて、いまはケイザイがよくなったというかもしれないが、セキタン、セキユがみつかったぐらいで、デンキをつかうようになったぐらいである。そのセキユは、ほとんどコクナイではとれない。だとしたら、ユニユウするブンまずしくなるのである。

それなのに、なぜ、モーツァルトイジョウのくらしをサラリーマンができるのか。トウジのヨーロッパのように、ショクミンチでもうけたり、ボウエキでもうけているのだろう。そのカンケイシャはいくらしができるだろう。でも、がんばっても、モーツァルトぐらいというのが、たっだしいみかたでは、ないだろうか。

ヒャクハチジュウニ『ウ』ヒャクキュウジュウなな

チキュウオンダンカがモンダイとされる。ねつをデンキに（イーエル [デンキ] イコール
ダブリュエー [あたたかさ] わるダブリュ [シツリョウ]。●ヒャクななジュウハチ『ウ』
ヒャクハチジュウハチ、『ウ』ヒャクよんジュウイチ、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、『ウ』
ヒャクニジュウハチ）かえているのだから、あつくなるイッポウあろう。ハツデンしたり、
ダンボウをつかったりというぐあいにである。

それをとめるには、ねつやデンキのリョウをひかえなくてはならないだろう。チキュウ
にながくすみたかったら、そうするだろう。しかし、センジュツのロウドウセンソウ（●
ヒャクななジュウキュウ『ウ』ヒャクキュウジュウ、『ウ』ヒャクハチジュウなな）がそ
れをすることをよしとしない。ようするに、チキュウジンのヘイワより、それをやって
いるくにのリエキがユウセンされるわけである。これをどうかんがえるか。

たしかに、ねつがあがれば、ケイザイカツドウもおおきくなるだろう（エル [ウインドウ]
イコール ダブリュエー わるダブリュ、●『ウ』ヒャクキュウジュウゴ、『ウ』ヒャクハチ
ジュウよん、『ウ』ヒャクニジュウキュウ、『ウ』ヒャクニジュウハチ、『ウ』ヒャクジュ
ウロク、『ウ』ヒャクジュウゴ）。トクにそれがおおきいくにもある。ジュウハチセイキ
は、エイコクのジダイなら、ニジュツセイキは、ガッシュウコクとニホンのジダイかも
もしれない。ニジュウイッセイキはチュウゴクのジダイというひとがいるかもしれないが、
それはあったとしても、もうおわってしまったようだ。いまは、ヨーロッパのジダイで
はないか。

ヒャクハチジュウサン『ウ』ニヒャクイチ

センシンコクのニンゲンはやくにたっていないのではとかいた（●『ウ』サンジュウニ）。
シジョウでは、やくにたつものがうれつづける。だが、センシンコクでは、こどものか
ずがへっている。センシンコクのこどもないし、おとなはやくにたっていないのではと
いうことだ。

なぜ、センシンコクのひとは、やくにたっていないのであろう。それは、ロウドウセンソ
ウをするからだといえるかもしれない（●ヒャクハチジュウニ『ウ』ヒャクキュウジュ
ウなな、ヒャクななジュウキュウ『ウ』ヒャクキュウジュウ、『ウ』ヒャクハチジュウな
な）。むかしのことばでいえば、「サクシュ」だ。ロウドウセンソウとは、ほかのくにに
まけないように、はたらくことである。つまり、シジョウでユウイにたとうとする。ト
クに、セイフフサイがおおいと、それをやめづらい。いつかのジテンで、だれかがしは
らわなければならないからだ。

また、いまのイッパンテキなショウバイでは、リエキをだすことをよしとする。つまり、
そのクロジのブン、だれかがソンシツ、あかじをだすわけだ。しかし、イッパンテキに
は、それにモンクをいわない。そういうゲームである。クロジをだすのがうまいひとは
いいが、クロジをだすのがへたなひとはかせげない。フクシなどがあるが、それなら、そ

ういうゲームをやめてもいいはずだ。センシンコクのこどもがへっているということは、そのゲームがよくないからだとおもう。やくにたつセイヒンをつくって、うっても、リエキをだすわけだから、それはそんなにすばらしいことではない。つまり、ニンゲンがあまりやくにたっていないのではとおもえる。

あとがき

やってみるかときかかし、ホンショをヘンシュウしおえた。これまでロクサツだして、そのなかからイッサツにまとめたわけだから、これまでかいたズイヒツのロクブンのイチは、ケイザイガクがらみのギロンだったことになる。ケッコウなブンリョウだとおもう（ちなみに、おなじくロクブンのイチは、ブツリガクである。）。ズイヒツなので、いろいろなシュダイでかくが、これだけのブンリョウにタツするとはおもわなかった。

ジュウネンほどまえにケイザイガクのホンをかこうとおもい、いま、トウショとはベツのかたちでカンセイした（もっといって、サンネンほどまえにもきかした。）。また、コウモクベツにまとめなおしたいとおもうが、いつそれができるかわからない。いまは、とりあえず、わたしのシッピツのはげみとなるドクシャのかたがたにカンシャしたい。また、わたしをそだててくれたわたしのリョウシンにもである。カッターリユウをつらぬいて、もうしわけないメンもあるが、わたしのかんがえたことが、なにかのサンコウになればとおもう。

ニセンジュウキュウネンクガツサンジュウニチ はれ

ものみダイからのケイザイガク
エイゾウ

ニセンジュウキュウネンクガツサンジュウニチ
ニセンニジュウネンゴガツニジュウシチニチ
ニセンニジュウイチネンジュウガツニジュウキュウニチ

iii toga db008-3

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオ
ドシーオーエム
ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオド
シーオーエム

『ものみダイからのケイザイガク』

著 エイゾウ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
